リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅠ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0011-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月～木曜日の8:30～9:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目です。
本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、学習方法、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。
ホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この講義は全体で行う講義と、各専攻で行うホームルームがあります。
シラバスの講義順が変更になることがあります。

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,O-1,S-3,R-1

(方法)

この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやデスカッションを行います。
また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義します。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。
・大学生活に必要な知識を修得する。
・目標を達成させるための手段を身につける。

【行動目標(SBO)】

・大学生として必要な行動ができるようになる
・集団活動の中で協調した行動が実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて、資料を配布

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
出席点は評価に含みません。
試験は行わず、レポート、成果発表にて評価を行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			30	30	100
評価指標	取り込む力・知識			20			6	15	41
	思考・推論・創造の力			10			6		16
	コラボレーションとリーダーシップ						6		6
	発表力						6		6
	学修に取り組む姿勢			10			6	15	31

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 自己紹介	講義 アクティブラーニング	配布資料	15分
2	学生生活について 大学で学ぶ準備 成人年齢の引き下げについて	講義 アクティブラーニング	配布資料	15分
3・4	大学生活 動機付け	講義 アクティブラーニング	配布資料	15分
5・6	大学生活 学習方法・ノートの取り方	講義 アクティブラーニング	配布資料	15分
7・8	租税教室	講義	配布資料	15分
9・10	明るい選挙	講義・演習	配布資料	15分
11.12	交通安全・薬物	講義	配布資料	15分
13・14	図書館の利用方法。文献検索	講義	配布資料	15分

15・16	医療従事者の心得 職業倫理	講義 アクティブラーニング	配布資料	15分
17・18	消費者教育	講義		
19～30	ホームルーム	講義・演習		

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅡ			【担当教員】	若菜　翔哉
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	wakana@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。
・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。
　秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オリエンテーションで説明する。

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2

(方法)

少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をレポートとしてまとめる。

【一般教育目標(GIO)】

・今後の地域課題を理解する。
・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。

【行動目標(SBO)】

・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。
・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・出席点は評価に含みません。
・成績評価は、レポートにより評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	100	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ			5					5
	発表力			5					5
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	オリエンテーション グループ分け	・講義：若菜 ・演習：若菜	地域のイベント・ボランティアを理解し、どこに参加するかを検討しておくこと。	15
3〜28	イベント・ボランティア参加	・演習 ・実践	イベント・ボランティアの内容を理解し、積極的に参加するための心構えを考えること。	60
29、30	参加報告（ゼミ単位）	・演習	発表にむけた準備を行うこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床倫理学			【担当教員】	村井　絹子、山村　千絵
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1－01－0000－2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)月・水8：30～17：30（保健室）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、医療現場の倫理的課題を取り上げ、どのようなことが倫理的視点から問題となるのか提示し考えていきます。看護に従事した経験から、実際に臨床現場で起きている身近な倫理問題を通して、一人ひとり異なる価値観を理解し、自分の考えを広め、思索することができるように講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストにそって講義を行います。
講義を聞き、知識・考えを広め、自分の考えを自由記述でまとめる過程で学びを深めていきます。
課題は期限内に提出してください。
試験・課題については、必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

医療従事者には、一般の人より多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場の倫理的問題を思索し、実践するための知識を深め、自己啓発に向けて修養することを目的としています。加えて、将来臨床現場に従事する学生として、生命倫理を中心に、現代医療をめぐる倫理的諸問題の題材を多角的に捉え、視野を広げる機会となることを目指します。
当該科目と学位授与方針との関連性：A-1

(方法)

主として教科書を中心に、パワーポイントを使用して講義を行います。
内容については、指定教科書に準じます。
関連資料がある場合は配布します。

【一般教育目標(GIO)】

・将来、医療に関わる専門職としての倫理観を深め、「なぜ今、医療において倫理が問われるのか」「患者の人権や自律の尊重がなぜ必要なのか」について理解する。
・一人ひとりが異なる価値観を有する他者の気持ちを理解し、柔軟な思考と態度を養い「医の倫理」の知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

・医療における原理・原則について説明できる
・「倫理とはなにか」自分の言葉で述べることができる
・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べることができる

【教科書・リザーブドブック】

教科書：伏木信次、生命倫理と医療倫理第4版、金芳堂出版、2020年、￥2,700（税別）

【参考書】

雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理　河出書房新社
伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門　名古屋大学出版会
塩野寛他著、生命倫理への招待改訂6版　南山堂

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。
・成績評価は、期末試験及び課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション 医療の歴史と倫理問題の提起 倫理的問題の具体的現状	講義	予習：教科書P.7～P.13 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
3.4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パターナリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	講義	予習：教科書P.23～P.35 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
5.6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報の保護と倫理	講義	予習：教科書P.202～P.229 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
7.8	生命誕生のあらまし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	講義	予習：教科書P.62～101 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
9.10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	講義	教科書P.131～P.143 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
11.12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ・ケア（終末期医療） 安楽死と尊厳死	講義	予習：教科書P.104～P.115 教科書P.116～P.130 教科書P.144～P.145 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
13.14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	講義	予習：教科書P.154～P.165 教科書P.230～P.240 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる	講義	予習：身近な臨床倫理問題を調べる 復習：課題レポート（まとめ）	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	地域文化論			【担当教員】	桑原　猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0005-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kuwabara@kbe.biglobe.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 学務課で対応(9:00～17:00)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特に無し

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。

【行動目標(SBO)】

毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。

【教科書・リザーブドブック】

教科書　　桑原猛　　地域文化論ノート『地域文化』　自費出版　　2021　　¥1,500(税込)

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	15		15					30
	思考・推論・創造の力	30		30					60
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	5		5					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	講義概要のガイダンス 城下町として発展してきた町。そこで培われて地域の歴史と文化は現在も生き続けている。ここでは村上城下の近世から現代までの変遷の中で城下町の機能、果たしてきた役割について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
3-4	城下町には、武家町と町人町があり、それぞれ特性を有していた。ここでは武家の住宅(屋敷)と町人地の住宅(町家)の比較から、町家の構造・特徴について考える。また、村上城下の通り名などから昔と現在の比較を行う。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
5-6	村上城下の祭　羽黒神社例大祭(村上大祭)と七夕祭・獅子舞などの歴史と、村上の伝統行事・地域文化を通して連綿と受け継がれてきた人々の思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
7-8	村上のお茶・村上漆器　村上の伝統産業としての村上茶と村上木彫堆朱の歴史と地域に及ぼしてきた物心両面から、地域文化として形成され根付いてきた背景をたどり、人々思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内のお茶屋や堆朱販売店などを訪ねる。 「地域文化論ノート」による学習	90
9-10	村上の鮭　村上は古代から鮭とのつながりの深い町であり、村上独自の鮭文化を形成してきた。その鮭文化の原点ともいえる「種川の制」などを考証することによって、村上の人々の鮭への思いやこだわりについて考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) いよぼや会館を訪ね実際の鮭の静態を監察する。 「地域文化論ノート」による学習	90
11-12	村上に残る「九品仏」の由来などを通して、九品仏とその配置から鬼門鎮護の思想、及び「お地蔵様」と民衆信仰について考える。 村上に残る地蔵様と地蔵様祭りを通して、庶民の身近な進行としての地蔵様を考える。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
13-14	地域の記憶と地域文化　地域文化は地域の記憶として過去から現在へそして未来へ受け継がれていくことが大切である。そのためには、地域文化の持つホスピタリティ性が理解されなければならないという点から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
15	地域文化と介護　地域文化の持つホスピタリティと介護との関係を、地域の人とのコミュニケーション形成のという面から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90

リハビリテーション学科

【科目名】	日本語表現法			【担当教員】 上松　恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。

【講義概要】

(目的)

正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2

(方法)

基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する
・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる
・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する

【行動目標(SBO)】

・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる
・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる
・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる

【教科書・リザーブドブック】

上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）

【参考書】

講義内で適宜資料を指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、
出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンラインの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法について－どのような方法でまとめ、どう考察するのか－	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方１ 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方２ 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	レポートの書き方３ 正しい日本語を使った発表の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	インターネットにおける日本語表現とスキル	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0036-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。
※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。
②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。
③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。
④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。
授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。
理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。

【一般教育目標(GIO)】

人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。
人の心のはたらきはどのようにして客観的に把握されるのかを知る。
心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。
心理学の学びから、将来の理学療法士として、患者様やご家族様等との適切なコミュニケーション能力を培う。
保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームの中でのコミュニケーション能力を高める。

【行動目標(SBO)】

科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。
対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。
各領域における心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。
「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ“（感情や態度）を自己コントロールできる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2,　2,900円＋税, ISBN978-4-263-42223-6

【参考書】

フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」 金剛出版, 2015/9/25, 24,200円（税込）
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1,942円＋税
繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含まない。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	第１章「知覚」 知覚成立の基礎 ・感覚器官と適刺激 ・刺激の閾値 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p. 2-5 ・知覚はどのように成り立っているのかを知る	15
2	第１章「知覚」 知覚の体制化 ・図と地 ・恒常現象	講義 一部演習	指定教科書p. 5-9 ・知覚成立の特徴を知る	15
3	第１章「知覚」 知覚の諸相 ・錯視 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p. 10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する	15
4	第１章「知覚」 社会的知覚 ・欲求と価値 ・知覚的防衛 ・臨床応用	講義 一部演習	指定教科書p. 12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する	15
5	第２章「学習・記憶」 ・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・条件づけの臨床応用	講義	指定教科書p. 15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	15
6	第２章「学習・記憶」 ・観察学習 ・自己効力感	講義 一部演習	指定教科書p. 19-20 ・社会的行動における観察学習の重要性を理解する	15
7	第２章「記憶・記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p. 20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理解する ・記憶の測定法を学ぶ	15
8	第２章「記憶・記憶」 ・忘却のメカニズム ・記憶の歪み ・記憶障害の病理	講義 一部演習	指定教科書p. 24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	15

9	第３章「動機づけ」 ・動機づけの定義 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p.27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	15
10	第３章「動機づけ」 ・欲求 ・自己効力感/学習性無気力 ・セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	15
11	第４章「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義	指定教科書p.39-45 ・感情発生の機序を知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	15
12	第４章「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス ・ストレス・コーピング	講義 一部演習	指定教科書p.45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	15
13	第12章「精神的健康」 ・WHO「健康」の定義 ・心の健康を測定する ・抑うつ/不安/ストレス尺度	講義 一部演習	指定教科書p.150-153 ・心が健康な状態を理解する ・心の健康が損なわれているサイン（兆候）を知る	15
14	第14章_4「健康心理学」 ・タイプA行動と特定疾患/寿命への影響 ・行動特性の修正（認知行動療法等）	講義 一部演習	指定教科書p.188, p.202	15
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・傾聴と共感	講義	・人の心の基本的な仕組みとその働き、心の不適応状態を説明できる。 ・「優しい目、大きな耳、小さい口、広いこころ」を身につける。	15

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0037-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。
※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。
②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。
③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。
④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。
授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。
理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。

【一般教育目標(GIO)】

人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。
人の心のはたらきはどのようにして客観的に把握されるのかを知る。
心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。
心理学の学びから、将来の理学療法士として、患者様やご家族様等との適切なコミュニケーション能力を培う。
保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームの中でのコミュニケーション能力を高める。

【行動目標(SBO)】

対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。
心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。
「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ“（感情や態度）を自己コントロールできる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2,　2,900円＋税, ISBN978-4-263-42223-6

【参考書】

フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳) 「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版, 2015/9/25, 24,200円(税込)
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1,942円＋税
繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含まない。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	第５章「パーソナリティ」(1) ・パーソナリティの記述	講義	指定教科書p.54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学ぶ	15
2	第5章「パーソナリティ」(2) ・パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p.60-63 ・パーソナリティはどのように測定されるのかを学ぶ	15
3	第５章「パーソナリティ」(3) ・演習：性格検査	講義 一部演習	指定教科書p.60-61 ・パーソナリティを適切に測定し、評価できる	30
4	第５章「パーソナリティ」(4) ・パーソナリティの異常と障害	講義 一部演習	指定教科書p.63-65 ・パーソナリティの障害を説明できる	15
5	第6章「知能」(1) ・知能の定義 ・知能の構造	講義	指定教科書p.68-71 ・知能検査開発の歴史的経緯を知る ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	15
6	第6章「知能」(2) ・知能の測定 ・知的能力障害（知的発達症）	講義	指定教科書p.71-79 ・知能はどのように測定されるのかを学ぶ ・知的発達症の定義（基準）と適切な対応法を学ぶ	15
7	第7章「思考」(1) ・思考とは？ ・概念 ・問題解決	講義	指定教科書p.82-86 ・「考えるとは？」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略（思考）を知る	15
8	第7章「思考」(2) ・推論 ・創造性 ・創造的思考力の開発	講義 一部演習	指定教科書p.86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを学ぶ ・創造性を開発する手法を理解する	15

9	第10章「人間関係」(1) ・対人認知 ・帰属理論	講義	指定教科書p.126-131 ・他者の印象形成につて学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとらえ方について知る	15
10	第10章「人間関係」(2) ・対人魅力	講義 一部演習	指定教科書p.131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	15
11	第11章「集団」(1) ・集団の心理 ・社会的影響	講義	指定教科書p.136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	15
12	第11章「集団」(2) ・態度 ・流行と流言	講義	指定教科書p.143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・個人の欲求と社会現象との相互関係について理解する	15
13	第14章「心理学の応用分野」(1) 「災害心理学」より ・被災者の心理状態 ・ASD/PTSDへの対応	講義	指定教科書p.194-196 ・被災者への適切な対応、心のケアを学ぶ	15
14	第14章「心理学の応用分野」(2) 「産業・組織心理学」より ・ライフ・キャリア・レインボー	講義 一部演習	指定教科書p.196-197 ・各自のキャリア・レインボーを描く ・職業アイデンティティの確立	30
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・質疑応答	講義		15

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅰ			【担当教員】	加藤　真由美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0030-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。
＊1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。
教科書代わりとなる資料を配布する（Teams）。
小テストおよびレポートの結果については、Teamsを通してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。
特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。

【一般教育目標(GIO)】

行動科学は学際性の高い学問であることを知る。
心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。
各講義で説明したトピックを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書代わりとなる資料を配布する（Teams）。

【参考書】

山田冨美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、￥1,900（税別）
津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、￥2,400（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			21	79					100
評価指標	取り込む力・知識		21	60					81
	思考・推論・創造の力			19					19
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅰ」まとめ	講義	講義ノートの完成	90

		試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅱ			【担当教員】	加藤　真由美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0035-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。
＊1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。
教科書代わりとなる資料を配布する（Teams）。
小テストやレポートの結果は、Teamsを通してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。
特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料（Teams）を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。

【一般教育目標(GIO)】

行動科学は学際性の高い学問であることを知る。
心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。
各講義で説明したトピックを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書代わりとなる資料を配布する（Teams）。

【参考書】

山田冨美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、￥1,900（税別）
津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、￥2,400（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力	10	10						20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅱ」まとめ	講義		45

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅰ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、生活習慣病の病態、予防、介入法について講義します。また、健康を維持・増進するために必要なスキルや理論について解説します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

本科目では、生活習慣病をはじめとした具体的な疾患の病態や予防法に加え、健康を維持・増進するためのさまざまな概念を取り上げて、事例を交えながら解説します。

【講義概要】

(目的)

現代病ともいわれる生活習慣病について、発症のメカニズムや予防法、治療的介入法について理解することを目的とする。また、健康を維持・増進するための概念やスキルについて理解することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。授業回によっては事例検討を組み入れて進行する。

【一般教育目標(GIO)】

現代社会に蔓延する生活習慣病の実態について理解できる。
健康を維持・増進するために必要な個々人の能力について理解できる。

【行動目標(SBO)】

生活習慣病の成り立ちやその予防、治療的介入法について説明できる。
健康を維持・増進するための種々の概念、スキルについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

授業資料を毎回配布します。

【参考書】

日本健康心理学会（編)／健康心理学事典／丸善出版／2019年／22,000円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・小テストと定期試験を実施する。
・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	オリエンテーション ストレスマネジメント	講義	講義プリントの復習 ストレスに曝された時のセルフコントロールについて理解する。	１２０
３・４	燃え尽き症候群（バーンアウト）	講義	講義プリントの復習 対人援助職によく起こり得る精神衛生上の問題とそれに対する対処について理解する	１２０
５・６	生活習慣病（１）糖尿病	講義	講義プリントの復習 糖尿病の発症のメカニズムと糖尿者の心理行動的問題について理解する	１２０
７・８	生活習慣病（２）肥満症	講義	講義プリントの復習 肥満症の病態と肥満者の心理行動的問題について理解する	１２０
９・１０	生活習慣病（３）COPD	講義	講義プリントの復習 たばこ病ともいわれるCOPDの病態と治療的介入としての呼吸リハビリテーションについて理解する	１２０
１１・１２	ヘルスコミュニケーション	講義	講義プリントの復習 健康増進に有用な医療者-患者間のコミュニケーションのあり方について理解する	１２０
１３・１４	ヘルスリテラシー	講義	講義プリントの復習 健康情報を正しく入手してQOLの向上に活かすためのスキルについて理解する	１２０
１５	まとめ	講義		１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅱ			【担当教員】	長谷川　裕、藤本　聡
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0005-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com（藤本）、 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com（長谷川）	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日　13:00～13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療者として、健康に対する意識を高める科目です。
社会と健康Ⅰを受講していること。
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目は、実務経験者対応科目である。
レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。課題の提出期限は守ってください。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、R-1,2

【講義概要】

(目的)

人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、
その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。

(方法)

社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。

【教科書・リザーブドブック】

資料を必要に応じて配布

【参考書】

資料を必要に応じて配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法（講義・演習、教員、教室など）	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	オリエンテーション 認知症予防の施策	講義（対面）・藤本	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
3, 4	認知症養成サポーター（１） 認知症サポーター養成講座の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
5, 6	認知症養成サポーター（２） 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
7	認知症の方への対応方法（１） 「二本の傘」の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
8, 9	認知症の方への対応方法（２）	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
10, 11	高齢者の社会参加と生き甲斐について	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
12, 13	認知症カフェを通しての具体的な方法（１） 本学のカフェの紹介	講義（映像視聴）・長谷川	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
14, 15	認知症カフェを通しての具体的な支援方法（２） 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅰ			【担当教員】	向田　怜史
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0010-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木　12：40-13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要です。可能な限り受講するのが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

筆記用具を必ず持参してください。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。
当該科目と学位授与の関連性：A-1、A-2

(方法)

授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。
本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

法学について説明出来る。
憲法について説明出来る。
憲法の基本的な考え方に基づき人権について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会　法学－権利擁護と成年後見制度、へるす出版　２，３１０円(税込)
野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、２０１１年、￥２，５００円（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	日本国憲法の基本原理・基本的人権	講義	日本国憲法とは何か、インターネットや文献などで予習。	90分
３・４	日本国憲法の基本原理・人権各論 生命・自由および幸福追求権	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
５・６	日本国憲法の基本原理・人権各論 法の下の平等	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
７・８	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(1)	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
９・１０	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(2)	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１１・１２	日本国憲法の基本原理・人権各論 経済的自由権	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１３・１４	人権各論 身体・生命の自由(人身の自由)	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１５	今までの振り返り	講義	今までの資料を復習しておくこと。	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅱ			【担当教員】	向田　怜史
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0072-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・法律と医療Ⅰを履修すること。
・医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

筆記用具を必ず持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。
当該科目と学位授与との関連性：A-1、A-2

(方法)

授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。
本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

法律と医療の関連性について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

安藤秀雄ほか、これだけは知っておきたい医療事務101法最新医療関連法の完全知識、医学通信社、２０２２年、３，２００円（税別）　野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、２０１１年、￥２，５００円（税別）精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会　法学－権利擁護と成年後見制度、へるす出版　２，３１０円(税込)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	民法の理解 契約・不法行為	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
３・４	民法の理解 親族・相続	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
５・６	行政法の理解	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
７・８	医療契約の基礎 医療契約・医療事故・医療過誤	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
９・１０	個人情報保護法	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１１・１２	医療と契約	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１３・１４	脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
１５	今までの振り返り	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅰ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0020-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:00～15:00（火曜日・水曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。

【講義概要】

(目的)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。
人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

講義は、PowerPointを使用する。
講義資料は、事前に配布する。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなる資料を配布する。

【参考書】

深田 博己（1999）コミュニケーション心理学―心理学的コミュニケーション論への招待．北王路書房．
山田 一成・結城 雅樹・北村 英哉（2007）よくわかる社会心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）．ミネルヴァ書房．

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

定期試験60%、小テスト40%（出欠確認を兼ねる）の配分で評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力		10						10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション コミュニケーション心理学とは	授業	配布資料を読む	240
3-4	社会的認知1：印象形成とスキーマ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5-6	社会的認知2：ヒューリスティック	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7-8	社会的認知3：帰属過程	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9-10	自己を表現するコミュニケーション1：自己開示	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11-12	自己を表現するコミュニケーション2：自己呈示	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13-14	自己を表現するコミュニケーション3：自己主張性	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15・試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅱ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0025-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:00～15:00（火曜日・水曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。

【講義概要】

(目的)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。
人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

講義は、PowerPointを使用する。
講義資料は、事前に配布する。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなる資料を配布する。

【参考書】

深田 博己（1999）コミュニケーション心理学―心理学的コミュニケーション論への招待．北王路書房．
山田 一成・結城 雅樹・北村 英哉（2007）よくわかる社会心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）．ミネルヴァ書房．

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

定期試験60%、小テスト40%（出欠確認を兼ねる）の配分で評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力		10						10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	集団におけるコミュニケーション1:集団の形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3-4	集団におけるコミュニケーション2:集団凝集性	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5-6	集団におけるコミュニケーション3:同調行動・態度変容	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7-8	集団におけるコミュニケーション4:権威の服従	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9-10	集団におけるコミュニケーション5:対人説得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11-12	集団におけるコミュニケーション6:親密な他者との関係	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13-14	集団におけるコミュニケーション7:家族との関係	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15・試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ⅰ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校数学の基礎知識（Σの意味など）を有していることが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

本科目では講義に加えて演習を取り入れて統計学の実際を学びます。種々の統計値の計算において電卓を使ってその算出方法を練習します。演習を通して統計学的な数値がどのようなプロセスで算出されているのか理解を深めます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓（√機能のついた電卓）を持参してください。

【講義概要】

(目的)

保健医療分野において求められる統計学的な考え方や基礎的な統計学的手法を理解することを目的とする。
本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。

【一般教育目標(GIO)】

統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。

【行動目標(SBO)】

変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析、さらに推測統計の基礎について説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】

吉田（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2018年，¥2,750

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	オリエンテーション 保健医療領域の学びに統計学が何故必要なのか	講義	保健医療領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	１２０
３・４	種々の変数について	講義・演習	種々の変数の違いを説明できる	１２０
５・６	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	１２０
７・８	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	１２０
９・１０	散布度（分散と標準偏差）	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	１２０
１１・１２	共分散と相関（１）	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	１２０
１３・１４	共分散と相関（２）	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	１２０
１５・１６	統計学的仮説検定とは（１）	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	１２０

１７・１８	統計的仮説検定とは（２）	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	１２０
１９・２０	t検定（１）	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	１２０
２１・２２	t検定（２）	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	１２０
２３・２４	t検定（３）	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	１２０
２５・２６	t検定（４）	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	１２０
２７・２８	t検定の演習	講義・演習	対応のないt検定、対応のあるt検定について、実際に演習に取り組んで原理を理解できる。	１２０
２９・３０	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ⅱ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0005-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この授業は前期に「統計学Ⅰ」「心理学統計法Ⅰ」を履修した学生を対象とします。統計学的分析の実際をエクセルを用いながら行う演習が中心となります。「統計学Ⅰ」「心理学統計法Ⅰ」で学んだ知識が必要となります。また、毎回の授業で課題を設定し、その提出が必要となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義に加えてエクセルを利用した演習が中心の授業となります。統計学は積み重ねの知識が必要となり、一度欠席すると授業内容に追いつけなくなることも考えられるので、原則として全回の出席を求めます。

【講義概要】

(目的)

現在多くの仕事の領域でデータを読み解く能力が求められている。これは専門職・事務職の区別を問わない。この講義では､入門程度の統計の知識を持つものが､実際にデータを操作して初歩的な統計分析を実施するための技能を修得することを目的としている｡自分でデータを分析できるようになると、新聞やテレビ､学術論文で公表された数値をより正確に理解できるようになる。＊これは「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。
学位授与方針との関連性：A-2, A-3

(方法)

エクセルを使用して､データの集約法（記述統計）と基礎的な統計的検定（推測統計）を自分でデータを操作しながら学習する。エクセルによる分析の予備知識は必要ないが、エクセルを少し使えると役に立つ。

【一般教育目標(GIO)】

本授業で学んだ知識を基にして、社会の実際のデータを読み取り、説明することができる。また、必要に応じてデータを操作することができる。

【行動目標(SBO)】

基礎統計値の意味を理解し、基礎統計値の知識を基に実際のデータの読み取りができる。
推測統計の中でも特に平均の差の検定の意味を理解し、実際のデータの読み取りができる。

【教科書・リザーブドブック】

毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】

吉田（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2018年，¥2,750

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まないが、毎度の課題の提出をもって出席とみなすこととする。試験、毎度の課題成績を総合して評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	代表値の使い分けと読み取り	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる。実際のデータから代表値の読み取りができる。	１２０
３・４	標準偏差と標準誤差	講義・演習	代表的な散布度である標準偏差と標準誤差について理解できる	１２０
５・６	平均値と標準偏差のグラフを作成	講義・演習	１～４回の学びを基に視覚情報としてグラフ化することができる。	１２０
７・８	相関係数算出	講義・演習	相関係数の意味、算出されるプロセスを理解する。	１２０
９・１０	χ2乗検定	講義・演習	χ2乗検定の基本的な考え方を理解できる。	１２０
１１・１２	ｔ検定（1）	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	１２０
１３・１４	ｔ検定（2）	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	１２０
１５	まとめ	講義	これまでの内容を配布資料をもとに振り返っておく。	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎生命科学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0010-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。
高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義中に試験問題等を提供する。
試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。
試験後、回答例を示します。

【講義概要】

(目的)

本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。

【一般教育目標(GIO)】

世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する。

【参考書】

高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物〇〇・・・」の高校での学習の有無についてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命（いのち）＝生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の（化学）反応（系） ～　①　加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の（化学）反応（系） ～　②　酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環　～　①　体液 循環　～　②　気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15 16	英語で学ぶ基礎生命科学 試験	同上	同上	同上

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅰ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。
試験後回答例を提示します。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという現実に直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。

【一般教育目標(GIO)】

常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

基礎医学及び医療に関する昨今の話題をまとめ、語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

平田恒彦著「人間・生き物科学」、考古堂、2012年、¥1,980（税込）

【参考書】

高校の教科書・参考書、新聞
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	生物（学）の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3-4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5-6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7-8	化石の世界	同上	同上	同上
9-10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11-12	クストーの世界	同上	同上	同上
13-14	DNAとは	同上	同上	同上
15 16	万能細胞～ヒトのiPS細胞～ 試験	同上	同上	同上

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅱ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0020-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

ヒトというものに対して科学的に考えてみたいな～の思いを持っていることを期待したい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
試験後回答例を提示します。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという場を思いながら、現実に直面する生きている人の肉体と心のあり方、それが人の生まれから生長（成長）への流れ＝赤子から老いの中で、どのような動きを見せ、人の消失へ繋がるのかを辿ってみる。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

胎児のあり方、幼児 ≈ 児童、少年少女、青年、壮年、晩年への辿りの中における人の「いのち（命）」のあり（＝有り ≈ 在り）様を伺う。

【一般教育目標(GIO)】

人として生まれ・生きる・生きていることを「あらためて」思い・考えてみて、それを自分の実生活の中に反映させられるようになること。

【行動目標(SBO)】

このコロナ時代にあって、人のいのち（命）についての思いを新たになされるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する。

【参考書】

高校の教科書・参考書、
必要な場合にはその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	アトムは完成した。・・・が、生まれたのだろうか？ 「いのち」、この世への息吹きとは・・・？？？ 胎児への問い掛け（父親からの胎児への問い掛け）	講義	新聞・マスメディアの記事等に関心を抱くこと。	10分
3-4	赤ちゃんは顔を観・読む！ 赤ちゃんの学び・・・観る聞く・・・思って・考えているのだろうか？？？	同上	同上	同上
5-6	聞いて・・・見て・・・の世界へ。童話・童謡の世界へ・・・。	同上	同上	同上
7-8	幼児＝子どもの・・・生長（成長）しているヒトの・・・大人の・・・世界へ・・・。	同上	同上	同上
9-10	ヒトの世界へ・・・ヒトの社会生活・・・の世界へ。	同上	同上	同上
11-12	ヒトの・・・生きものの・・・「いのち（命）」とは・・・その「いのち（命）」が・・・。	同上	同上	同上
13-14	「いのち（命）」のあること・・・「生きる ≈ 生きている」こと・・・その支え・・・へ。	同上	同上	同上
15 16	まとめ ≈ 「生きる ≈ 生きている」ことに何を思う？？？	同上	同上	同上

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅰ			【担当教員】	加藤　真由美
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0025-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

対面講義となる。授業では、演習を含む。

【講義概要】

(目的)

多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労り支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に着けていくことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2

(方法)

学期末には課題レポートの提出を求める。

【一般教育目標(GIO)】

幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。
社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。

【行動目標(SBO)】

講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。授業内また授業後に実施する小テスト、課題、試験、実技により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80		20			100
評価指標	取り込む力・知識			40		10			50
	思考・推論・創造の力			40		10			50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	コミュニケーションの構成要素	講義	配布資料を読む	240
3.4	言語・非言語コミュニケーション	講義	配布資料を読む	240
5.6	コミュニケーションスキル：自己を知る	講義・演習	配布資料を読む	240
7.8	コミュニケーションスキル：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	配布資料を読む	240
9.10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル⑴：聴く力	講義・演習	配布資料を読む	240
11.12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル⑵：共感する力	講義・演習	配布資料を読む	240
13.14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル⑶：伝える力	講義・演習	配布資料を読む	240
15	まとめ・レポート試験	講義	全配布資料を読む	240

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅱ			【担当教員】 丁子　雄希
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートは、他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。

(方法)

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義する。

【一般教育目標(GIO)】

生活に不都合を感じている方にとって、生活支援に役立つ「モノ」とは何かについて理解する。

【行動目標(SBO)】

各生活場面における、福祉用具、自助具について説明できる。
またその効能について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	生活支援とは何か 生活分類について	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
3、4	生活支援の視点 FIMを用いて	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
5、6	ADL①に役立つモノについて 食事支援	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
7、8	ADL②に役立つモノについて 腰部・股関節疾患の事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
9、10	移動に役立つモノについて 車椅子	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
11、12	高次脳機能障害者に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
13、14	運転支援に役立つモノについて 連携シートの活用事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
15	発達障害児に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義	該当箇所の復習を行うこと。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅰ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0035-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却し、必要に応じて解説・フィードバックを行います。
・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。
・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。
・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。
・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。

【行動目標(SBO)】

学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学①	講義（対面）・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学②	講義（対面）・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学③ なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書1-12pを読んでおく	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書13-19pを読んでおく	60
9,10	物理学を学ぶのに必要な数学のまとめ演習 第2のテコ・第3のテコ	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書21-p25を読んでおく	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書27-p33を読んでおく	60
13,14	まとめ演習	講義（映像視聴）・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：まとめ演習を復習	60

16	期末試験	試験（対面）	予習：教科書を読んでおく。 復習：特にまとめ演習を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅱ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0040-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却し、必要に応じて解説・フィードバックを行います。
・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。
・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

教科書と配布資料などによる講義（映像配信）と演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。

【行動目標(SBO)】

学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	物理Ⅰ期末試験の解説 生体の中のテコ①	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書37-40pを読んでおく	60
3,4	生体の中のテコ②	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書41-44pを読んでおく	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書47-50pを読んでおく	60
7,8	作用・反作用，力の分解，斜面，振り子、摩擦力	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書51-58pを読んでおく	60
9,10	物理学Ⅱのまとめ演習	講義（映像視聴）・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書を読んでおく。	60
11,12	物理学Ⅱのまとめ演習の解説 物理学Ⅱの小テスト	演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書を読んでおく。	60
13,14	物理Ⅱの小テストの解説 物理ⅠとⅡの総まとめ演習	演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書を読んでおく。	60
15	総まとめ演習の解説	演習	復習：授業の内容を復習 予習：教科書を読んでおく。	60

16	期末試験	試験（対面）	復習：授業の内容を復習	

リハビリテーション学科

【科目名】	レクリエーション			【担当教員】	上松　恵理子
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、随時メールで応じます	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。
・この科目では、楽しさをとおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。
・実技試験は、グループで行います。授業を通して学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、この授業の基礎的な内容の確認を行います。

【講義概要】

(目的)

・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等でチームで行う仕事に活かせる力をつける。
・児童から高齢者まで幅広い対象者にして実技を通じて目的に応じた適応力を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1

(方法)

・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。
・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場の仕事の活動につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

１）レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。２）レクリエーションの機能・効能について説明できる。３）幅広い対象者に応じたレクリエーションの企画を立てることができる。４）レクリエーション活動実習をとおして実践ができる。５）レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明できる。６）レクリエーションの特性を踏まえた計画を立て、指導ができる。８）レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。

【教科書・リザーブドブック】

資料は授業時に提示する

【参考書】

無し

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・試験（筆記試験30%、レポート50%、実技20%）で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	0	50	0	20	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	30	0	0	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造の力	0	0	50	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	20	0	0	20
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション レクリエーションとは何か レクリエーション科目の授業の説明	講義、	予習：これまで経験したリクリエーションについての感想を考える 復習：授業の資料で指示 次の時間の予習も授業の資料で指示	30
3・4	レクリエーションの課題とポイント グループでオリジナルの作戦の立案と実践	講義、実技	授業の資料にて指示	30
5・6	自らの動きの映像を題材にポイントを学ぶ チームの改善点を議論し、作戦を修正する 修正した作戦で再度行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
7・8	フラッグフットボールのルールを変更し、変更に対応した作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する ルール変更したゲームを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
9・10	映像を元に変更したルールの対応 グループで作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する 修正した作戦でレクリエーションを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
11	これまで経験したレクリエーションの特徴を踏まえ、 グループ別に内容を企画する	講義、実習	授業の資料にて指示	30
12・13・14	それぞれのグループが企画した内容でリクリエーション大会を実施する	実技	授業の資料にて指示	30
15	リクリエーション大会の評価と各大会の実施報告書の作成	講義、実習	授業の資料にて指示	30

16	授業アンケート 筆記試験 レポート課題の提出	試験	授業の資料にて指示	30

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ実践			【担当教員】	粟生田　博子、島田　英宏
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0125-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	学務課に連絡してください	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 学務課に連絡してください	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業内容，スケジュール詳細などは初回ガイダンスにて周知します.
・内容やスケジュールが変更となる場合があります．その際は大学ポータルサイト等を通じて連絡します.
・実技はグループに分けて実施します.
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します，地域における身体活動の普及に従事してきた経験から，スポーツ実践活動に関して講じます.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・実技の際は，スポーツを実施するのに相応しい身だしなみや服装を整え，館内では内履きを必ず着用してください.
・水分補給の準備やタオル，着替え等を持参し，各自の体調管理，安全管理に配慮してください.

【講義概要】

(目的)

・様々な運動やスポーツを経験し，健康や身体活動に関する知識や相互理解を深める.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3

(方法)

・地域における様々な運動やスポーツ活動について講義から学び，また実践することで，健康や障害について考える.

【一般教育目標(GIO)】

・身体活動を通じ，健康の保持・増進および障害に対する知識や認識を高め，その活動に対する理解を深める.

【行動目標(SBO)】

・健康に関する知識を高め，行動することができる.
・様々な人々が楽しめる運動・スポーツ活動の運営やサポート方法を考え，実践することができる.
・学習活動を通して，協調性，リーダーシップ，チームワーク，コミュニケーション能力を養い，発揮することができる.
・レポートを作成して自己評価を行い，活動を振り返ることができる.

【教科書・リザーブドブック】

・特に指定しない

【参考書】

・必要に応じて提示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います．出席点は評価に含みません.
・授業態度，活動内容，レポートを総合的に評価します.
・レポートは返却します.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90			10		100
評価指標	取り込む力・知識			40			5		45
	思考・推論・創造の力			50			5		55
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	ガイダンス，アイスブレイク 新型コロナウイルス感染症対策など	講義・演習	講義内容をまとめる	30
3-4	スポーツ実践活動1	演習	実施内容をまとめる	30
5	地域とスポーツ活動1	講義	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
6-8	スポーツ実践活動2	演習	実施内容をまとめる	30
9	地域とスポーツ活動2	講義	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
10-12	スポーツ実践活動3	演習	実施内容をまとめる	30
13-15	スポーツ実践活動4	演習	実施内容をまとめる	30

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生、上松　恵理子
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0000-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時)Teamsにて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。
・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。
・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。
・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。
・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。

【講義概要】

(目的)

情報処理技法Iの目的は情報処理に関わるITリテラシーやスキルを身につけることにあります。
また数理・データサイエンス・AI教育として、「情報学」（データ収集・加工・処理）、「統計学」（データ分析・解析）、AIの導入項目（総論）を学びデータサイエンティストの基礎を築いていきます。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3

(方法)

情報リテラシー、スキルまた数理・データサイエンス・AI教育の基礎知識について講義を通じ学び、実習を行うことにより具体的方法を学習していきます。

【一般教育目標(GIO)】

・現代の社会人として必要な情報リテラシーやスキルの習得を目指す。
・これからのコモンリテラシー教育の一つに位置付けされている数理・データサイエンス教育の基礎の習得を目指す。

【行動目標(SBO)】

・データサイエンス、AIの概要を説明できる
・ビックデータを使用したデータ収集・加工・処理、データ分析・解析が行える。
・数理・データサイエンス・AIの関連性を説明できる。
・パソコンのセキュリティー設定が行える。
・Office365の基本機能(Word,　Excel,　PowerPoint,　Teams,　OneDrive)を使用できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布します。

【参考書】

必要に応じ資料を配布します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識	0	20	25	0	0	0	0	45
	思考・推論・創造の力	0	20	25	0	0	0	0	45
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	#オリエンテーション #情報リテラシー(1) ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・シラバスを見ておく ・データセキュリティについて復習	・10分 ・30分
2	#情報リテラシー(2) ・SNSの使用について ・Teamsの投稿・チャットの使用方法 ・メールの利用と注意点	浅海(講義・演習)	・SNS・メールの種類と使用時の注意事項について調べておく ・SNS・メールの使用時の注意点についてまとめる。	・15分 ・30分
3	#情報リテラシー(3) ・社会で起きている変化 ・データ・AI利用の最新動向	浅海(講義)	・AIの定義について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
4	#情報リテラシー(4) ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域	浅海(講義)	・AIの利用領域について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
5	#情報リテラシー(5) ・データ・AI利用活用のための技術 ・データ・AI利用の現状	浅海(講義)	・AIの活用の現状について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
6	#情報リテラシー(6) ・データ・AI利用活用における留意事項 ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・AIの活用の危険性について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
7	#ICTリテラシー(1) ・コンピュータの基本構造と周辺装置 ・OSの種類とアプリケーション	浅海(講義)	・パソコンの基本構造について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
8	#ICTリテラシー(2) ・電源のON,OFFとスリープモード ・文字入力方法(キーボード・手書き・音声) ・Webブラウザの操作 ・Office365の基本操作	浅海(講義・演習)	・自分のPCのキーボード操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

9	#ICTリテラシー(3) ・キーボード使用練習 Wordの基本操作(1) ・文字入力の方法(ローマ字入力/全角・半角) ・Wordの起動と終了、文書の保存	上松(講義・演習)	・Wordの操作ついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

10	#ICTリテラシー(4)
	Wordの基本操作(2)
	・文書レイアウトの設定
	・フォントの設定と文字配置
	・あいさつ文の挿入とインデント
		上松(講義・演習)	・Wordの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

11	#ICTリテラシー(5)
	Wordの基本操作(3)
	・罫線と表の挿入・写真と図の挿入
	・箇条書きと段落番号
	・ヘッダーフッター・印刷
		上松(講義・演習)	・Wordの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

12	#ICTリテラシー(6)
	PowerPointの基本操作(1)
	・PowerPointの機能と特徴
	・スライドマスターの設定
	・アウトラインで構成を練る
		上松(講義・演習)	・PowerPointの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

13	#ICTリテラシー(7)
	PowerPointの基本操作(2)
	・表紙の作成、文字入力とレイアウトの調整
	・テキストボックスの挿入、アニメーションの設定
		上松(講義・演習)	・PowerPointの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

14	#ICTリテラシー(8)
	PowerPointの基本操作(3)
	・ヘッダー・フッターの編集と挿入
	・ブラフの作り方
		上松(講義・演習)	・PowerPointの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

15	#ICTリテラシー(9)
	PowerPointの基本操作(4)
	・音声・動画の挿入
	・スライドの印刷
	・スライドショーの方法
		上松(講義・演習)	・PowerPointの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

16	#ICTリテラシー(10)
	PowerPointの基本操作(5)
	・プレゼンテーションの操作方法
	・発表者ツールとタイミングの方法
	・発表済みファイルの保存
		上松(講義・演習)	・PowerPointの操作ついて調べておく。
			
			・復習と課題の作成
				・10分
				
				・30分

17	#ICTリテラシー(11) Excel (1) ・Excelの基本概念、データ(数値・文字)の入力 ・数式を入力する、関数の利用	浅海(講義・演習)	・Excelの基本概念ついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
18	#ICTリテラシー(12) Excel (2) ・セルとの書式設定と表示形式、セルの複写・結合・挿入 ・罫線とセルの塗りつぶし、グラフの作成	浅海(講義・演習)	・Excelの書式ついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
19	#ICTリテラシー(13) Excel (3) ・データベースとテーブル	浅海(講義・演習)	・データベースついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

20	#ICTリテラシー(14) Excel (4) ・ピボットテーブルの使用方法	浅海(講義・演習)	・ピボットテーブルついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
21	#ICTリテラシー(15) Excel (5) ・Formsの利用 ・アドインの組み込み(統計ツールなど)	浅海(講義・演習)	・Formsついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
22	#ICTリテラシー(16) Excel (6) ・その他発展的利用方法	浅海(講義・演習)	・Excelのアドインついて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
23	#総合演習(1) オリエンテーション ・地域の課題を公開データより収集する。 ・Excel等を用いてデータを分析する。 ・分析したデータを用い問題点・考察・提言などをP.Pでまとめる。	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
24	総合演習(2)　テーマ決定 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
25	総合演習(3)　データ収集 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
26	総合演習(4)　データ収集・分析 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
27	総合演習(5)　分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
28	総合演習(6)　分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
29	総合演習(7)　分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
30	総合演習(8)　PPT完成 グループワーク	浅海・グループ担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅱ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0005-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。
・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。
・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。
・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。
・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。

【講義概要】

(目的)

・情報処理技法Ⅱでは数理・データサイエンス(DS)を学ぶ上で、データ処理・分析を自分で行えることを目的としてブロックプログラムと記述プログラム言語Pythonについて学びます。

・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3

(方法)

・プログラミングの基礎的概念を理解するためScratchを用いたブロックプログラムについて講義と演習により学びます。
・より詳細なデータ処理と分析が行えるよう記述式プログラミング言語Pythonの使い方を講義と演習により学びます。

【一般教育目標(GIO)】

・データの分析と処理を独自に行ない、日常の業務や研究に活かせることを目標に
プログラミングの基礎を修得します。

【行動目標(SBO)】

・Scratch言語を使用し簡単なプログラムを作成できる。
・Python言語を用い基本的データ処理と分析ができる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

・阿部和広　監修/横川耕二: おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション　¥1650

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・プログラミング言語の役割 Scratch (1) ・Scratchでのプログラミングの概要 ・Scratchエディタの使用方法	講義・演習	・シラバスを読んでおく ・課題の実施	・15分 ・30分
2	Scratch (2) ・スプライトと背景 ・イベントによるプログラムの実行	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
3	Scratch (3) ・アニメーションの使用方法 ・インターラクション(メッセージ)の利用	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
4	Scratch (4) ・角度の測定 ・タイマーを使用した時間の測定 ・まとめ	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
5	Python(1) ・Python言語について ・利用環境を調える。 ・Google Colaboratoryの基本操作	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
6	Python (2) ・変数とデータ型 ・四則演算 ・注釈の書き方 ・プログラムの共有方法	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
7	Python (3) ・書式指定出力-1 ・キーボードよりの入力	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
8	Python (4) ・リストの利用 ・条件分岐と繰り返し処理	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分

9	Python (5) ・書式指定出力-2 ・moduleの使用と統計関数 ・乱数・日付の使用	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
10	Python (6) ・辞書の利用 ・Pandasと配列処理1 ・Excelデータの利用1	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
11	Python (7) ・Pandasと配列処理2 ・Excelデータの利用2	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
12	Python (8) ・データのフィルタリング1 ・時系列データの利用1 ・グラスの作成-1	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
13	Python (9) ・データのフィルタリング2 ・グラフの作成-2	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
14	Python (10) ・データ分析の実際 ・インターラクティヴなグラフの作成	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
15	Python (11) ・まとめ	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語ベーシック			【担当教員】	鈴木　美和子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー)授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語力獲得を目標とする。又、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解できるようになる。検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上をする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト(文法・表現テスト及び単語テスト）及び期末試験結果を総合的に評価する。
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30	0	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	70	30	0	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15-16	教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	総復習	45分

17-18	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
19-20	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
21-22	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
23-24	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
25-26	教科書： 第２部３．３、３．４ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
27-28	教科書： 第２部３．５、４．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
29-30	教科書：出発 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。 総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語アドバンス			【担当教員】	伊藤　知明
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0005-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 授業終了後の教室内	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業行い学外検定試験に対応できるようする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文及び長文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの専門的な英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージや長文を読解し、実用的な英文が書けるようになる。医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験及び小テスト(単語テスト) 結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部 Lesson１、第２部 Introduction 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
3-4	教科書： 第１部 Lesson２、第２部１．１ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部 Lesson３、第２部１．２ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部 Leeson４、第２部１．３ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部 Lesson５、第２部１．４ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部 Lesson６、第２部１．５ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部 Lesson７、第２部１．６ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15-16	教科書： 第１部 Lesson８、第２部２．１ 長文読解 単語テスト７	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分

17-18	教科書： 第１部 Lesson９、第２部２．２ 長文読解 単語テスト８	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
19-20	教科書： 第１部 Lesson１０、第２部２．３ 長文読解 単語テスト９	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
21-22	教科書： 第１部 Lesson１１、第２部２．４ 長文読解 単語テスト１０	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
23-24	教科書： 第１部 Lesson１２、第２部３．１ 長文読解 単語テスト１１	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
25-26	教科書： 第２部３．２、３．３ 長文読解 単語テスト１２	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
27-28	教科書： 第２部３．４、３．５ 長文読解 単語テスト１３	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
29-30	教科書： 第２部４．１、Departure 長文読解 単語テスト１４ まとめ	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話ベーシック			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0010-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー)電子メールで質問を受け付ける	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。
福祉英語検定４級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： 第２部３．３、３．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： 第２部３．３、５．４．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話アドバンス			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー)授業後、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した３級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定３級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let’s Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第１部レッスン７、第８部２．２ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

17-18	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
19-20	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
21-22	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
23-24	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
25-26	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
27-28	教科書： 第３部３．３、３．４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
29-30	教科書： 第３部３．５、４．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅰ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0000-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2

(方法)

教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の構造などを講義します。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ，特に体幹についてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ヒトの体幹を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後，チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また，全講義終了後，試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題，小テストと試験トにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	みずから考え，学習するということ。医学を学ぶということ。脊椎動物について。身体の組織について。骨の組織構造および脊柱について。関節の構造について。	講義		
3・4	胸郭の構造－胸郭を構成する骨格について。筋肉・腱・靭帯の組織構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	胸郭の構造－胸郭を構成する筋肉について。神経組織について。脊髄神経について，筋肉と神経の関係について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	腹部の筋肉とその支配神経について。横隔膜と呼吸運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	腹壁と鼠径部の構造について。鼠径管について。腰部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	頚部の骨格，頚部の筋肉とその支配神経について。胸郭への入り口の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	頚部表面に投影される三角のいろいろ。頚部の大血管について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。解剖学的な肢位，運動の軸や面について。 試験	講義と試験	前回の講義の復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅱ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0005-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2

(方法)

教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、上肢帯および上肢の解剖学を講義します。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ，特に上肢帯と上肢についてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ヒトの上肢及び上肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連の関節の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後，チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また，全講義終了後，試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題，小テストと試験トにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	上肢帯と上肢の骨格について。上肢帯の関節について。肩関節について。	講義	解剖学・総論Ⅰの復習	40分
3・4	上肢帯の筋肉について。肩甲骨の運動について。肩関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	腕神経叢について。腋窩の構成について。上肢の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	前腕の骨格について。肘関節について。肘関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	前腕の筋肉について。肘窩について。上肢の脈管について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	手の骨格について。手根管について。手関節の筋肉と運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	手内筋について。母指球と小指球について。手指の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。指の屈曲・伸展機構について。 試験	講義と試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅲ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0010-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2

(方法)

教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、下肢帯および下肢の解剖学，上肢と下肢の比較を講義します。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ，特に下肢と下肢帯についてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ヒトの下肢及び下肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後，チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また，全講義終了後，試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題，小テストと試験トにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	骨盤と大腿骨について。骨盤の男女差について。骨盤の靭帯について。股関節とその運動(1)について。	講義	解剖学・総論Ⅰと総論Ⅱを復習	40分
3・4	股関節とその運動(2)について。股関節の筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	膝関節を構成する骨について。膝関節の構造について。膝関節の靭帯について。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	膝関節の運動について。大腿部の筋肉とその支配神経及び大腿部の血管について。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	上肢と下肢の比較について。腰・仙骨神経叢ーー坐骨神経などについて	講義	前回講義の復習	30分
11・12	足部の骨格について。足関節の靭帯について。足関節の運動について。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	距骨下関節を構成する骨について。距骨下関節の運動について。足底の靭帯について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
15	足根管について。下腿と足の筋肉について。 試験	講義と試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅰ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻１年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。
小テストの結果は全て返却します。
定期試験結果については必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体を構成する細胞・組織について、その構成や特徴を説明できる。
人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版、東洋療法学校協会、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学　改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	人体の細胞： 細胞の基本的な形態と構成 細胞の活動 人体に存在する様々な細胞	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
3・4	人体の組織： 上皮組織と腺組織 種類と人体における分布	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
5・6	人体の組織： 支持組織 筋組織 神経組織	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
7・8	循環器系： 循環器系の構成 心臓の形態と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
9・10	循環器系： 血管の基本構造 大動脈と主な枝	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
11・12	循環器系： 静脈系 胎児循環 リンパ管系とリンパ性器官	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
13・14	呼吸器系： 外鼻と鼻腔 咽頭 喉頭	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
15	呼吸器系： 気管 肺と胸膜	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅰ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0030-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp　または　kenbo2@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)講義日、非常勤講師控え室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高等学校で生物を履修していない学生は、高校生物の教科書、または参考書を学習して、生理学を理解する上で必要な基礎知識を補って下さい。不安な場合はいつでも相談に応じます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退室を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限って返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで成り立っているのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するための水分調節、血液、心臓循環系、老廃物排泄などのしくみを学んだ後、これらを調節する神経系と内分泌系の役割を学習する。これらの学習を通して、身体の成分や構造と心身の機能を総合的に理解することを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を一人一人に書いて貰う。小テストも行う。毎時間それらを確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復説明する。本科目は主として、「体液の種類や性質とその調節」、「血液の成分と働き」、「心臓循環系の成り立ちと機能、その調節」、「泌尿器官による老廃物の排泄」などを重点的に講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、体液の性質と調節、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の役割などについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

内田さえ・佐伯由香・原田玲子　著　「人体の構造と機能　第5版」 医歯薬出版社　¥3,060（税込み 以下同）
ゴロー 著・大和田潔 監修　「解剖生理学 超速！ ゴロ勉」 永岡書店　　¥1,650

【参考書】

高松研・堀内ふき 監修　「生体のしくみ 標準テキスト　第3版」 医学映像教育センター　¥4,180
田中越郎　「イラストで学ぶ生理学 第3版」 医学書院 ¥2,860（税込み）
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,520

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	生理学とはどんなことを学ぶ教科であるのか、大学でどのような姿勢で生理学を学ぶのか、ヒトが生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性や病気の意味を考える。	講義 （担当山口）	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、β酸化、活性酸素、生物学的仕事、内部環境、細胞外液、組織液、器官分化、恒常性の維持、ホメオスタシス。	15分
3･4	体にある水（体液）の種類、組織液（細胞外液）と細胞内液の性質、成分表示の表し方や単位、細胞内外の電解質について、浸透圧とは何か、浸透圧や血圧による組織液の移動、体液平衡の障害から起こる病気。	講義 （担当山口）	細胞内液・細胞外液、組織液・間質液、電解質・非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫。	15分
5･6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、それぞれの成分、赤血球の働き、赤血球の産生と破壊、白血球の種類、白血球の働き、アレルギー、抗原抗体反応。	講義 （担当山口）	赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、ＣＯ中毒、酸素解離曲線とその意味、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、T細胞、B細胞、抗体、ワクチン。	15分
7･8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、止血作用と血液凝固、血小板に由来する病気、血液型の種類、輸血や臓器移植に起因する問題。	講義 （担当山口）	血液凝固、線溶、止血作用、血液凝固、凝固因子の種類と働き、血友病、塞栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、拒絶反応、MHC抗原。	15分
9･10	心臓循環系-1。 心臓の構造、左右の心室による血液循環の相違、心臓における興奮の発生、興奮伝道のしくみ、伝導の異常と心臓の病気、心電図と心音、聴診器、心臓のポンプ作用。	講義 （担当山口）	洞結節、前電位、房室結節、刺激伝導系、期外収縮、代償性休止、不整脈、伝導ブロック、加速伝導、心電図波形とその意味、心電図記録法、心拍出量と病気。	15分
11･12	心臓循環系-2。 心臓拍動に伴う諸現象とそれらの総合的理解、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、各血管系の特徴、動脈の性質と血圧の測定、毛細血管・静脈の働き。	講義 （担当山口）	房室弁、動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張期、心音、心不全、弾性血管、抵抗血管、高血圧、交換血管、容量血管、肺循環、冠状循環、脳の血管系。	15分
13･14	心臓循環系-3。 体循環系・冠状循環系・肺循環系・脳血管系の特徴と機能、心血管機能の調節・血管内皮細胞・血管障害と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液、酸塩基平衡。	講義 （担当山口）	冠状動脈口、肺動脈楔入圧、肺高血圧、血圧・化学受容器、伸展受容器、自律神経、血管運動中枢、一酸化窒素、血管調節ホルモン、リンパ流、脳室、脳脊髄液。	15分
15	腎臓の構造と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿細管や集合管の機能とその調節、クリアランス、尿の性状と排尿のしくみ、利尿薬の作用。	講義 （担当山口）	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、原尿、近位・遠位尿細管、集合管、尿管、アンジオテンシン、アルドロステロン、抗利尿ホルモン、利尿薬、尿素、オルニチン回路、排尿反射。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅱ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0035-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp （山口）または kenbo2@gmail.com （山口）	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生理学Ⅰを履修すること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するため、脳や脊髄などの中枢神経や末梢神経、および体内の様々な組織から放出されるホルモンやオータコイドなどが、体内でどの様な調節作用を演じているのかを学修する。さらに、感覚機能や運動機能が、神経や筋肉のどの様な働きによって達成されるのかを修得する。これらにより、身体の構造と心身の機能について、総合的な理解を深化させる。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を一人一人に書いて貰う。小テストも行う。毎時間それらを確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復説明する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

神経系の成り立ち・構造と機能、全身の内分泌器官の種類と各所から分泌されるホルモンの作用、筋肉の分類・特徴・収縮の機構、感覚の種類について説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

内田さえ・佐伯由香・原田玲子　著　「人体の構造と機能　第5版」 医歯薬出版社　¥3,060（税込み 以下同）
ゴロー 著・大和田潔 監修　「解剖生理学 超速！ ゴロ勉」 永岡書店　　¥1,650

【参考書】

高松研・堀内ふき 監修　「生体のしくみ 標準テキスト　第3版」 医学映像教育センター　¥4,180
田中越郎　「イラストで学ぶ生理学 第3版」 医学書院 ¥2,860（税込み）
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,520

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達、神経伝達物質。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトーシス、シナプス前膜、シナプス後膜、神経伝達物質受容体。	15分
3･4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的な神経の分類、末梢神経系と中枢神経系、体性神経系・自律神経系の成り立ちと働き。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、前索、側索、後索、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経。	15分
5･6	神経系の構造と機能-3。脊髄と脳の構成、各領域区分の構造と作用、脳波の記録と波形の意味、睡眠の状態と病気に伴う脳波の変化。	講義 (担当山口)	延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、除波睡眠、REM睡眠。	15分
7･8	内分泌系とホルモンの作用-1。体内にある調節物質の種類と分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類と分類、ホルモンの受容体の種類と特徴。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、松果体ホルモン、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン。	15分
9･10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎から分泌されるホルモンの種類と作用。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトニン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、副腎皮質、副腎髄質、血糖調節、電解質調節。	15分
11･12	内分泌系とホルモンの作用-3。腎臓、性腺、心臓、消化管、その他の組織から分泌されるホルモンやホルモン類似物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、hGG、hPL、オータコイド、プロスタグランジン、ヒスタミン。	15分
13･14	筋肉とその収縮機構-1。筋肉の種類、骨格筋の構造、等尺性・等張性収縮、神経・筋接合部と活動電位の発生、横紋筋収縮のメカニズム、感覚の種類と体性感覚。	講義 (担当山口)	横紋筋、平滑筋、赤筋、白筋、ミオグロビン、単収縮、強縮、アクチン、ミオシン、T管、筋小胞体、カルシウム、ギャップジャンクション、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とエネルギーの産生・貯蔵、脊髄を介する筋反射の種類と神経機構、脳による筋運動の調節。	講義 (担当山口)	カルモジュリン、ミオシン軽鎖、解糖系、クエン酸回路、クレアチン燐酸、伸張反射、筋紡錘、拮抗抑制、内臓反射、屈曲反射、交差性伸展反射、間脳・中脳・除脳・脊髄動物。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅲ			【担当教員】	宮岡　洋三
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0040-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業開講日非常勤講師控え室で面談	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生理学Ⅰ、同Ⅱの単位履修。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

私語は他受講者の迷惑となるので、厳に慎んでください。注意しても守れない場合には、退出を求める可能性があります。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのような機序（メカニズム）で生じるのかを考えるのが生理学である。「生理学Ⅰ、同Ⅱ」では、主に「体液、水・電解質・浸透圧の調節、血液、心臓と血管の働き、腎臓の機能、神経機能の概要、内分泌器官とホルモンの作用、筋肉と運動」について学んだ。「生理学Ⅲ」では、主に「呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能」について学ぶ。これらにより，身体構造を基礎とした心身機能を理解する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

各時間の講義内容中で、どこが「核となる内容」なのかを意識しながら授業を進める。また、生理学は「積み重ね」の学問であり、先に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」で学んだ内容が、「生理学Ⅲ」でもしばしば出てくる。既習内容の確認をするため、できるだけ頻繁に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」の質問も交えて授業を展開していく。

【一般教育目標(GIO)】

・人体機能の機構（メカニズム）を学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための基礎知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

・呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ(編)「人体の構造と機能（第5版）」医歯薬出版、¥2,800+税

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、小試験と期末試験の得点によっておこなう。小試験は口頭による質問への回答による。なお、小試験と期末試験の得点割合はそれぞれ20%と80%とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20	0					100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	呼吸機能-1：呼吸器系の構造、呼吸運動、肺容量、気道抵抗	講義	気道と肺、吸息筋・呼息筋、肺胞内圧・胸腔内圧、肺容量、死腔量、1秒率。	15分
2	呼吸機能-2：肺のガス交換、血液ガス分圧の変化	講義	拡散現象、肺胞換気量、ｶﾞｽ分圧、物理的溶解、化学的溶解。	15分
3	呼吸機能-3：血液ガス（酸素、二酸化炭素）の運搬と交換	講義	ヘモグロビン、酸素解離（結合）曲線、重炭酸イオン。	15分
4	呼吸機能-4：呼吸の神経的調節、気道の防御反射	講義	呼吸中枢、ﾍﾘﾝｸﾞｰﾌﾞﾛｲｴﾙ反射、機械受容器、くしゃみ、咳嗽	15分
5	呼吸機能-5：呼吸の化学性調節、異常呼吸	講義	末梢化学受容器、中枢化学受容野、呼吸の頻度・深度調節、チェーン-ストークス型呼吸、ビオー呼吸。	15分
6	自律神経機能　交感神経系・副交感神経系の構造と機能（一部「生理学Ⅰ、Ⅱ」の復習）	講義	二重神経支配、相反作用、緊張作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ消費的作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ蓄積的作用。	15分
7	消化と吸収-1：消化器の構造と機能概要	講義	各器官の配置、横紋筋と平滑筋、消化管の構造、実質臓器の構造。	15分
8	消化と吸収-2：消化管の運動	講義	咀嚼・嚥下、分節運動、蠕動運動、胃-大腸反射、排便調節。	15分

9	消化と吸収-3：消化液の分泌	講義	唾液・胃液・腸液・膵液・胆汁分泌、各種消化酵素の働き。	15分
10	消化と吸収-4：消化管運動と分泌の調節機構	講義	神経性調節（内在神経系、外来神経系）、液性調節（各種消化管ホルモン）。	15分
11	消化と吸収-5：三大栄養素（糖質・タンパク質・脂質）の吸収	講義	小腸絨毛、円柱上皮細胞、共輸送担体、単糖、ｱﾐﾉ酸、毛細血管、ﾄﾘｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ、ｶｲﾛﾐｸﾛﾝ、ﾘﾝﾊﾟ管。	15分
12	栄養と代謝-1：栄養素の摂取と欠乏、無機質、ビタミン類。	講義	異化・同化、五大栄養素、欠乏症、必須ｱﾐﾉ酸、必須脂肪酸、ﾌﾞﾄﾞｳ糖、ｸﾞﾘｺｹﾞﾝ、遊離脂肪酸、糖新生。	15分
13	栄養と代謝-3：物質代謝とエネルギー代謝、運動エネルギー	講義	中間代謝、吸収期、空腹期、熱量測定、燃焼熱、基礎代謝量、活動代謝量、エネルギー所要量、特異動的作用。	15分
14	体温調節機能-1：体温の各種変動、熱産生、熱放出	講義	日内変動、季節変動、性ﾎﾙﾓﾝ、輻射・伝導・対流。	15分
15	体温調節機能-2：体温調節中枢（視床下部）、調節機構	講義	ふるえ、温熱性発汗、気化熱、視床下部、ｾｯﾄﾎﾟｲﾝﾄ。	15分

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅰ			【担当教員】	黒瀬　雅之
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0050-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、30分以上で遅刻となります。
試験結果については、クラス全体の結果については試験後にフィードバックを行います。個々の結果について、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室にて対応しますが、事前に学務課にてアポイントメントをお願いします。

【講義概要】

(目的)

生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、生体内での情報の伝達のKey Playerとなる電気信号：活動電位の発生メカニズムを段階を追って理解する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。

【一般教育目標(GIO)】

すべての生体現象の基盤となる細胞の特性、そして細胞周囲の環境、入力と出力となる活動電位の発生機序、発生した活動電位の情報伝導、そして上位中位に至るまでのシナプスでの情報伝達機構などの生理学における重要な基本的事項を理解する。

【行動目標(SBO)】

・静止膜電位とその発生機構を説明できる
・膜電位の発生機序を物理化学的に説明出来る
・活動電位の発生と興奮伝導のしくみを説明出来る
・無髄および有髄神経における活動電位の伝導機構を説明できる
・シナプスにおける伝達機構を説明出来る。

【教科書・リザーブドブック】

大地 陸男著：「生理学テキスト（第９版）」文光堂、２０２２年
角田 亘、後藤 純信(編集)：「生理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）」メジカルビュー社、２０２２年

【参考書】

高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト（第３版）」株式会社医学映像教育センター

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、試験と平常点（授業への積極的な参加など）により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	生理学総論・神経総論 生理学という学問を学ぶ意義を理解する。情報処理機構の主役である神経系の役割を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	膜電位の構成と活動電位① 神経系の主役となる電気信号の成り立ちを理解する。細胞の構造と機能を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	膜電位の構成と活動電位② 細胞が有するイオンチャネルとポンプの構造と機能を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	膜電位の構成と活動電位③ 細胞の周囲環境である細胞外液と内液を学び、イオン構成を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	膜電位の構成と活動電位④ 活動電位が発生するまでの課程を順を追って学び、活動電位の各相を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	神経細胞の構造と機能① 活動電位を伝達する神経細胞の解剖学的構造を学び、神経細胞の特徴を概説できる。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	神経細胞の構造と機能② 神経細胞の主たる仕事である情報の伝搬方法を学び、興奮伝導の３原則を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	シナプスでの情報伝達① 神経細胞間のつなぎ目に位置するシナプスの解剖学的特徴を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	シナプスでの情報伝達② 主役となる神経伝達物質と受け手となる受容体の種類を列挙し、伝達過程を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	シナプスでの情報伝達③ シナプスでの情報伝達の修飾機構について、薬剤や実例を使って理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	感覚総論 生体反応を誘発する各種感覚の種類と受容器の種類を学び、感覚受容の過程を概説できる。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	聞こえる感覚：聴覚受容 関連する感覚器の解剖学的特徴を学び、振動が電気信号に変換されるまでの過程を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	膜電位に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：配付された講義資料を読み直して知識の再確認を行う。	予習 ３０分 復習 ３０分
14	シナプスでの情報伝達に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：配付された講義資料を読み直して知識の再確認を行う。	予習 ３０分 復習 ３０分
15	神経生理学Ｉまとめ	演習・黒瀬	予習：演習問題を用いて知識の再確認を行う。	予習 ６０分

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅱ			【担当教員】	黒瀬　雅之、山村　健介
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0055-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

神経生理学Ⅰを履修していること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、30分以上で遅刻となります。
試験結果については、クラス全体の結果については試験後にフィードバックを行います。

【講義概要】

(目的)

生体は、環境の変化に対して適応する。このような適応は、感覚・認知により環境変化を捉え、神経系での情報処理された結果、適切な運動・行動・自律反応を起こすことに基づいている。本講義では，このような神経系における情報処理と機能発現の基礎を学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

神経生理学Ⅰで学んだ神経機構を基礎として、円滑な生体機能を営む上で重要となる背景にある神経機構を中心に、パソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。

【一般教育目標(GIO)】

生体機能の円滑な遂行を理解するために、神経生理学Ⅰで学習した内容を基盤として、各種感覚情報の発生と伝達そして運動機能発現に至る処理機構を理解する。

【行動目標(SBO)】

・感覚（特殊感覚と体性感覚）受容のメカニズムを説明できる
・脊髄の構造と各種脊髄反射を概説できる
・姿勢制御のしくみを概説できる
・大脳皮質・小脳・大脳基底核による運動制御を概説できる
・脳波波形の種類を列挙できる・覚醒・睡眠と脳波を関連づけることができる

【教科書・リザーブドブック】

大地 陸男著：「生理学テキスト（第９版）」文光堂、２０２２年
角田 亘、後藤 純信(編集)：「生理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）」メジカルビュー社、２０２２年

【参考書】

高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト（第３版）」株式会社医学映像教育センター

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、試験と平常点（授業への積極的な参加など）により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	脳の概要 脳の区分を学び、感覚・運動との関連を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	運動系① 脊髄の構造を学び、前角から出力される運動ニューロンの特性を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	運動系② 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	運動系③ 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	運動系⑤ 大脳皮質による運動調節を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	運動系⑥ 大脳基底核・小脳による運動調節を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	脳波記録 脳の活動を可視化する脳波記録の手法と記録される波形について理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	覚醒と睡眠 脳波記録から検出できる覚醒と睡眠の特徴を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	触圧感覚の情報処理機構 触圧刺激を電気信号に変換する過程を学び、触圧覚の情報処理について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	温度感覚の情報処理機構 温度刺激を電気信号に変換する過程を学び、温冷覚の情報処理について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	痛覚の末梢情報処理機構 末梢部での侵害刺激受容を学び、「痛み」のメカニズムを理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	固有感覚の情報処理機構 筋紡錘の構造と機能を学び、固有感覚の情報処理について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	運動機能に関する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
14	一般的な体性感覚である触圧・温度・痛覚・固有感覚についての知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
15	神経生理学Ⅱまとめ	演習・黒瀬	予習：該当する項目を教科書や講義時の配付資料を参照して行う。また、演習問題を用いて知識の再確認を行う。	予習 ６０分

リハビリテーション学科

【科目名】	医学概論			【担当教員】	鈴木　薫
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0065-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)ﾒｰﾙ質問・相談可	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。確実な知識を得ることが必要である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校時代に学習した生物学などの知識と結び付けて理解してほしい。これらの科目を復習しておくことが望ましい。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に関わる専門職業人として、医の本質について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

健康の概念や疾病・障害の概念を中心に医学の発展や将来などについて、講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感する。健康がどのように障害され、どうしたら、予防や回復が図れるか、理解を深める。また、疾病の自然史を理解する。さらに、社会医学的なことがらについて理解する。

【行動目標(SBO)】

医学・医療の本質について設明できる。病むという状態がどのようにして起こるのか、宿主要因と環境要因の関わり合いで生じることを理解する。社会医学的な事象を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

小橋元、近藤克則、黒田健司研二、千代豪昭、学生のための医学概論　第4版、医学書院、2020年2月、¥3,000（税別）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。本講義に関する記述式試験を実施する。１００点満点で６０点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	健康・病気・医学の体系	講義		
3・4	病気の原因	講義		
5・6	病気による身体の変化	講義		
7・8	病気の診断	講義		
9・10	病気の治療とリハビリテーション	講義		
11・12	病気の予防	講義		
13・14	新しい医療システム	講義		
15	医学および看護の生命へのアプローチ、衛生統計	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ⅰ			【担当教員】	髙橋　英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0000-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hidencchi@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。

【講義概要】

(目的)

これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナ感染症により全世界がその健康を脅かされることともなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作るために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。
　配布資料にそって解説します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事社として必要な公衆衛生学ついての知識を習得しましょう。

【行動目標(SBO)】

衛生学･公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。

【教科書・リザーブドブック】

講義のスライドハンドアウトで復習するようにしてください。。

【参考書】

鈴木庄亮監修、辻一郎、小山洋編集「シンプル衛生公衆衛生学2020」南江堂、￥2,400

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	① 衛生と健康について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 保健統計と人口･死因について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 疫学について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ EBMと統計解析について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 疾病リスクと予防医学について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 健康増進について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 感染症予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 癌の予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 循環器系疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームの予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 食品保険について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 環境衛生と公害について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 物理的、科学的、生物学的環境要因について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 空気、水、廃棄物について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 死をめぐる諸問題について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 医療安全について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ⅱ			【担当教員】	髙橋　英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0005-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hidencch@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。

【講義概要】

(目的)

これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナ感染症により全世界がその健康を脅かされることともなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作るために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。
　配布資料にそって解説します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事社として必要な公衆衛生学ついての知識を習得しましょう。

【行動目標(SBO)】

衛生学･公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。

【教科書・リザーブドブック】

講義のスライドハンドアウトで復習するようにしましょう。

【参考書】

鈴木庄亮監修、辻一郎、小山洋編集「シンプル衛生公衆衛生学2020」南江堂、￥2,400

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	① チーム医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 母子保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 学校保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 歯科保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 産業保健と労働安全衛生について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 職業病について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 高齢者の医療と介護について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 精神保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 国際保健医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 医師法と医療法について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 災害保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 保健所と地域医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 障害者福祉について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 国民医療費と医療保障について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 脳卒中の公衆衛生学的意義について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅰ			【担当教員】	加藤　真由美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0010-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。
講義に関する資料や課題は、配布する（Teams）。教科書は、指示に合わせて予習・復習すること。
課題は、必ず指定の期限までに提出すること。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学の要点を理解する。
リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。
臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。
必要に応じて、追加資料を配布する。

【一般教育目標(GIO)】

臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著　公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
各回の課題などから、総合的な評価を行う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		55	35					10	100
評価指標	取り込む力・知識	55	35						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●臨床心理学とはどのようなものか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
3-4	●臨床心理学はどう役立つか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
5-6	●臨床心理学と公認心理師	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
7-8	●臨床心理学の成り立ち	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
9-10	●臨床心理学における研究	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
11-12	●臨床心理学と生物－心理－社会モデル	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
13-14	●臨床心理学における支援の前提 「動機づけ面接」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅰ」まとめ	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	45

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅱ			【担当教員】	加藤　真由美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。
講義に関する資料や課題は、配布する（Teams）。教科書は、指示に合わせて予習・復習すること。
課題は、必ず指定の期限までに提出すること。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学の要点を理解する。
リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。
臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。
必要に応じて、追加資料を配布する。

【一般教育目標(GIO)】

臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著　公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
各回の課題などから、総合的な評価を行う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		55	35					10	100
評価指標	取り込む力・知識	55	35						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●臨床心理学における支援Ⅰ 「クライアント中心療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
3-4	●臨床心理学における支援Ⅱ 「精神力動的アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
5-6	●臨床心理学における支援Ⅲ 「行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
7-8	●臨床心理学における支援Ⅳ 「認知行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
9-10	●臨床心理学における支援Ⅴ 「家族療法・カップルセラピー」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
11-12	●臨床心理学における支援Ⅵ 「コミュニティ心理学」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
13-14	●臨床心理学における支援Ⅶ 「ナラティブ・アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅱ」まとめ	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	45

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅰ			【担当教員】	姜　静愛
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	c.kan@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 12:00-15:00(火曜日・水曜日)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。

【講義概要】

(目的)

近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。
本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの
１．身体的発達の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書等は特になし。
配布資料あり。

【参考書】

本郷一夫編（2018）発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房.
向田久美子（2017）発達心理学概論. NHK出版.
秦野悦子・近藤清美編（2020）公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

定期試験60％（配布資料持ち込み可）・小テスト40％（出欠確認を兼ねる）で評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	発達心理学の基礎 ・生涯発達心理学とは？ ・発達の規定要因	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	胎児期・乳児期の発達とその支援：言語獲得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	胎児期・乳児期の発達とその支援：愛着形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	幼児期の発達とその支援：保存の概念・社会性・	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	幼児期の発達とその支援：親子関係・虐待	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	生涯発達にかかわる臨床：発達障害	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	児童期の発達とその支援：道徳性・いじめ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく。	240

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅱ			【担当教員】	姜　静愛
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0020-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	c.kan@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:00-15:00(火曜日・水曜日)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。

【講義概要】

(目的)

近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2

(方法)

講義は、PowerPointを使用する。
講義資料は、事前に配布する。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。
１．身体的発達（変化）の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書等は特になし。
毎回資料を用い講義する。

【参考書】

本郷一夫編（2018）発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻．遠見書房.
向田久美子（2017）発達心理学概論．NHK出版.
秦野悦子・近藤清美編（2020）公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学．医歯薬出版.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

定期試験60%、小テスト40%で評価する。オンディマンド授業が中心となるため、毎回小テストを用意しており、その回答をもって出席とみなす。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	青年期の発達とその支援：自己同一性・不登校・自傷行為	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	生涯発達にかかわる臨床：不安障害・摂食障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	心理臨床的支援：芸術療法・家族療法	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	成人前期の発達とその支援：自立・ひきこもり	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	生涯発達にかかわる臨床：統合失調症	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	成人中期・成人後期の発達とその支援：中年期危機・対象喪失	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	生涯発達にかかわる臨床：気分障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション医学			【担当教員】	髙橋　明美、小林　量作、真柄　彰
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0350-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。
・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医師や理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、疾患別リハビリテーションについて講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テスト、レポートについては返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-3

(方法)

主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。
脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーション医学の基本を理解する。

【行動目標(SBO)】

脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等について説明できる。
治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

①真柄彰・鴨下博編：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション医学，理工図書，2017，¥5000（税別）
②出水紳一,他：リハビリテーション医学テキスト,改訂第5版，南江堂，2022，￥5400

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テスト、レポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2 後期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 （高橋）	（予習）リハビリテーション概論で学んだことを復習しておくこと （復習）配布資料を読んでおくこと	90 90
3.4 後期	脳卒中のリハビリテーション： 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血	講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
5.6 後期	変性疾患のリハビリテーション： パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症(SCD)等	講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
7.8 後期	整形外科疾患のリハビリテーション： 関節リウマチ(RA)、変形性関節症(OA)、骨折(Fx)等	講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
9.10 後期	脊髄損傷のリハビリテーション： 脊髄損傷（頸髄損傷、胸腰髄損傷）	講義 （真柄）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
11.12 後期	小児のリハビリテーション： 発達評価、小児疾患	講義 （真柄）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
13.14 後期	疾患別リハビリテーション（心大血管疾患、呼吸器、廃用性）	講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
15 後期	まとめ	講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	救急救命医学			【担当教員】	村井　絹子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2－12－0075－3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水　8：30～17：30（保健室）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、看護の実務経験者がある教員による授業科目です。看護師の臨床経験から、医療における医療安全の目的、救急救命の役割、急性期の経時的変化の適切な観察と処置などの知識と技術について講じていきます。リハビリテーション学科においては、将来、医療従事者として臨床現場で活躍することが期待されています。そのため、医療における安全管理及び緊急事態の適切な判断、素早い処置ができる知識と技術を身につけておく必要があります。臨床実習に備えた必修科目となっています。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、開始後10分までが遅刻、早退は終了前10分以内、それ以上の遅刻、早退は欠席扱いとなります。また申し出のない途中退室は欠席とみなします。真面目に授業をうけることが受講の条件になります。命の連鎖に繋がる応急手当講習は真摯な態度で臨んでください。また、学内のAED配置の場所について、確認をしてください。
小テストは解答・解説を行います。レポートについても必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

この科目は、救急救命医学の基礎知識及び安全管理について学ぶことを目的としています。リハビリテーションの臨床現場は生命に関わる心疾患、脳卒中等の急性期管理の必要な患者が対象となり、生命に直結する緊急時に遭遇することが想定されます。そのため、緊急事態発生時に、適切かつ安全な医療を提供できる知識、技術を学んでいきます。また、医療現場における安全管理についても理解を深め、基本的知識を修得することを目的とします。
当該科目と学位授与方針等の関連性：A-1、2

(方法)

緊急時対応方法を、実技演習を通して習得していきます。講義内容に「村上市消防本部救命講習普通救命講習1（応急手当ＷＥＢ講習e-ラーニング、実技救命講習）」が含まれています。

【一般教育目標(GIO)】

・医療の安全管理の基本的知識を修得し、多職種と継続的に連携した安全の取り組みを理解する。
・救急医療体制を知り、救急医療の諸問題について理解する。
・医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について、知識を活用し技術を修得する。

【行動目標(SBO)】

・医療安全の用語、医療安全体制について説明できる。
・救急医療体制と救急疾患の特性を説明できる。
・成人の一次救命処置が実施できる。
・小児の一次救命処置を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

内山靖（他）編、安全管理学・救急医療学、医歯薬出版、2021年、￥2700（税別）

【参考書】

瀬尾憲治（著）、AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために、医歯薬出版、2016年
二宮啓子（編著）、小児看護学概論改正第3版、南山堂、2017年
中野綾美（編著）、小児の発達と看護、メディカ出版、2018年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。
・成績評価は、小テスト及びレポート点数、実技点数により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	10		60			100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					50			50
	学修に取り組む姿勢			10		10			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	医療安全の概要、基本的な考え方 ・医療安全の変遷 ・人間がもつ特性 ・医療安全の共通用語	講義	予習：テキストP８～13を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
3.4	医療安全の概要、医療安全体制について ・国の医療安全対策 ・組織の医療安全対策	講義	予習：テキストP24～27を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
5・6	医療事故における法的責任 ・医療過誤で問われる法的責任 ・有害事象の対応	講義	予習：テキストP20～23を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
7・8	救急医療 ・救急医療の特徴 ・緊急を要する病態・臨床所見・バイタルサインの特徴	講義	予習：テキストP64～69を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
9・10	小児のバイタルサイン ・小児のバイタルサインの特徴 ・小児、乳児の心肺蘇生	講義	予習：小児のバイタルサインの正常値を調べる 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
11.12	成人の救急救命・心肺蘇生 ・応急手当WEB講習e-ラーニング受講	e-ラーニング受講	予習：BLSの手順について調べる 復習：課題レポートで振り返り	30分 30分
13・14	一次救命実習 ・村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）について調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分
15	一次救命実習 ・村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）について調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分

リハビリテーション学科

【科目名】	栄養学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-14-0455-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、理学療法学専攻及び作業療法学専攻の必修科目です。
※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での栄養教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、生命維持に欠かせない栄養の基本的な仕組みと、ライフステージや疾患に応じた栄養摂取法について講義・演習を行っていきます。臨床経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない中途退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
教科書は指定いたしません。
講義中あるいは終了後にレポートを課す場合があります。また、自身の食生活調査や栄養計算等も行っていきます。

【講義概要】

(目的)

私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。
本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防・改善できる基礎を学ぶことを目的とします。また、高齢社会において注目されているサルコペニア/フレイルと栄養の関係も説明でき、適した栄養摂取法により摂食嚥下障害や誤嚥性肺炎を予防・改善することも可能であることも学びます。
当該科目と学位授与との関連性：A-3, P-2, O-2, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。
課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。

【一般教育目標(GIO)】

「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解する。
生物としての生命/生活を維持のため、栄養的な側面から必要な食品の栄養特性と物性を説明できる。
栄養と健康維持・増進、栄養と疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。
フレイル及びサルコペニアの予防、更に認知機能障害の予防を栄養管理の面から説明できる。
「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解する。

【行動目標(SBO)】

栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。
ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。
保健・医療・福祉等でのリハビリテーションおける栄養管理法の基礎を修得する。
経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。
栄養状態とうつ症状等の心理状態の関係性を理解し、臨床現場で身体と心の両面から適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定しない

【参考書】

田村明（著)「イラスト栄養学総論」東京教学社；第9版（2021）　￥2,420
栢下淳・若林秀隆（編著）　「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎；第3版」医歯薬出版（2022/12）　¥4,180
若林秀隆（編著　）「リハビリテーション栄養 ハンドブック」医歯薬出版（2010/11）　¥3,960

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含まない。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク・エネルギー低栄養状態(PEM)とは ・栄養状態の評価法（栄養スクリーニング）	講義	加齢による「食べること」についての障害を知り、適切な栄養サポートを学ぶ。	30
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・低栄養とうつ ・脳と栄養	講義	栄養状態とうつ症状等の心理状態との関係性を理解する	30
3	何故食物を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化、吸収、代謝	講義	栄養素の吸収のしくみを知る	30
4	経口摂取と非経口摂取法 ・摂食嚥下障害 ・食形態 ・栄養投与ルート	講義	非経口摂取法の基本を知る	30
5	栄養素Ⅰ_３大栄養素① ・三大栄養素とは 1)炭水化物 糖質の成分と栄養特性 食物繊維のはたらき	講義 一部演習	三大栄養素の定義を理解する 炭水化物の種類と機能を知る	30
6	栄養素Ⅰ_３大栄養素② 食品の成分と栄養特性 2)脂質 3)たんぱく質	講義	脂質とたんぱく質の種類と機能を知る 必須脂肪酸/必須アミノ酸の機能を理解する	30
7	栄養素Ⅱ_５大栄養素① ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義 確認テスト	ビタミンの種類と機能を知る ビタミンの生理機能を理解する	30
8	栄養素Ⅱ_５大栄養素② ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状 ・脱水症状	講義	ミネラルの生理機能を理解する 脱水症状とその予防法を学ぶ	30

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン ・栄養計算（演習） ・エネルギーバランスの計算	講義 一部演習	エネルギー代謝と食事摂取基準 レポート作成	60
10	食品群別摂取量 ・栄養バランス ・栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	バランスがとれた食事を理解する 食事調査を実施する	120
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	乳幼児期、児童期、青年期、成人期、妊娠・授乳期、高齢期の各身体の特徴と主な食事の留意点を理解する。	30
12	健康と食生活 ・心疾患、脳血管疾患、高血圧、糖尿病等	講義	栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	30
13	介護予防のための栄養食事管理法① ・骨粗鬆症	講義	資料【[食べて]＋[動く]→[健康寿命]】の意味を理解する。	30
14	介護予防のための栄養食事管理法② ・フレイルとは ・サルコペニア/フレイル予防と栄養	講義 一部演習	資料配布 フレイルチェック（演習）	30
15	まとめ 多職種連携における ・栄養サポートチーム(NST) ・栄養ケアマネジメント(NCM)	講義 一部演習	臨床における栄養管理 NSTとは多職種で構成された医療チームであることを理解する	30

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション概論			【担当教員】	髙橋　明美、藤本　聡、髙橋　圭三、大矢　薫
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。
・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理士・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テストについては、返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3

(方法)

資料・教科書を用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。

【一般教育目標(GIO)】

保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。

【行動目標(SBO)】

１．リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。２．障害の概念や分類について説明できる。３．リハビリテーションの過程について説明できる。４．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。５．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。６．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

①真柄彰,他：リハビリテーション概論,理工図書,2017,¥4700（税別）
②上好昭孝,他：医学生・コメディカルのための手引書，リハビリテーション概論，改訂第3版，永井書店，2014，￥3000（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テスト、レポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 (高橋明美)	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	90
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
5 前期	作業療法概論	講義 (藤本)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
6 前期	言語聴覚療法概論	講義 (専任教員)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義 (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
8 前期	まとめ 試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	社会保障論			【担当教員】 鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0010-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	jajamaru@rose.ocn.ne.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メールで対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

併せて福祉財政論を履修することが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特に無し

【講義概要】

(目的)

本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生涯をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を用いる。制度が頻繁に改正されるので日ごろ、厚生労働省、内閣府のホームページを閲覧する習慣を身に着けること

【一般教育目標(GIO)】

・我が国における社会保障の変遷及び現行の社会保険、社会扶助の体系に則してその理念と制度について立体的に概説できる。

【行動目標(SBO)】

・我が国おける社会保障の変遷及びその特徴について概説できる。・社会保障の理念と機能、その体系・仕組みについて包括的に説明できる。・社会保障の財源と費用について概説できる。・年金保険制度について概説できる。・医療保険制度について概説できる。・介護保険制度について概説できる。・公的扶助等の社会福祉制度・サービスについて概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

そのつど、広義の中で提示します。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力	25		25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	生涯を支える社会保障の全体像	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	社会保険の仕組み	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	年金制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	介護保険の現状と課題	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	医療保険制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	公的扶助と生活困窮について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15-16	これからの社会保障のあり方	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	公的扶助論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・指定のテキストを購入のうえ受講を必須とする。テキスト未準備のまま受講は不可とする

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オンラインによる授業を想定しているため，指定テキストありきの進行となる。テキスト不所持では理解困難であり，定期試験においても参照を可とするので必ず準備すること。

【講義概要】

(目的)

本邦における公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とする。また、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。講義においては、公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、個人責任のみとは言えない貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援態度について理解する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は公的扶助が必要となった事例について配布資料・映像資料を用いてイメージを作り、その後、教科書・統計情報等の配布資料を用いながら、公的扶助に関する総論的講義を行います。憲法における生存権の保障をもとに、生活保護制度の理念、原理原則、発展過程の講義を行います。地域における低所得層支援の実際事例を伝えていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・公的扶助に関する概略を理解する。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。
・憲法に保障された生存権の保障について理解する。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を理解する。
・低所得等により支援が必要な方の心情を理解し支援を必要とする方に対する専門職としての支援態度を理解する。

【行動目標(SBO)】

・公的扶助とはどのようなことか説明できる。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を説明できる。
・憲法に保障された生存権の保障について説明できる。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を説明できる。
・低所得等により支援を必要とする方に対する、専門職としての支援態度を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

「貧困に対する支援」ミネルヴァ書房　２０２１年１０月２０日出版　定価２６００円＋税
岩崎晋也 監修/白澤政和 監修/和気純子 監修/岩永理恵 編著/後藤広史編/山田壮志郎 編著
ISBN ９７８４６２３０９２０９３

【参考書】

・厚生労働省ホームページ / 厚生労働白書・直近年度の被保護者調査結果等公表データ等

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価は定期試験（50%）、レポート評価（50%）とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	0	50	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	40	0	50	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	10	0	0	0	0	0	0	10
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	現代社会の中の貧困について理解する 「貧困」に対する学生が持つイメージと「貧困の実際」についての違いを理解する。 「見える貧困」「見えない貧困」について動画視聴・資料等を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	貧困状態にある人を取り巻く環境と生活実態を理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	福祉国家と公的扶助の位置づけについて理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	生活保護制度の原理・原則，保護の種類・範囲・方法と基準などについて理解するための解説講義を行う（1）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	生活保護制度の原理・原則，保護の種類・範囲・方法と基準などについて理解するための解説講義を行う（2）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	多様化する貧困状況と生活困窮者支援制度についてを理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	貧困と生活困窮者に対する支援の実際について理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	公的扶助論まとめ 試験範囲を提示する	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイ	90

リハビリテーション学科

【科目名】	権利擁護と成年後見制度論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0020-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・指定のテキストを購入のうえ受講を必須とする。テキスト未準備のまま受講は不可とする

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オンラインによる授業を想定しているため，指定テキストありきの進行となる。テキスト不所持では理解困難であり，定期試験においても参照を可とするので必ず準備すること。

【講義概要】

(目的)

少子高齢社会では、認知症の方や障がいを持たれた方への支援の重要性は増しています。この科目は臨床で求められる権利擁護と成年後見制度の基礎的知識を養うものです。権利擁護を総論的に理解するとともに、その具体的な手法の一つである成年後見制度による支援方法を学びます。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

主として、教科書と配布資料を使用して、前半は権利擁護が必要になる事例を提示して、権利擁護についての講義を行ないます。後半では権利擁護の方法として、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制定背景、仕組みへの理解を深める。また権利擁護に関連する周辺法律である高齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法、児童虐待防止法についても講義します。

【一般教育目標(GIO)】

・本邦における権利擁護に関する法制度の概略を理解する。
・本邦における成年後見制度の概略を理解する。
・本邦における日常生活自立支援事業の概略を理解する。
・本法における各虐待防止法の概略を理解する。

【行動目標(SBO)】

・権利擁護、成年後見制度、日常生活自立支援事業が求められる社会的背景を説明できる。
・成年後見制度における任意後見制度と法定後見制度の違いを説明できる。
・後見・保佐・補助の違いを説明できる。
・本邦における高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

「権利擁護とソーシャルワーク」発行所 ミネルヴァ書房 （２８００円+税）２０１９年１月２０日発行
編著者上田晴男，小西加保留，池田直樹，発行者杉田啓三，印刷者田中雅博 ISBN ９７８４６２３０８２９４０

【参考書】

厚生労働省HP
法務省HP

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価は定期試験（50%）、レポート評価（50%）で行う

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	0	50	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	40		50					90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ	0							0
	発表力	0							0
	学修に取り組む姿勢	0							0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	権利擁護とは何か ・ソーシャルワークの理念と権利擁護	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	ソーシャルワークとアドボカシー ・アドボカシー ・エンパワメント ・自己決定尊重 ・環境アセスメント	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	意思決定支援の理解 ・意思決定支援と代理代行決定 ・権利擁護としての意思決定支援	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	権利擁護と法 ・憲法規範としての権利擁護 ・民法における権利・義務・責任 ・権利擁護を目的とした行政法規	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	成年後見制度の理解（1）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	成年後見制度の理解（2）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	成年後見制度の権利侵害事例への活用	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	福祉サービスと権利擁護 ・日常生活自立支援事業 ・福祉サービスと苦情解決のしくみ ・福祉サービスと第三者評価 まとめ	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	地域包括ケア論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0025-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・指定のテキストを購入のうえ受講を必須とする。テキスト未準備のまま受講は不可とする

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オンラインによる授業を想定しているため，指定テキストありきの進行となる。テキスト不所持では理解困難であり，定期試験においても参照を可とするので必ず準備すること。

【講義概要】

(目的)

医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・地域福祉に関する概略を理解する。
・コミュニティケアの概略を理解する。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。
・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。
・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。
・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。
・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

「よくわかる地域包括ケア」発行所ミネルヴァ書房 定価２４００円＋税 ２０１９年３月３０日 初版 第２刷発行
編著者 隅田好美，藤井博志，黒田研二，発行者杉田啓三，印刷者藤森英夫 ISBN ９７８４６２３０８２９３３

【参考書】

・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価は定期試験（50%）、レポート評価（50%）により評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	0	50	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	40		50				0	90
	思考・推論・創造の力	10		0				0	10
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0				0	0
	発表力	0		0				0	0
	学修に取り組む姿勢	0		0				0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	地域包括ケアとは何か	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	地域包括ケアと地域福祉	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	地域包括ケアを支える制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	社会福祉の基本理念と生活支援	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	地域包括ケアを支える制度支える専門職	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	保険予防と介護予防	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	多様な対象者に対する地域包括ケア（1）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	多様な対象者に対する地域包括ケア（1） まとめ	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	福祉財政論			【担当教員】	鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0030-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	jajamaru@rose.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メールで対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目の履修にあたっては、「社会保障論」もあわせて履修すること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

社会保障・福祉制度における国・都道府県・市町村の役割とその財源、国と地方の関係、組織及び団体、専門職の役割等、地域福祉の基本的考え方について理解する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

講義を中心に行う。財政については複雑になる場合が多いので、映像資料を適宜使用する。

【一般教育目標(GIO)】

・我が国の社会保障制度の変遷とその特徴について理解する。
・社会福祉の行財政について理解する。

【行動目標(SBO)】

・福祉行財政の動向について概説できる。
・社会保障にかかる負担と給付のバランスについて費用統計の推移と現況を踏まえ概説できる。
・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。
・財政の現況を踏まえこれからの社会保障について、自分の考えを組み立て概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

講義資料の中で提示する。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	50						100
評価指標	取り込む力・知識	25	25						50
	思考・推論・創造の力	25	25						50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	社会福祉行政の実施体制（国と地方の役割）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	財政の機能（国家予算と地方財政）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	生涯を支える社会保障の全体像とその財源	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	年金制度の仕組みと財政について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	高齢者福祉と介護保険制度の仕組みと財政	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	医療保険制度の仕組みと財政	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15	少子高齢社会と社会保障の将来像－負担と給付のバランスを踏まえて	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅰ			【担当教員】 押木　利英子、長島　裕子、知名　規人、伊藤　渉
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0025-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	oshiki@nur05.onmicrosoft.coom. y.nagashima@nur05.～,miyaoka@nur05.～,china@nur05.～
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 在室時(12：50～13：20)

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

患者や利用者中心の価値観やチーム形成、コミュニケーションに関する力はリハビリテーション医療に限らず、社会に求められる知識、態度、技能です。実習や社会に出て様々な人と関わることになる学生はどの専攻であっても学ぶことに大いに意味がある。専門職を目指す学生として積極的に受講してください。

病院や施設において、専門職としてチーム医療に実務経験をもつ教員が担当する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

同級生との討論・まとめ・発表などの自主的な活動を中心に授業が進むので、率直な意見交換ができるよう、日ごろから自分の考えや感じたことを他の人に伝えたり、他の人の意見を聴くように心がけていただきたい。
授業で話題にするテーマに関して、HP,雑誌、新聞、図書、参考資料等での予習復習をすること。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、理学療法、作業療法、心理職をはじめとする多くの保健・医療・福祉職の連携が必須である。チーム医療Ⅰでは、まず、患者・利用者中心に考える視点や専門用語、チーム形成に必要な心構えなどを学ぶ。そして、関連する専門職とその役割を知り、多職間連携の重要性について理解することを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2

(方法)

基本的には、講義30分＋グループワーク（ディスカッション）→まとめ　という進行手順で授業を構成する。
グループワークでは学生同士の討論を中心とし、、リーダーシップ、メンバーズシップが実践できるようにグループ全体で協力する。
討論テーマについての情報や資料は、講義内容、図書、ネット、事前学習等で収集する。

【一般教育目標(GIO)】

①社会で求められている態度、コミュニケ―rション力の必要性を理解する。
②生きること、老いること、障害があること等が人間にとってどのような意味を持つのか理解する。
③多くの専門職を知り、連携の重要性を理解する。
④チーム医療の一員としての自分に求められる知識と役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

①グループワークにおいて、各自が役割を認識し、リーダーシップ、メンバーズシップが発揮できる。
②人の気持ちに寄り添い、悩みや苦しみに共感できる。
③リハ医療に関連する専門職10種類以上の名称と役割の概要について。説明できる。
④各自の目指す専門職を具体的にイメージし、必要な専門用語を使って説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

なし

【参考書】

適時、資料を配布する。
「保健・医療・福祉のための　専門職連携教育プログラム」柴崎智美他編集　ミネルヴァ書房　￥2500

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト、個人のレポート、グループでのレポート（発表資料）、その他の成績を合わせて評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				70	30				100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	・科目についてのオリンテーション ・アイスブレーキング ・チーム医療とは何か ・ヒューマンケアとは何か	・講義 ・演習 (押木)	・チーム医療について、予習、復習を行う。 ・チーム医療、ヒューマンケアについて書籍,ネット等で調べる。	90分
3.4	・コミュニケーションの知識 基礎的知識 コミュニケーションの重要性 ロールプレイ	・講義 ・演習 (長島)	・コミュニケーション論について書籍,ネット等で調べる。 ・演習で学んだことをまとめる。	90分
5.6	・具体的なストーリー(1) (生・老・病・死・障害等)	・講義 ・演習 (押木)	・具体的なストーリをメモする。 ・討論メモをまとめる。	90分
7.8	・具体的なストーリー(2) (生・老・病・死・障害等)	・講義 ・討論 (知名)	・具体的なストーリをメモする。 ・討論メモをまとめる。	90分
9.10	・具体的なストーリー(3) (生・老・病・死・障害等)	・講義 ・討論 (長島)	・具体的なストーリをメモする。 ・討論メモをまとめる。	90分
11.12	・専門職の役割を学ぶ グループディスカッション 専門職理解ゲーム	・討論 ・演習 (知名)	・各専門種の役割を調べる。 ・各専門職の役割と、近来の自分の職業とのつながりをまとめる。	90分
13.14	・事例を通して各専門職の役割を学ぶ グループディスカッション	・討論 ・演習 (押木)	・事例について、各専門種の役割を考える。 ・各専門職の役割と、近未来の自分の職業とのつながりをま　とめる。	90分
15	・まとめ	・講義 ・演習 (押木)	・振り返り	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法概論			【担当教員】 押木　利英子、金子　巧、北村　拓也、長島　裕子、小林　量作
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-11-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	oshiki@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木　11:00～17：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法を学んでいく上で最初の、基礎となる科目です。
理学療法士を目指して学ぶ上で必要な心構えや知識を学びます。

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関やリハビリテーション施設で理学療法士として従事してきた経験をもとにして授業を組み立てます。″

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義開始後15分以降の入室の場合は遅刻とします。
グループワークを中心に授業を進めますので、主体的に参加してください。

レポートは特に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医学の中に位置づけられる理学療法の定義や職域、法律制度などを概観し、理学療法の全体像を学修するまた、専攻教員より専門理学療法に関する情報や理学療法を学ぶ学生として必要な基礎的知識を学ぶことを目的とする。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2、P-1″

(方法)

理学療法の定義や職域、法律制度の概要を学び、理学療法の全体像を理解できるように講義する。
理学療法を学ぶ上で必要な基礎知識について、講義、演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の職域や職能、取り巻く組織・法律、教育について理解する。
・理学療法士を目指すうえで必要な知識やその分野に求められる倫理について理解する。
・理学療法発展や応用について理解する。″

【行動目標(SBO)】

・理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織や法律を理解することができる。
・理学療法を学ぶうえでの必要な知識、倫理を習得する。″
・理学療法を学ぶ学生として適切な行動規範を習得する。

【教科書・リザーブドブック】

理学療法概論　羊土社　¥3200＋税

【参考書】

適宜、紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
小テスト、レポート、グループワークの評価を行う。

前期と後期の得点を総合して科目の成績とする。（前期100点＋後期100点）÷2＝100点

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				70	20			10	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			10	10				20
	発表力			0	10				10
	学修に取り組む姿勢			20				10	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・理学療法って何だろう？ 入学の動機、今まで、そしてこれからについて	グループワーク 押木	授業で話し合ったことについて振り返る。	90分
3,4	第1章 ① 理学療法 ② リハビリテーションとハビリテーション	グループワーク 押木	教科書p12～p20を読む。 ・教育的、職業的、社会的、医学的リハビリテーションの違いを理解しておくこと。	90分
5,6	Teacher's Speach (1) PT専攻内教員の自由語り（自己紹介、専門分野、1年生に望むことなど） (2名)	講義、ワーク他 PT教員	授業内で得られた情報をまとめる。感想や質問をまとめる。	90分
7,8	Teacher's Speach (2) PT専攻内教員の自由語り（自己紹介、専門分野、1年生に望むことなど） (2名)	講義、ワーク他 PT教員	授業内で得られた情報をまとめる。感想や質問をまとめる。	90分
9.10	Teacher's Speach (3) PT専攻内教員のスピーチ（自己紹介、専門分野、1年生に望むことなど） (2名)	講義、ワーク他 PT教員	授業内で得られた情報をまとめる。感想や質問をまとめる。	90分
11,12	Teacher's Speach (4) PT専攻内教員の自由語り（自己紹介、専門分野、1年生に望むことなど） (2名)	講義、ワーク他 PT教員	授業内で得られた情報をまとめる。感想や質問をまとめる。	90分
13,14	第１章 ③ 理学療法士法、及び作業療法士法 ④ 理学療法士の職域	講義 小林	教科書p21～p39を読む。 ・医療・介護・障害児・健常者・スポーツ・行政・教育研究における理学療法の職域を理解していくこと。	90分
15、16	第1章 ⑤理学療法士の組織 ⑥理学療法士の教育	講義 押木	教科書p40～p64を読む。 ・特に学生教育のところをよく理解しておくこと。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法概論			【担当教員】 押木　利英子、中川　真紀子、中山　恵子、角張　勲
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-11-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	oshiki@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)火・木　11:00～17:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法を学んでいく上での基礎となる科目です。
理学療法学専攻教員及び外部講師によりオムニバスにて講義を進めます。
本科目は、実務経験者が行う授業科目です。″

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

″遅刻は、講義開始後20分以内の入室とします。
レポートは他に支障のない限り返却します。″

【講義概要】

(目的)

″理学療法にはさまざまな職域がある。本講義では、専攻教員及び外部講師の専門分野等の講義を受けることで、自分の目指す理学療法士像を明確にすることを目的に行う。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2、P-1″

(方法)

各専門分野の専攻教員及び外部講師がその領域の仕事内容、活動の様子、やりがいについて講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の各専門分野の仕事内容について習得する。
・理学療法士を取り巻く現状について取得する。

【行動目標(SBO)】

・臨床現場での理学療法士の業務と役割を理解する
・理学療法士としての自分の将来像を想い浮かべることができる。

【教科書・リザーブドブック】

理学療法概論　羊土社　￥3200＋税

【参考書】

適宜紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

″本学学則既定のGPA制度に従う
出席点は含まない
前期と後期の得点を総合して科目の成績を判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80	20				100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			20					20
	発表力			10	10				20
	学修に取り組む姿勢			10	10				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
17,18	第4章 理学療法における評価と治療	押木　講義	教科書p132～p160をよく読んで理解しておく	90分
19,20	地域（予防、維持、在宅訪問）の理学療法	長島　講義	地域理学療法」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分
21,22	NICUの理学療法	中山　講義 (Web)	「NICU」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分
23,24	総合病院の理学療法	金子　講義	「総合病院の理学療法」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分
25,26	スポーツ理学療法	覚張　講義 (Web)	「スポーツ理学療法」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分
27,28	海外協力隊・地域行政の理学療法	中川　講義	「海外協力隊」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分
29,30	教員の仕事 まとめ	北村　講義	「大学院」について、図書やインターネット等で調べておく。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-16-0575-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月曜：8:00-12:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は，実技(教科書を見ながら)を中心に実施します．動きやすい服装できてください．ケーシーがあればケーシーを着用すること．
また，実技をすることからマスク，手袋，フェイスシールドは必ず装着の上で行います（COVID-19感染拡大予防）．
なお，本科目は2年次に履修する理学療法評価学実習の基礎にあたります．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

本科目は，前期後期で学習する解剖学や運動学の知識に基づく実技科目となります．下記のコマ内容である「学習課題」にあるキーワードを事前に学修した上で本講義を受講すること．もし，怠れば講義内容の理解が十分に得られなくなります．当然ですが，本科目の指定教科書以外の教科書や参考書の使用も積極的に行ってください．
なお，本科目は実務経験10年以上（専門：運動器疾患）の理学療法士資格を有する教員が担当します．

【講義概要】

(目的)

理学療法士として働く上で，「理学療法評価」は非常に重要です．人の身体，動きを把握するために行う評価の方法を実技を通して学びます．
当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3.

(方法)

下記にある教科書を参考にしながら，紹介する理学療法評価の一つ一つを実践していきます．
そのため，少なくとも指定教科書は毎講義に必ず持参すること．
【重要】
毎講義の終わりに10分程度の確認テストを行います．確認テストの内容は，当日受けた講義の内容です．もちろん，確認テストの点数も成績に反映されます．なお，初回には肩関節，肘関節の筋肉（起始停止，神経支配）の確認テストを行います．

【一般教育目標(GIO)】

理学療法評価の種類とその目的を理解できる．
理学療法評価の実践する上での注意点を挙げることができる．
理学療法評価の実践ができる．

【行動目標(SBO)】

理学療法評価の種類，とそれぞれの目的，注意点を説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

・crosslink理学療法学テキスト．理学療法評価学，メジカルビュー社(5,000円+税)
・新・徒手筋力検査法，原著第10版，協同医書出版社（7,500円+税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．
・成績対象：試験（筆記試験）＋小テスト（確認テスト）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	50	0						50
	思考・推論・創造の力	30	0						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	・小テスト （範囲：肩関節，肘関節に関わる筋とその起始停止，支配神経の分節） ・講義オリエンテーション ・理学療法評価の紹介	・試験 ・講義	・筋肉起始停止，支配神経（肩関節，肘関節）参考教科書：徒手筋力検査法	90分
3-4	・QOL評価 ・ADL評価 ・確認テスト	・試験 ・講義	教科書：p348-376 ・QOL ・QOL評価法の種類 ・ADL ・ADL評価法の種類	90分
5-6	・リハビリテーションの流れ ・問診（医療面接） ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p18-47 ・問診で考えること ・問診の仕方 ・理学療法の中の問診	90分
7-8	・バイタルサイン ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p83-90 ・バイタルサインの種類 ・各種バイタルサインの正常値	90分
9-10	・動作分析（起居動作(寝返り，起き上がり)） ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p383-394 ・動作の種類 ・動作分析のポイント	90分
11-12	・動作分析（歩行） ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p383-394 ・歩行周期と名称（ランチョロス） ・歩行周期と筋収縮	90分
13-14	・姿勢評価 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p162-164 ・ランドマーク（骨指標） ・姿勢の種類 ・姿勢評価のポイント	90分
15-16	・触診（ランドマーク）：肩甲骨，上肢 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	・肩甲骨に付着する骨格筋の起始停止	90分

17-18	・触診（ランドマーク）：骨盤，下肢 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	・骨盤に付着する骨格筋の起始停止	90分
19-20	・関節可動域検査（ROM）：肩関節 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p227-229 ・基本軸，移動軸，参考可動域	90分
21-22	・徒手筋力検査（MMT）：肩関節 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	・判断基準 ・抵抗方法 ・肩関節周囲筋の位置 ・屈曲，伸展，外転，内転，外旋，内旋	90分
23-24	・関節可動域検査（ROM）：股関節 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	教科書：p233 ・基本軸，移動軸，参考可動域	90分
25-26	・関節可動域検査（MMT）：股関節 ・確認テスト	・試験 ・講義 ・実技	・判断基準 ・抵抗方法 ・肩関節周囲筋の位置 ・屈曲，伸展，外転，内転，外旋，内旋	90分
27-28	・第1回実技プレテスト （実技試験前類似環境下でのプレ試験）	・試験 ・実技		90分
29-30	・第2回実技プレテスト （実技試験前類似環境下でのプレ試験）	・試験 ・実技		90分
	試験	・試験	総まとめ	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	生活環境論Ⅰ			【担当教員】	木村　和樹、長島　裕子、金子　巧
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

模擬高齢者体験は校内で行うため、教員の指導に従って行動すること。退院支援や在宅でのリハビリテーションを実施してきた経験から、高齢者などの模擬体験を通じて、医療職として必要な知識を講じる。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。

【講義概要】

(目的)

在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法や種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修することを目的とする。
※当該科目学位授与方針等との関連性；A-2,P-2

(方法)

高齢者は日常生活で環境的なバリアを感じることがあるため、実際に福祉用具・車いすを用いながら疑似体験を行う。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。そのために模擬患者を経験して生活環境でのバリアなどを理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

①生活環境の概要について説明できる。
②住宅改修や福祉用具を活用するために必要な法的制度について説明できる。
③模擬高齢者などの体験をして、環境条件の影響を理解することができる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
レポートにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション 生活環境学の概念	講義（木村）	教科書（生活環境学　総論第１章）を読んでおくこと。	30分
3.4	日常生活を支援する機器 （自助具、歩行補助具、車いす）	講義（木村）	教科書（生活環境学　各論）を読んでおくこと。	60分
5-8	Aグループ：車いす体験 Bグループ：模擬片麻痺体験	演習（木村・長島）	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	60分
9-13	Aグループ：模擬片麻痺体験 Bグループ：車いす体験	演習（木村・長島）	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ。 生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する。	60分
14.15	模擬体験のまとめ	講義（木村）	レポートを作成できるように体験の内容をまとめる。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅢ			【担当教員】	長谷川　裕、藤本　聡、浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0016-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。
・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-2,3

(方法)

このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランテイア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。
・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。
・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。
・e-learningとしてエルコアを授業の教材として用い、「医療倫理」についての受講を完了することができる

【教科書・リザーブドブック】

・必要に応じ資料を配付する。

【参考書】

・必要に応じ資料を配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・グループ発表得点、最終レポート、エルコアを受講完了し証明書、その他課題の提出
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション（4月13日） ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2,3	ゼミ活動-1 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
4,5	ゼミ活動-2 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
6,7,8	エルコアの実施	演習	担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	Power BI①Power BIの概要と基本操作 （5月12日）	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	Power BI②Excelデータの取り込みとクエリ （5月19日）	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	Power BI③数表とフィルターリング （5月26日）	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30

17,18	Power BI④グラフ表示と書式設定 （6月2日）	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
19,20	ゼミ活動-4 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
21,22	ゼミ活動-5 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
23,24	ゼミ活動-6 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
25,26	ゼミ活動-7 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
27,28	ゼミ活動-8 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定）	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
29,30	ゼミ活動-9 （スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定） ・ゼミ内での中間発表	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅣ			【担当教員】	長谷川　裕、藤本　聡、中川　明仁
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0017-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。この科目では、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-2,3

(方法)

この科目では、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランテイア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータを統計学的にまとめ、解析に数理データサイエンスを取り入れる。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。
・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。
・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミⅢで学んだPower BIを活用できる。
・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。
・学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。

【教科書・リザーブドブック】

・必要に応じ資料を配付する。

【参考書】

・必要に応じ資料を配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・抄録、グループ発表得点、活動に対する取り組み、その他課題の提出
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション（4月13日） ・文献検索について	講義・長谷川		30
2,3,4	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。（6月9日）	配信・演習	担当教員の指示に従ってください。	30
5,6	研究結果を統計学的にまとめる手順とそのプレゼンテーションの方法（6月実施予定）	講義・中川先生	担当教員の指示に従ってください。	30
7,8	ゼミ活動-1 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	ゼミ活動-2 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	ゼミ活動-4 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	ゼミ活動-5 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30

17,18	ゼミ活動-6 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
19,20	ゼミ活動-7 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
21,22	ゼミ活動-8 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
23,24	ゼミ活動-9 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
25,26	ゼミ活動-10 （適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。）	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	30
27,28,29,30	発表会（11月15日）	長谷川・藤本・担当教員	・発表の準備 ・発表	30

リハビリテーション学科

【科目名】	コンピューターと人間の接点Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0010-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。
・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。
・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。
・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。
・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。

【講義概要】

(目的)

・IoT(物のインターネット)の仕組みを理解するため、その構成要素であるマイクロコンピュータと各種のセンサーについて学習する。またマイクロコンピュータよりのデータ収集方法(有線・無線・インターネットより)についても理解する。
・IoTをリハビリテーション分野に応用する方法について理解する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3

(方法)

・マイクロコンピュータ(MICRO:BIT)を使用し各種センサーを制御するプログラミングをブロックプログラム言語を用い演習する。
・各種のセンサーより得られたデータを有線、無線あるいはインターネットを経由してパーソナルコンピュータに取り込み分析するプログラムについて演習する。
・またリハビリテーション分野でのIoT利用例を示しプログラミング演習をおこなう。

【一般教育目標(GIO)】

・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。
・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。
・リハビリテーション分野でのIoT利用について利用例を説明できる。

【行動目標(SBO)】

・MICRO:BITの構造について説明できる。
・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。
・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込むプログラムを作成できる。
・センサーよりのデータの収集法と分析方法について説明できる。
・リハビリテーション分野でのIoTを活用したデータ収集について具体的事例を考案できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

必要に応じ資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション インターフェースとは IoTとその利用	講義	・シラバスを読んでおく。 ・MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	Micro:bitの基本構造と開発環境 ・LEDに文字を表示する。 ・ハートマークを点滅させる。 ・音を発生させる。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
3	乱数と条件分岐 ・乱数の使用方法 ・条件分岐の使用方法 ・じゃんけんゲームの作成	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
4	スイッチを使用したプログラム ・スイッチでLEDを点灯させる。 ・時間を測定する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
5	温度を測定する。 ・温度をグラフ表示する。 光の強さを測定する。 ・人感センサーを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
6	揺れを感知する。 ・電子サイコロを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
7	傾きを測定する。 ・傾きを数量化する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
8	方位を測定する。 ・コンパスを作成する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分

9	電圧を測定する。 ・人体接触を感知する。 ・簡易電圧計を作る。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
10	シリアル通信とコンソールの使用方法 ・マイクロコンピュータとパソコン間のデータ送受信の方法を学ぶ。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
11	2つのMICRO:BITを無線接続する ・文字列の送受信 ・数値の送受信	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
12	リモート計測 ・室温をリモート計測する。 ・測定データのエキスポート	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
13	歩数計の作成 ・無線を使用し歩行中の加速度を送受信する。 ・加速度波形を記録する。	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	VRとAR 環境とUI	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
15	まとめ	講義	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	30分 30分

リハビリテーション学科

【科目名】	コンピューターと人間の接点Ⅱ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。
・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。
・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。
・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。
・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。

【講義概要】

(目的)

・この科目では人工知能(AI)の概要を学習する。また強化学習を用いたモデル作成とプログラミングを行いAIの有用性を理解すると共に、リハビリテーション分野への応用についても考察する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3

(方法)

・Google teachable machineを利用し画像認識・音声認識・姿勢認識のデータモデル作成しScratch言語でプログラムする方法について演習する。
・これらの学習モデルをリハビリテーション分野に活用例を示し応用プログラムを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・AIの概要について説明できる。
・強化学習について説明できる。
・AIのリハビリテーション分野での活用を説明できる。

【行動目標(SBO)】

・AIの定義と強化学習について概要を説明できる。
・強化学習モデルの作成方法について説明できる。
・強化学習モデルをScratch言語を用いてプログラミングできる。
・リハビリテーション分野での強化学習モデルの利用を具体的に考察できる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

・阿部和広　監修/横川耕二: おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション　¥1650
・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験（日本語）単行本　¥2090

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・AIとは何か ・AIの利用領域	講義	・シラバスを見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
2	・機械学習とは ・教師あり学習と教師なし学習	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
3	・ニューラルネットワーク ・深層学習	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
4	L1-Q学習のアルゴリズム ・行動と報酬 ・期待値 ・報酬予測と学習則	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
5	L1-Q学習のアルゴリズム ・行動と報酬 ・期待値 ・報酬予測と学習則	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
6	AIモデルを使用するためのコンピュータ言語 Scratchの使用方法(1) ・エディタの使用方法 ・プログラムの保存・読み込み方法	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
7	Scratchの使用方法(2) ・スプライト・背景について ・イベント・メッセージの活用	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
8	Scratchの使用方法(3) ・変数・リストと演算 ・条件分岐	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分

9	Scratchの使用方法(4) ・例題の作成	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
10	Teachable machineと機械学習モデルの作成 ・画像認識 ・音声認識 ・ポーズ認識	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
11	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(1) ・画像認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
12	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(2) ・音声認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
13	機械学習モデルの応用・Scratchプログラム(3) ・ポーズ認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
14	音声合成について ・音声合成の原理 ・Scratchで「音声合成」拡張機能を使用する。	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
15	まとめ	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分

リハビリテーション学科

【科目名】	中国語			【担当教員】	橋本　親往
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hashimoto@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 08:30～17:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

初修中国語会話なので、中国や中国医学、中国語に関心のある人は誰でも履修することができる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

すべて配信授業なので、毎回ビデオを積極的に視聴し、発音・発声すること、宿題・復習・予習することが求められる。
筆記具などの学習ツールを用意すること。

【講義概要】

(目的)

日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人」で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよいが、本講義はその入門授業である。
当該科目と学位授与方針等との関連性 A 1,2

(方法)

中国語の発音、ローマ字表記、初級会話や関連する単語・常用表現などを学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

将来、本格的中国語の学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話を身につける。

【行動目標(SBO)】

あいさつ、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。

【教科書・リザーブドブック】

どんと来い中国語『無料中国語会話テキスト』の中国語本文を基に、日本語解説などを修正編集、PDFをMP4に変換。

【参考書】

小学館『中日辞典』『日中辞典』（電子辞書）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

毎回の視聴状況・課題または小テストにより総合的に評価。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60					40	100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							15	15
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	「中国語」とは 発音……ローマ字「拼音」 単語＝文字のアクセント（声調）……四声、軽声 北京語音表	発音練習		30 60
2	北京語音表	発音練習		90
3	第1課 こんにちは 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：あいさつ言葉 語彙：指示代名詞 文法：「～嗎」の疑問文	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
4	第2課 お元気ですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）： 時間帯別のあいさつ言葉 文法： 「也・都」の使い方 質問：「你早」と「早上好」のニュアンスの違い	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
5	第3課 お忙しいですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）： 否定詞を使った質問文「不～嗎」 語彙： 時制をあらわす言葉 文法： 自然な否定文「あまり～ない」	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
6	第4課 家の中の様々な生活用品【単語】 リビングに関する単語／ベッドルームに関する単語／バスルームに関する単語／キッチンに関する単語／書斎に関する単語	発音練習	学習チェックテスト	90
7	第5課 お名前は 会話／単語／注目フレーズ（常用語）： ①「私の名前は～です」②初対面で使う「お会いできてうれしいです」 文法： 「就」の使い方	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
8	第6課 今日は何月何日 会話／単語／語彙： 日付や曜日の言い方／注目フレーズ（常用語）：①「～でもいいですか」「～しましょうよ」②「だね」「だよ」色々な語気助詞／文法： 「是」の省略 主語・補語を直結	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90

9	第7課 ご紹介します 会話／単語／注目フレーズ（常用語）： ①「どなたですか」②「ちょっと～する」③「ご紹介します」④「道中気をつけて」／文法： ①所有や所属を示す「的」②最も基本的文型「主語＋述語」	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
10	第8課 何人家族ですか 会話／単語／語彙： 家族関係を表す呼び名 文法：①所有や所在を表す「有」の文型 ②介詞「在」を使った文型	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
11	第9課 基本単語① 人称代名詞／指示代名詞／疑問詞／基本的な動詞	発音練習	学習チェックテスト	90
12	第10課 いま何時 会話／単語 語彙： 時間の表し方 文法： 時間詞を置く語順	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
13	第11課 お家はどこですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）： ①数量の尋ね方②「ならばよかった」 文法： V1してV2する…二つの動作が連続する連動句	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
14	第12課 試着室はどこ 会話／単語 注目フレーズ（常用語）： ①ものを尋ねる「すみません」②文を強調「就」 文法： ①方位詞②正反疑問文「V＋不＋V」	会話練習 教材音声 ⇆ 学生	学習チェックテスト	90
15	第13課 基本単語② 助詞（介詞：時間／場所・範囲／方向／対象）／能願動詞（できる・したい・すべき） 基本的な形容詞	発音練習	学習チェックテスト	90

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英文抄読法Ⅰ			【担当教員】	原　亜由美
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0025-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ayumi.hara38@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール随時受付。返信は平日のみ。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞ1週間以内とする。

【講義概要】

(目的)

将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書：指定教科書：清水　雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）

【参考書】

様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑤ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑥ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

15	小テスト	演習	教科書内容についての語彙を中心としたテスト	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英文抄読法Ⅱ			【担当教員】	原　亜由美
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0027-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ayumi.hara38@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞ1週間以内とする。

【講義概要】

(目的)

将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。オンラインの検索システムを利用した英語論文検索の演習も行う。

【一般教育目標(GIO)】

英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書：清水　雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）

【参考書】

様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		35	40					75
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習①	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題①提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習②	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題②提出	90分

15	小テスト	演習	教科書内容についての語彙と論文検索についての理解を確認するテスト	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅱ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0020-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻２年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。
小テストの結果は全て返却します。
定期試験結果については必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学　改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
9・10	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
11・12	生殖器系： 女性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学実習			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0025-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	45	(オフィスアワー) 火曜日12：50～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のとき配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。

【講義概要】

(目的)

解剖学実習は、脳科学なかんずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として，その構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後，チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また，講義期間の中間と全講義終了後，試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題，解剖学実習・見学でのレポート，及び小テストと試験により総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	30	10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50	30	0					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	中枢神経系の概観ーーニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)ーー視神経，嗅神経，動眼神経，滑車神経，外転神経，三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)ーー顔面神経，内耳神経，舌咽神経，迷走神経，副神経，舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)ーー視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	中間試験 解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)ーー視床下部	講義	前回講義の復習	30分
29・30	大脳ーー皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

39・40	視覚器と視覚伝導路	講義	前回講義の復習	30分
41・42	聴覚器・平衡覚器とその伝導路	講義	前回講義の復習	30分
43・44	自律神経系ーー交感神経と副交感神経	講義	前回講義の復習	30分
45	試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学実習			【担当教員】 木村　和樹、長谷川　裕、藤本　聡、村井　絹子、星野　浩通、金子　巧、西倉　尊、伊藤　渉
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	45コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日　9：00-17：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。各実習は専門領域の教員が、機器の使用方法や目的を説明して実習を行う。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習時には白衣・KCを着用すること。実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。
各班ごとに、日時と開講場所が異なるので注意すること。
注：実施する場合は、実習着・フェイスシールド・マスク・手袋等の着用、手指消毒、使用後の機器備品の消毒等を厳格に行う。
この科目は対面授業で行います。ただし、コロナ感染の状況に応じてその限りではありませんので、Teams連絡事項を注意してみておいてください。

【講義概要】

(目的)

生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を学修することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性:A-2

(方法)

前半では動画学習を行い、実習の内容を理解する。
後半では実習を行い、結果をまとめ、自身の考察を記載する。
※新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインに切り替える可能性もあります。

【一般教育目標(GIO)】

生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。

【教科書・リザーブドブック】

生理学実習プリント（オリエンテーション時もしくは各実習で配布）

【参考書】

貴邑 冨久子，根来 英雄・「シンプル生理学（改訂第 6 版）」南江堂，2008 年．¥3,132（税込）
大地陸男著・『生理学テキスト（第 7 版）』文光堂，2013 年．¥5,184（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
科目を修得するためには2/3以上の出席およびレポートの提出が条件である。
実習前動画レポートを50点分、実習レポートを50点分とした計100点のうち60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1コマ分	オリエンテーション、動画学習・実習の説明	座学	各講義で準備することを確認する。レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
2コマ分	心電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	皮膚感覚について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	表面筋電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	スパイロメータについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	バイタルについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	平衡機能について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	血圧測定の演習	実習	実習内容を理解すること。	60

6コマ分	心電図の記録と解析	実習	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ分	皮膚感覚に関する実習	実習	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ分	表面筋電図の記録	実習	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ分	平衡機能の評価	実習	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ分	バイタルサインの測定と見方	実習	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	病理学概論			【担当教員】	平田　誠市
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0060-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	seiichi-hirata@nuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)随時メールで応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。30年以上、病院で病理解剖、病理診断に必要な標本作製、細胞診検査を行ってきた経験を基に、講義はオンデマンド形式で行います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・病理学は解剖学・生理学など基礎医学の知識が必須ですので、復習しておいてください。　・記憶の定着のためにレポートは手書きとし、また覚えた内容をアウトプットするのが重要ですので、確認問題や国試の過去問題を用いて演習を行います。

【講義概要】

(目的)

なぜ病気を発症し、症状が現れるのか。リハビリテーションにおける病態理解のために必要な病理学の知識を身につけることを目的とします。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2,A-3

(方法)

講義はオンデマンド型の講義動画を配信します。レポートは手書きしたものを写真撮影し、Teams経由で提出してください。定期試験は全てのレポートを提出した人に行います。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法・作業療法を実践するために、病気がどのような原因で起こり、その結果、身体にどのような異常が起きるか、病理学の基礎的知識を理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

・病因論、退行性・進行性病変、代謝障害、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、老化、先天異常、奇形について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　病理学　第4版　医学書院　5,060円(税込み)

【参考書】

・なるほどなっとく!病理学　第2版　小林正伸　南山堂　2,420円(税込み)
・シンプル病理学　改訂第8版　笹野公伸/岡田保典/安井弥　改定第8版　南江堂　定価3,300円(税込み)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

マークシート方式の筆記試験(50%)、レポート(50%)で評価します。（成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50		50					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・概要 ・病因論 ・老化について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書5-14,93-100pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
3・4	・退行性病変 ・進行性病変について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書15-25pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
5・6	・代謝障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書27-35pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
7・8	・循環障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書37-48pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
9・10	・免疫について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書50-59pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
11・12	・炎症 ・感染症について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書61-72pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
13・14	・腫瘍について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書73-92pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分
15	・先天異常、奇形について解説する	オンデマンド型講義	予習;教科書101-112pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	15分 60分

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅰ			【担当教員】	杉谷　想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0025-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	s-sugitani@mgh.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日 15：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし、深く理解できるように留意する。
試験問題は求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。
「感染症」「炎症」「アレルギー」など病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。
これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。内科学Ⅰでは「消化器」「代謝」などの疾患を各論的に学習する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。
内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。
リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、
病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。
・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基本を理解する。
・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。
・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版　南山堂

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症Ⅰ（診断と治療）	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症	講義	予習・復習	30
5	腫瘍学総論（診断と治療）	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝疾患	講義	予習・復習	30
7	採血検査、画像検査、薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・肝不全	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅱ			【担当教員】	杉谷　想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0030-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	s-sugitani@mgh.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日 15：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。
試験問題は求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で内科学の概念と医療における役割を理解する。
感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学Ⅰでの総論的な理解に引き続き、内科学Ⅱでは「循環器」「呼吸器」「血液」「腎・泌尿器」「膠原病」などの疾患を各論的に学習する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。
内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。
リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。
・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。
・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。
・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版　南山堂

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	血液概論、造血と貧血	講義	予習・復習	30
2	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	予習・復習	30
3	出血と止血、出血性要因と疾患	講義	予習・復習	30
4	糖尿病の診断と治療、合併症	講義	予習・復習	30
5	高脂血症、高尿酸血症	講義	予習・復習	30
6	視床下部、下垂体、尿崩症	講義	予習・復習	30
7	甲状腺疾患、カルシウム代謝、骨粗鬆症	講義	予習・復習	30
8	副腎疾患、カリウム代謝	講義	予習・復習	30

9	尿生成、急性腎不全	講義	予習・復習	30
10	腎炎、ネフローゼ、酸・塩基平衡	講義	予習・復習	30
11	慢性腎疾患、慢性腎不全、透析療法	講義	予習・復習	30
12	腎盂腎炎、尿路疾患	講義	予習・復習	30
13	免疫とアレルギー反応、自己免疫	講義	予習・復習	30
14	膠原病・類縁疾患	講義	予習・復習	30
15	感染症Ⅱと免疫不全	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅰ			【担当教員】	栢森　良二
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ryokayamori@outlook.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日14：00〜20：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．整形外科分野の疾病について理解することを目標とします．整形外科学の基礎にある解剖学，生理学などの分野に関する教科書を参考に，学習準備をすると良い．
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します．臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器リハビリテーションに従事してきた経験から，運動器疾患に関して講じます．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・講義の進行具合によって，講義内容が前後することがあります．
・解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習を行いましょう．
・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します．講義後1週以内にTeamsあるいはE-メールで返却してください．
・講義はすべて対面講義で実施します．

【講義概要】

(目的)

・整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

・骨，関節，軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います．小テストも事前にTeamsで配布いたします．

【一般教育目標(GIO)】

・整形外科領域の基本的な疾患の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷，各種領域の病態や評価，一般的治療が説明できる．
・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる．

【教科書・リザーブドブック】

講義資料を使用します．教科書などはとくにありません．

【参考書】

・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論ー第3版第4刷」（2023年1月，医歯薬出版,¥3,300）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います．
・小テスト，まとめの筆記試験，出席授業態度などを総合的に評価します．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	骨の組織解剖，骨の成長，骨粗鬆症と骨軟化症，骨折の分類(1)：高齢者の4大骨折	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習講義の進行具合によって，講義内容が前後重複することがある。	60
3，4	骨折の分類(2)：小児骨折の特徴，骨折のX線の読影，人名の付いた骨折，骨折治療の原則	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	骨折合併症と末梢神経損傷	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	絞扼性神経障害と装具	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	靭帯損傷：腱板損傷，足の捻挫，膝損傷	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	変形性関節症：膝と股関節	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	関節リウマチ：病態，変形，ADL留意点	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅱ			【担当教員】	栢森　良二
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ryokayamori@outlook.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日14：00〜20：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．整形外科分野の疾病について理解することを目標とします．整形外科学の基礎にある解剖学，生理学などの分野に関する教科書を参考に，学習準備をすると良い．
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します．臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器疾患の診療や運動器リハビリテーションに従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・講義の進行具合によって，講義内容が前後することがあります．
・解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習を行いましょう．
・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します．講義後1週以内にTeamsあるいはE-メールで返却してください．
・講義はすべて対面講義で実施します．

【講義概要】

(目的)

・整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

・骨，関節，軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います．小テストも事前にTeamsで配布いたします．

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な整形外科領域の疾患の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷，各種領域の病態や治療が説明できる．
・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる．

【教科書・リザーブドブック】

講義資料を使用します．教科書などはとくにありません．

【参考書】

・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論ー第3版第4刷」（2023年1月，医歯薬出版,¥3,300）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います．
・小テスト，まとめの筆記試験，出席授業態度などを総合的に評価します．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	脊髄損傷(1)ー疫学と症候，ASIAとZancolli分類	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
3，4	脊髄損傷(2)－自律神経障害	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	脊椎疾患ー椎間板ヘルニア	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	小児疾患ー骨形成不全症，発育性関節形成不全症，軟骨無形成症など	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	側彎症，Duchennn型筋ジストロフィー	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	疼痛－CRPS，切断	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	熱傷，骨腫瘍	小テスト，講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	まとめ	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅰ			【担当教員】	髙橋　英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0045-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hidencch@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くと良いでしょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。
　スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態を説明できるようにします。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。

【参考書】

医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳･神経」メディクメディア、￥3.990

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（課題の提出）により評価します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	① 神経系の構造と脳の手術について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 神経系の機能と頭蓋内圧亢進と脳ヘルニアについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	神経症候③ 神経症候とその診察法について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 神経系の画像診断とその他の検査について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 脳の血管系ともやもや病、脳動静脈奇形について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ てんかんについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 脳出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 脳梗塞について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ くも膜下出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 良性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 神経膠腫について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 転移性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 頭蓋骨腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 嚢胞性病変と神経症状について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ トルーソー症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅱ			【担当教員】	髙橋　英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0050-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hidencch@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くと良いでしょう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。
　スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態を説明できるようにします。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。

【参考書】

医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳･神経」メディクメディア、￥3.990

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（課題の提出）により評価します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	①頭部外傷について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 認知症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 入院患者におけるせん妄について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 神経系の感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 脱髄疾患と変性症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 水頭症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 奇形と母斑症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 片頭痛について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 脊髄疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 末梢神経障害と自律神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 延髄内側・外側症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 脳神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 脳腫瘍の手術症例について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 髄膜癌腫症の病態について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮がん患者とリハビリテーションについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】	小児科学			【担当教員】 長谷川　聡、長谷川　博也、飯田　知子、江村　重仁、榊原　清一、佐々木　直、計良　杏美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メールにて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

解剖学、生理学等の基礎が習得されているものとして講義を行うので、よく勉強しておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小児科学は非常に広い分野を学ぶので、膨大な知識を要求される。毎回配布のプリントを講義の内容をもとに、教科書だけでなく、参考書を調べるなどして自分なりに復習し、知識を習得することが必要となる。日々の復習を怠らないことが重要である。

【講義概要】

(目的)

小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つ」ということを理解した上で、その
成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら多角的に考えることを要求される。小児科学は、
そのための知識と技術を習得することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3

(方法)

教科書、プリントを使い、正常児の発育・発達についてスライドを使って写真や図を見たりしながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い知識を得る。

【一般教育目標(GIO)】

小児に対する適切なリハビリテーションを行うために、正常小児の成長・発達を正しく理解し、小児の疾患やその症状を知る。

【行動目標(SBO)】

1　正常小児の発育・発達、生理、栄養、仕組み等を理解する。。
2　小児の異常や疾患を簡潔に説明できる。
3　小児特有の問題点を理解し、解決方法を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学』 第5版　冨田 豊編集 医学書院

【参考書】

随時紹介

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則既定のＧＰＡ制度に従う。
講義毎に提示される課題（小テスト）の提出状況、採点結果等をもとに、総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			95					5	100
評価指標	取り込む力・知識		80						80
	思考・推論・創造の力		15						15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・腎臓の発達、構造、機能の概略を知る。 ・血尿や蛋白尿を来す疾患について理解する。 ・脳神経の発達、構造、機能の概略を知る。 ・中枢神経疾患、てんかん、筋疾患、発達障害などについて理解する。	講義 長谷川博也先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第13章A項、第5章B項、C項、D項、E項、H項を事前学習する。	90
3・4	・小児の循環器疾患について	講義 長谷川聡先生	・教科書（標準理学療法学・作業療法学）の「循環器疾患」に準じて学習する	90
5・6	・小児の心身医学的疾患、虐待、その他について学習する。	講義 飯田知子先生	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野・小児科学』(医学書院)の第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待(201～205ページ)の内容をあらかじめ読んでおく。	90
7・8	・小児の呼吸器疾患・アレルギー疾患について学ぶ	講義 江村重仁先生	クループ、急性喉頭蓋炎、急性細気管支炎、肺炎、百日咳、結核、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について	90
9・10	・新生児・未熟児疾患について学ぶ	講義 榊原清一先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第3章について、復習する	90
11・12	・遺伝と小児の内分泌疾患について学ぶ	講義 佐々木直先生	教科書の該当章に準じて学習する	90
13・14	感染症とは：　小児感染症の特徴 ウイルス性疾患 細菌性疾患 ワクチン 胎児期の感染症	講義 計良杏美先生	標準理学療法学・作業療法学テキストの感染症の部分を読んで知識を深める	90
15	・小児の消化器疾患・血液疾患・悪性腫瘍について学ぶ	講義 計良杏美先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第9章、第11章、第14章と脳腫瘍（p91）、Wilms腫瘍(p196)について復習する	45

*16	*課題配信、レポート評価	*長谷川聡先生	*今までの課題配信の結果等で評価を行う	45

リハビリテーション学科

【科目名】	精神疾患とその治療			【担当教員】	向田　怜史、的場 巳知子、望月　佐衣子、塚原　智弘、藤井　純
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0060-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木・金　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

この科目は理学療法士・作業療法士・公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、ﾘｴｿﾞﾝ等を含み広くﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ分野および心理臨床分野での精神医学的ｱﾌﾟﾛｰﾁを下記を中心に実践的に学ぶ。
①精神疾患総論②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化③医療機関との連携
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3,P-1,O-1,R-1

(方法)

疾患別の講義のほか、社会･司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。

【一般教育目標(GIO)】

・ ICD に準じた基本的な精神疾患について理解する。
・ 精神医学独特の専門用語について理解し、使いこなすことができる。

【行動目標(SBO)】

・ 自己を知り、他者との客観的対応について理解した上で、様々な治療技法について臨床現場で応用出来る

【教科書・リザーブドブック】

メディカルスタッフのための精神医学　谷岡哲也　友竹正人　安原由子　大坂京子　編集　中外医学社　2021年

【参考書】

PT・OT・ST・心理職のための高次脳機能障害・精神医学・心理学必修キーワード　椿原彰夫　著　診断と治療社　2020年
標準理学療法学･作業療法学―専門基礎分野（精神医学）第4版 奈良勲 鎌倉矩子 上野武　2015年. 医学書院

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	精神医学の歴史 精神症状：客観症状と主観症状 意識の障害・自我意識の障害を中心に	講義	教科書P1～P20を読んでおくこと	180分
3・4回	ICDとDSMの違い 精神障害各論 ・物質使用及び嗜癖行動による障害 ・成人のパーソナリティおよび行動の障害	講義	前回の資料と教科書P150～P163、P204～P208を読んでおくこと	180分
5・6回	精神障害各論 ・統合失調症と妄想性障害 ・気分障害	講義	前回の資料と教科書P165～P185を読んでおくこと	180分
7・8回	薬物治療について	講義	前回の資料と教科書P45～P63を読んでおくこと	180分
9・10回	精神障害各論 ・神経症性障害	講義	前回の資料と教科書P186～P196を読んでおくこと	180分
11・12回	精神障害各論 児童期の精神障害 ・ASD、LD、ADHD、チック障害を中心に	講義	前回の資料と教科書P223～P237を読んでおくこと	180分
13・14回	精神科リハビリテーションについて	講義	前回の資料と教科書P118～P128を読んでおくこと	180分
15回	今までの振り返り	講義	今までの資料や教科書を復習しておくこと	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション工学			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0345-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜～金曜　5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生活支援機器（車いす、杖、自助具、生活環境装置）についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。
この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。
講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。
自学としてFUIOSN360を利用した自助具の作成などを行う予定です。
車椅子など重いものを運ぶ場合が有るので、授業準備は複数名（3名）くらいで来てください。
課題についてはteamsから提出をお願いします。科目試験は希望者には返却します。再試験は返却しません。

【講義概要】

(目的)

理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要性がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,O-3,R-1

(方法)

電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。
グループ学習とグループ発表を行います。
授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。

【一般教育目標(GIO)】

人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。

【行動目標(SBO)】

生態におけるバイオメカニクスを説明する。
生活支援機器の種類や使用法を説明する。
生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

Teamsでの資料提示

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	15		35				100
評価指標	取り込む力・知識	50	15						65
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				35				35
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	リハビリテーション工学について	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	３DCDのモデリング FOSION360 3Dプリンターについて	講義 対面	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
3	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子）	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
4	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
5	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
6	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子関連用品） （車椅子シーティング）	講義・演習 実習室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
7	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（環境制御装置）	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
8	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（環境制御装置）	講義	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20

9	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義・演習 実習室	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
10	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義・演習 実習室	発表 ICTによる評価	20
11	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 演習（福祉機器の考察）	講義	発表 ICTによる評価	20
12	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
13	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
14	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
15	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	講義	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20

リハビリテーション学科

【科目名】	薬理学			【担当教員】	桑島　治博
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0077-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。
解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。
（フィードバック方法)
最終コマ講義の際に演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

①用量と薬理作用の関係を説明する。
②薬物の作用機序を説明する。
③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。
④薬物の副作用・有害作用を説明する。
⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。

【教科書・リザーブドブック】

イラストで理解するかみくだき薬理学(第2版)　南山堂　¥2,300

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。
・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	0	20	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	80	0	10	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	0	0	5	0	0	0	0	5
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	5	0	0	0	0	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
3.4	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
5.6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
7.8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
9.10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
11.12	アレルギー、炎症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
13.14	悪性腫瘍に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０
15	感染症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	感染症学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0085-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。
試験後回答例を提示する。

【講義概要】

(目的)

数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。
そんな時に病原大腸菌O-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物科学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。
新型コロナウイルス感染症についても話題を提供する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疾学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。

【一般教育目標(GIO)】

・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。

【行動目標(SBO)】

・感染症に関する話題を語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

増沢俊幸著「感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学」羊土社

【参考書】

講義内で必要であれば紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	0	10	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15	0	0	0	0	0	0	15
	発表力	10	0	5	0	0	0	0	15
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	0	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	微生物学・免疫学の発展の歴史、微生物学の基礎（生物学的特徴）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3-4	免疫と生体防御機構　―　1	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5-6	免疫と生体防御機構　―　2	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7-8	感染症の制御	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9-10	化学療法と耐性菌	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11-12	細菌学各論、ウイルス学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13-14	真菌学各論、蠕虫学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15 16	臓器・組織別感染症 試験	講義 講義（補講）16コマ目	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	高次脳機能障害学概論			【担当教員】	大平　芳則
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0000-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	y.ohdaira@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 授業開催時間内	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高次脳機能障害とはいかなる障害か、あるいは当該患者が社会生活を送る上でどのような課題を生じるかなどについて学ぶ科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、神経解剖学的な基礎学力を必要とします。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際に、解答例を示します。

【講義概要】

(目的)

我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

高次脳機能およびその障害像について講義を行なう。

【一般教育目標(GIO)】

高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。

【行動目標(SBO)】

高次脳機能とは、どのようなものか言える。
高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。
それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

なし。
資料を配付します。

【参考書】

石合純夫　著　「高次脳機能障害学」医歯薬出版　2022年　4,950円
森惟明　鶴見隆正　著　「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見」医学書院　2010年　5,250円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は試験80%、小テスト20%とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	高次脳機能障害とは	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	映像による理解	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	視覚の障害	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	聴覚の障害 小テスト1	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	触覚の障害	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	病態認知の障害	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	行為と記憶の障害	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	前頭葉の障害 小テスト2	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	摂食・嚥下障害学概論			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0005-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金　11:30～12:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練・嚥下食等に興味を持ち、将来、臨床現場において、あるいは、食支援を必要とする家族等の介護場面において、本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。
この科目は実務経験者（歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師）が担当する科目である。受講生が所属する専攻分野に合わせて、歯科領域の専門的な内容についても、わかりやすく講じていく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

頭頚部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の解剖学的模型のほか、臨床現場で実際に使用されている器具類を示しながら、講義を進めていく。１年次に「解剖学」・「生理学」・「人体の構造と機能及び疾病」等の科目で学んだ内容のうち、特に頭頚部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておくと、本講義が理解しやすくなる。
定期試験実施後のフィードバックについては、模範解答の配付を行うことで対応する。
講義途中で課すレポートは、提出後に添削して返却するので確認すること。

【講義概要】

(目的)

はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い頭頚部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場、その他の食支援の場面等において、摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2,3　P-2　O-2　R-1

(方法)

パワーポイントスライドを主に使用して講義を進めていく。講義資料は毎回プリントして配付する。なお、予習に必要な資料については、前もって配付することがある。また、必要に応じて、各種の解剖学的模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。これらの体験を実施する際は、十分な感染防止対策を実施したうえで行うが、コロナ禍にあっては体験の一部が制限される場合もある。

【一般教育目標(GIO)】

摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場やその他の食支援の場面等において役に立つ知識や技術を身につける。

【行動目標(SBO)】

- 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。
- 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。
- 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。
- 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。
- 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

特に教科書等は指定しない。講義内容は、プリント資料として配付する。

【参考書】

向井美惠（他著）『摂食・嚥下障害ベストナーシング』 学研メディカル秀潤社，2010年.　¥2,640（税込）
倉智雅子（編著）『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』医歯薬出版，2013年. ¥4,840（税込）
山田好秋（著）　『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版」医歯薬出版，2013年. ¥4,620（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価の基準については、本学学則に規定されているGPA制度に従う。
すべての講義終了後に記述式試験を実施するほか、講義途中においてもレポート等課題を課す。
講義終了後の試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度10%、学修に取り組む姿勢や態度（出席状況を除く）10% の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 （それぞれの定義を理解する。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	９０分
3,4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 （口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。）	講義 アクティブ・ ラーニング演習	（予習）これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	９０分
5,6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	９０分
7,8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	９０分
9,10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 （臨床につなげる。）	講義	（予習）事前に配付するプリントを 読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	３０分 ６０分
11,12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 （臨床につなげる。）	講義	（予習）事前に配付するプリントを 読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	３０分 ６０分
13,14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 （臨床につなげる。）	講義 アクティブ・ ラーニング演習	（予習）事前に配付するプリントを 読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	３０分 ６０分
15	摂食・嚥下リハビリテーション（訓練・治療） 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て、間接訓練、直接訓練 ケアを必要とする人への接し方 （臨床につなげる。）	講義 アクティブ・ ラーニング演習	（予習）事前に配付するプリントを 読んでおく。 （復習）学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	３０分 ６０分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学Ⅰ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0010-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・解剖学，生理学と関係の深い分野です．1年次に学習した解剖学，生理学の内容を復習してください．
※この科目は実務経験を有する教員が担当します．臨床で心身機能の維持回復に関わるリハビリテーションに従事してきた経験から，身体運動に関する基本的事項について講じます．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと．
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません．
・試験後，必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います．

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です．本講義では，運動に関する用語や，身体運動に関する基本的概念を学びます．また，身体の構造や機能に関し，解剖学や生理学，物理学の知識を統合し，運動の捉え方を学習します．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

・講義を中心に，身体運動に関するの知識を深めます．また小テストを行い，学習を深めます．

【一般教育目標(GIO)】

・運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し，記述・説明することができる

【行動目標(SBO)】

・運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し，記述・説明することができる
・姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

・弓岡光徳/溝田勝彦/村田伸 監訳，エッセンシャル・キネシオロジー　原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）

【参考書】

・中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版 ,2016年，¥4,000（税別）
・中村隆一，他，基礎運動学 第6版，医歯薬出版，2003年，¥6,800（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従います．出席点は評価に含みません．
・小テスト，筆記試験を総合的に評価します．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義ガイダンス ・解剖学，生理学の確認	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習	60
3,4	・第１章　キネシオロジーの基本原理	講義，小テスト	・教科書P1～19 ・解剖学，生理学，物理学の復習	60
5,6	・運動学総論①	講義，小テスト	・参考書P2～29 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
7,8	・運動学総論②	講義，小テスト	・参考書P31～56 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
9,10	・運動学総論③	講義，小テスト	・参考書P57～68 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
11,12	・上肢、下肢について	講義、小テスト	・参考書P72～82、122～131 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
13,14	・体幹、姿勢について	講義、小テスト	・参考書P166～170、202～210 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
15	・歩行、学習と記憶について	講義、小テスト	・参考書P212～216、244～248 ・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学Ⅱ			【担当教員】	若菜　翔哉
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学Ⅰの内容と関連付けて学習すること.
・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）.
・本科目は，実務経験のある教員による授業科目です．医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から，運動学の基礎知識について講義を行います.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません.
・試験後，必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います.

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です．本講義では，運動学の基礎知識を学びます．また，運動学だけではなく解剖学や生理学の知識と統合し，姿勢や歩行分析など身体運動の分析に応用できるようになることを目的とする.
＊当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針との関連性：P-1,2

(方法)

・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います.
・毎講義ごとに小テストを行い，講義内容の理解度を確認します.

【一般教育目標(GIO)】

・臨床に必要な運動学の基礎知識を理解できる.

【行動目標(SBO)】

・運動学の基礎知識を説明し記述することができる.
・運動学，解剖学，生理学の内容を統合し，それぞれを関連付けて説明し記述することができる.

【教科書・リザーブドブック】

1. 弓岡光徳，溝田勝彦，村田伸，エッセンシャル・キネシオロジー　機能的運動学の基礎と臨床　原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）
2. 中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

・中村隆一，他，基礎運動学 第6版，医歯薬出版，2003年，¥6,800（税別）
・解剖学，生理学の講義・実習で使用している教科書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う.
・成績評価は，本試験（筆記試験）と小テスト（毎講義実施）により総合的に評価する.
・出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	70	20						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	【第4章　肩複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～88 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 肩関節複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
3，4	【第5章　肘・前腕複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P89～115 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
5，6	【第6章　手関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P117～133 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
7，8	【第8章　脊柱の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P169～216 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 脊柱に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
9，10	【第9章　股関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P217～258 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 股関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
11，12	【第10章　膝関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P259～292 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 膝関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
13，14	【第11章　足関節と足部の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P293～330 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 足関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと.	60
15	総まとめ	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～330、これまでの配布資料 講義までに上記範囲を復習しておくこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学Ⅲ			【担当教員】	若菜　翔哉、押木　利英子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学Ⅰ・Ⅱと関連付けて学習すること．．
・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）．
・基礎運動学ⅠとⅡで学んだ内容を定着させておくこと．
・本科目は，実務経験のある教員による授業科目です．医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から，姿勢や歩行，運動発達について講義を行います．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと．
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません．
・試験後，必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います．

【講義概要】

(目的)

・歩行分析および観察を実施する際に必要とされる基礎知識を学習する．
・運動発達や運動学習ついての基礎知識を学習する．
当該科目と学位授与方針との関連性：A-1，2　P-1，2

(方法)

・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います．また必要に応じて実技を実施します．
・講義内容に関するレポート課題を提示します．

【一般教育目標(GIO)】

・歩行分析および観察の基礎知識を理解し，理学療法評価に関連付けることができる．
・運動発達や運動学習に関する基礎知識を理解し，理学療法評価に関連付けることができる．

【行動目標(SBO)】

・歩行分析および観察に関する基礎知識を記述し説明することができる．
・運動発達や運動学習に関する基礎知識を記述し説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

1. 弓岡光徳，溝田勝彦，村田伸，エッセンシャル・キネシオロジー　機能的運動学の基礎と臨床　原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）
2. 中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

・中村隆一，他：基礎運動学 第6版．医歯薬出版．2003年．¥6,800（税別）
・Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析，医学書院．2014．¥5,000（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．
・成績評価は，本試験（筆記試験）とレポート課題により総合的に評価する．
・出席点は評価に含みません．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	70		20					90
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	【歩行の運動学①】 歩行周期と重心移動	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 歩行周期，歩行の関連用語の意味を理解しておくこと.	60
3，4	【歩行の運動学②】 関節運動学	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.歩行における各運動面状の各関節運動について学習しておくこと.	60
5，6	【歩行の運動学③】 筋活動	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 歩行における各筋活動について学習しておいてください.	60
7，8	【歩行の運動学④】 運動力学 【レポート課題の提示】 「歩行周期について」	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.床反力について学習しておくこと.	60
9，10	動作分析について	講義・演習（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください.	60
11，12	発達分析について	講義・演習（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください.	60
13，14	運動学習と臨床応用	講義（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください.	60
15	筆記試験	試験	1～14コマの内容を理解し、説明できるようにしてくこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	予防リハビリテーション学			【担当教員】	長島　裕子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0035-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 毎週火曜日　12:50～13:20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

リハビリテーション専門職ならびにリハビリテーションを学ぶ立場であることを認識し、本邦に生じている少子高齢化による社会的影響を予習しておくことを勧めます。
この科目は実務経験者（予防に精通した理学療法士）が担当する科目です。受講生にとって、予防の概念や実践方法についてわかりやすく講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．講義内で小テストを実施し、採点後返却します。
２．試験結果について、解答を返却し必要に応じてフィードバックを実施します。
３．再試験該当となった場合、希望がある場合に限り補講を実施します。
４．介護予防の実践（体操等）を行う際は、動きやすい服装としてください。

【講義概要】

(目的)

健康で生き生きとした生活を支援することを目標に、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。
①日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。
②要介護状態にある方の場合は介護状態が重度化していくことを予防すること。
③再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。

(方法)

・予防リハビリテーションの基礎知識と具体的対処方法を講義または実技を通して学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

１．予防の概念を理解する。
２．予防に対するリハビリテーションの役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

１．予防の概念を理解し、説明できる。
２．予防に対するリハビリテーションの役割を理解し、その実践方法等について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

講義内で資料を配付する

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価の基準については、本学学則規程のGPA制度に従う。
期末試験（60%）・講義内の小テスト（20%）・レポート（20%）により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	20					100
評価指標	取り込む力・知識	60	20	20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	介護予防の必要性	講義	介護予防とは何かをインターネット等で調べておくこと。	30
３・４	高齢者の身体的変化と特性	講義	骨・筋に対する生理学的知識を復習しておくこと。	60
５・６	高齢者の精神的変化と特性	講義	「うつ」についてインタネット等で調べておくこと。	60
７・８	ロコモティブシンドローム・フレイルの概念と予防	講義・実技	日本整形外科学会公式ロコモティブシンドローム予防啓発サイトをみておくこと。	60
９・１０	転倒予防のメカニズムと予防	講義・実技	骨（特に大腿骨・脊椎）の生理学的知識を復習しておくこと。	60
１１・１２	認知症に対する予防	講義・実技	脳の生理学的知識を復習しておくこと。	60
１３・１４	メタボリックシンドロームの概念と予防	講義	厚生労働省「e-ヘルスネット」をみておくこと。	60
１５	まとめ	講義		30

リハビリテーション学科

【科目名】	老年心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0435-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた臨床経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。
超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。幸福な一生涯を実現するために私たちはどうような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。
講義後にレポートを課す場合があります。

【講義概要】

(目的)

本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。
加齢に伴う①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。
授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。
課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。

【一般教育目標(GIO)】

「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。
１．高齢期の身体的変化の特徴を知る。
２．高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的変化の様相を知る。
３．高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。
４．高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。
「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者への”心のケア”ができる。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、PDF資料等にて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

佐藤眞一（編著）「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ)」 ／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円
権藤 恭之（編集)「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		20			20		100
評価指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー（図表の見方）を含む	復習（要点の整理） 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	20
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	20
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	復習（要点の整理） 感覚機能（視聴覚等）低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	20
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・「フレイル」と「サルコペニア」 ・調査法	講義 演習：PBL（課題解決）を含む	復習（要点の整理） 「フレイル・サルコペニア」の定義、及びその状態が日常生活/健康寿命へ及ぼす影響を理解する。	20
5	「フレイル」予防と健康寿命 ・運動機能の観点から ・口腔機能と栄養の観点から	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） フレイル予防を運動と栄養摂取の観点から支援することができる。	20
6	高齢期の精神機能① ・高齢期のストレス ・「喪失体験」と孤独/孤立 ・高齢期のうつ症状	講義	復習（要点の整理） 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程を理解する。	20
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・モーニングワーク	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。また、遺族の重篤な「喪失の体験」を理解し、当事者の心に寄り添う姿勢を学ぶ。	20
8	高齢期の精神機能② 「認知症」 ・記憶機能の低下 ・知的機能の変化_結晶性知能と流動性知能	講義 演習：必要な情報収集と分析の学習を含む	復習（要点の整理） 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	20

9	高齢期のメンタルヘルス① ・高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・加齢とパーソナリティの変化 ・「回想法」	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	復習（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	20
10	高齢期のメンタルヘルス② ・生きがい・心と体の健康づくり ・「社会参加」への支援：”きょういくときょうよう”	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 高齢者の再適応能力を支援する方策を考える。	20
11	高齢者の人権擁護① ・高齢者の自殺（発生件数とその動機）	講義	復習（要点の整理） 高齢者の自殺件数とその状況から、自殺防止を考える。	20
12	高齢者の人権擁護② ・事例検討 ・高齢者虐待の防止 ・高齢者の養護者に対する支援	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	復習（要点の整理） 「高齢者虐待防止法」の主旨を理解する。	20
13	高齢者を尊重するケア技術① ・パーソン・センタード・ケア	講義	復習（要点の整理） ”パーソン・センタード”の語源をも理解し、このケア法を技術と心の両面から理解する。	20
14	高齢者を尊重するケア技術② ・ユマニチュード ・バリデーション	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	復習（要点の整理） ”ユマニチュード””バリデーション”の語源をも理解し、これらケア法を技術と心の両面から理解する。	20
15	まとめ ・超高齢社会における 　高齢者の社会参加 　高齢者の就業支援と経済的自立	講義	復習（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	20

リハビリテーション学科

【科目名】	認知症			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0041-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13:30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。

【一般教育目標(GIO)】

高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。

【行動目標(SBO)】

認知症のタイプや症状について説明できる。
認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。
認知症者に対するトレーニング法について実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

講義資料配布

【参考書】

田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。
成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			80					20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力		80						80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	認知症とは	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義（オンデマンド形式）	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	動作解析学実習Ⅰ			【担当教員】	星野　浩通、伊藤　渉
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0510-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	w.ito@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) A棟1F 伊藤研究室 13:30～16:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動学Ⅰで学んだことを運動解析に応用し，活かせるよう学びます.
この科目は実務経験を有する教員が担当します.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

動作の観察や検査・測定がおこないやすい服装で参加してください.
授業中はパソコン、タブレット、スマートフォン、カメラなどを使用しても構いませんので用意してください.

【講義概要】

(目的)

解剖学・運動学の知識を用いて，理学療法における運動・動作の観察，分析に役立てる.
筋の構造と機能、筋力についての知識を理学療法における測定・トレーニングに応用する手法を演習を通してに学ぶ.
・当該科目と学位授与方針等との関連性； P-3

(方法)

基礎運動学Ⅰ，基礎運動学Ⅱ，基礎運動学Ⅲで用いた教科書，配布資料を用いて講義をすすめます.
授業の始めに解剖・運動学に関わる小テスト，授業の終わりに授業内容に関わる確認テストをおこないます.
授業では，グループワークとして測定、分析をおこない，プレゼンテーション，ディスカッションをおこないます.
小テスト，確認テスト，グループワークの取り組みを評価します.

【一般教育目標(GIO)】

解剖学・運動学の知識を用いて，理学療法における運動・動作の観察，分析に役立てることができる.
筋の構造と機能、筋力について理解することができる.
理学療法における筋機能に関する測定・トレーニングを実施することができる.

【行動目標(SBO)】

解剖学・運動学の知識を用いて，理学療法における運動・動作の観察，分析について理解することができる. (認知的領域)
筋の構造と機能、筋力について理解し、理学療法における筋機能に関する測定・トレーニングを立案することができる. (精神運動的領域)
理学療法における筋機能に関する測定・トレーニングを安全に実施することができる. (情動的領域)

【教科書・リザーブドブック】

弓岡光徳/溝田勝彦/村田伸 監訳，エッセンシャル・キネシオロジー　原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）
中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト，確認テスト，グループワークの取り組みを評価します.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	30		40				100
評価指標	取り込む力・知識	15	30		8				53
	思考・推論・創造の力	15			8				23
	コラボレーションとリーダーシップ				8				8
	発表力				8				8
	学修に取り組む姿勢				8				8

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション	講義・演習	予習：初回のためなし 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	30
3-4	筋の構造と機能①	講義・演習	予習：小テスト（足関節の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
5-6	筋の構造と機能②	講義・演習	予習：小テスト（膝関節の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
7-8	筋収縮①	講義・演習	予習：小テスト（骨盤周囲の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
9-10	筋収縮②	講義・演習	予習：小テスト（腹部の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
11-12	筋肥大①	講義・演習	予習：小テスト（頸部および背部の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
13-14	筋肥大②	講義・演習	予習：小テスト（肩甲骨周囲の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
15-16	筋疲労①	講義・演習	予習：小テスト（肩甲骨周囲の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60

17-18	筋疲労②	講義・演習	予習：小テスト（肘周囲および前腕の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
19-20	筋のトレーニング①	講義・演習	予習：小テスト（手部および手指の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
21-22	筋のトレーニング②	講義・演習	予習：筋のトレーニングの立案 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
23-24	筋力と筋活動①	講義・演習	予習：筋のトレーニングの立案 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
25-26	筋力と筋活動②	講義・演習	予習：筋力の測定の立案 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
27-28	トピックス：ストレッチ	講義・演習	予習：筋力の測定の立案 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	60
29-30	トピックス：筋肉痛	講義・演習	特に指定しない	

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法研究法Ⅰ			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0545-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)火～水 12:30-13:30、16:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. これまで履修した科目は理解している前提で授業を進める。
2. この科目は理学療法研究法Ⅰ・Ⅱのセット履修となる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1. 授業に用いる資料の配布、レポートの提出はTeamsを使用する。
2. 授業感想などはFormsを使用する。
3. この科目は実務経験者対応科目である。

【講義概要】

(目的)

1. 理学療法を実施するときに研究の論理的思考（logical thinking）と論理的文章の書き方（logical writing）は必須である。論理的に考えて、書く習慣を身につけることはより正しい結果を導く方法と言える。
　この科目では研究という手法を通じて論理的思考を身に付けることを目的とする。
2. 当該科目と学位授与方針等との関連性;A-3、P-3

(方法)

1. 教科書を参照しながら研究方法論の講義、演習をおこなう。
2. 授業では理解度チェックや感想などの把握は、スマホを使用するので、Teamsコードを確認しておく。

【一般教育目標(GIO)】

1. 基本的な理学療法研究手法についての考え方を理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 理学療法研究において研究の意義，考え方を理解する。
2. 文献検索を学び論文の読み方を理解する。
3. 研究倫理について理解する。
4. 研究デザイン、研究計画について理解する。

【教科書・リザーブドブック】

1. 内山　靖、島田　裕之編：理学療法研究法(第3版）、医学書院、￥5,170

【参考書】

1.千住秀明、玉利光太郎：はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ￥4,860

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。
2. 成績評価は、定期試験・小テスト・レポート・出欠により総合的に評価する。kimatusikenn
3. 小テストはその実施後に、定期試験は試験終了後に回答を説明しながらフィードバックする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10	0	0	0	5	5	100
評価指標	取り込む力・知識	50	5	0	0	0	5	0	60
	思考・推論・創造の力	20	5	0	0	0	0	0	25
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	10	0	0	0	0	0	5	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	・研究・卒業研究とは何か　No1	講義	・研究の必要性、意義 ・卒業研究の意義	60分
3.4	・研究・卒業研究とは何か　No2	講義	・理学療法研究の領域 ・教科書pp2-14（以下同様）	60分
5.6	・研究課題の見つけ方	講義	・研究課題と背景 ・研究課題と仮説 ・pp2-14	60分
7.8	・文献の読み方①	講義，演習	・文献の探し方 ・雑誌の評価 ・論文の構造 ・批判的吟味 ・pp44-58	60分
9.10	・文献の読み方②	講義	・図表の読み方 ・英語論文 ・pp44-58	60分
11.12	・文献の読み方③	講義	・図表の読み方 ・英語論文 ・pp44-58	60分
13.14	・研究デザインの特徴　研究計画の構成　No1	講義	・実験的研究 ・症例研究 ・pp16-25、第7章	60分
15	・研究デザインの特徴　研究計画の構成　No2	講義	・疫学研究 ・社会調査 ・pp16-25、 ・第7章今までの講義の復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法研究法Ⅱ			【担当教員】	小林　量作、木村　和樹、北村　拓也
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0545-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)月～水 12:00-13:00 16:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. この科目の履修は理学療法研究Ⅰを履修していることが前提となる。
2. 本科目は実務経験10年以上の理学療法士資格を有する教員らが担当する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1. 授業に用いる資料の配布、レポートの提出はTeamsを使用する。
2. 授業感想などはFormsを使用する。
3. この科目は実務経験者対応科目である。

【講義概要】

(目的)

1. 理学療法を実施するときに研究の論理的思考（logical thinking）と論理的な文章の書き方（Logical writing）は必須である。論理的に考えて、書く習慣を身につけることでより正しい結果を導く方法と言える。この科目では研究という手法を通じて論理的思考を身に付けることを目的とする。
2. 当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-3、P-3

(方法)

1. 教科書を参照しながら研究方法論の講義、演習をおこなう。
2. 授業では理解度チェックや感想などは、スマホを使用するのでteamsのコードを確認しておく。

【一般教育目標(GIO)】

1. 基本的な理学療法研究手法について理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 理学療法研究のために読了した文献の内容を発表する。
2. 研究計画書を作成する。
3. 研究発表の方法を理解する。
4. データの整理、統計分析を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

1. 内山　靖、島田　裕之編：理学療法研究法(第3版）、医学書院、￥5,170

【参考書】

1. 千住秀明、玉利光太郎；はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ¥4,860

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。出席点は評価に含みません。
2. 成績評価は、定期試験、成果発表、ノートチェックにより総合的に評価する。
3. 定期試験は試験終了後に解答しながらフィードバックする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	0		15	0	5		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40			5				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						5		5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	研究Ⅱのオリエンテーション、手順	講義；小林	・研究法科目の流れ ・研究法Ⅰの復習 ・研究計画書を見直す。	60分
3、4	読了した文献の発表	講義；小林	・文献の読み方、まとめ方。 ・読了した論文をpptにまとめて発表する方法。	60分
5、6	発表のしかた	講義；北村	・口述発表 ・ポスター発表	60分
7、8	モデル的研究計画の作成	講義；小林	・学生の研究テーマ ・テーマに沿った研究計画 ・pptの作成留意点	60分
9、10	データ整理、統計分析	講義；木村	・データの整理 ・統計分析手法 ・ノート提出	60分
11、12	学生の考えた研究計画の発表 No1	講義・演習；小林	・学生の考えたモデル研究計画、ppt	60分
13、14	学生の考えた研究計画の発表 No2	講義・演習；小林	・学生の考えたモデル研究計画、ppt	60分
15	学生の考えた研究計画の発表 No3	講義・演習；小林	・学生の考えたモデル研究計画発表、ppt ・これまでの質疑・まとめ	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動療法学Ⅰ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-11-0030-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火曜日12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・1年次に履修修得した知識を定着させておくこと（主に解剖学、生理学）.
・本科目は，実務経験のある教員による授業科目です．医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から，運動療法および運動療法に関連する基礎知識について講義を行います.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません.
・試験後，必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います.

【講義概要】

(目的)

運動療法は運動機能障害に対するものだけにとどまらず，生活習慣病などの疾病予防や介護予防，さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しています.本科目は運動療法および運動療法を実践するために必要な基礎知識について学習することを目的とします.
当該科目と学位授与方針との関連性：A-2、P-2

(方法)

・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います．また必要に応じて実技を実施します。
・毎講義ごとに小テストを行い，講義内容の理解度を確認します.

【一般教育目標(GIO)】

・運動療法および運動療法を実践するために必要な基礎知識について理解できる.

【行動目標(SBO)】

・運動療法に関する基礎知識を記述し説明することができる.
・運動療法に必要な解剖・生理・運動・神経学を記述し説明することができる.

【教科書・リザーブドブック】

吉尾雅春，横田一彦：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版．医学書院．2017年．（4,700円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う.
・成績評価は，本試験（筆記試験）と小テスト（毎講義実施、全15回）により総合的に評価する.
・出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義オリエンテーション ・【Ⅰ：運動療法の概念】 運動療法の歴史	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P2～9 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動療法の歴史について，学習しておくこと.	60
3,4	・【Ⅰ：運動療法の概念】 運動療法とは何か	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P10～20 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動療法の定義や目的，種類など基礎事項について学習しておくこと.	60
5,6	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 関節の構造と運動①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P22～48 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.関節の分類および機能と構造について学習しておくこと.	60
7,8	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 関節の構造と運動②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P22～48 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.関節の分類および機能と構造について学習しておくこと.	60
9,10	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 筋と筋収縮	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P49～58 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.骨格筋の構造，筋収縮のメカニズムについて学習しておくこと.	60
11,12	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 随意運動と運動制御の整理①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P59～75 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.随意運動と運動制御の生理について学習しておくこと.	60
13,14	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 随意運動と運動制御の整理②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P59～75 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.随意運動と運動制御の生理について学習しておくこと.	60
15,16	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 運動制御と運動学習①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P76～96 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動制御のメカニズムと運動学習について学習しておくこと.	60

17,18	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 運動制御と運動学習②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P76～96講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動制御のメカニズムと運動学習にいて学習しておくこと.	60
19,20	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 運動と呼吸	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P97～113講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.呼吸のメカニズムと運動時の呼吸応答について学習しておくこと.	
21,22	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 運動と循環	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P114～127 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.循環器系と運動時の循環器系の適応について学習しておくこと.	
23,24	・【Ⅱ：運動療法の基礎】 運動と代謝	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P128～137 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動と代謝について学習しておくこと.	
25,26	・【Ⅲ：組織の病態生理と修復】 運動器系	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P140～157 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動器系の分類と役割について学習しておくこと.	
27,28	・【Ⅲ：組織の病態生理と修復】 神経系	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P158～166 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.中枢神経系末梢神経系について学習しておくこと.	
29,30	・【Ⅲ：組織の病態生理と修復】 神経系 ・授業評価アンケート	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P158～166 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.中枢神経系末梢神経系について学習しておくこと.	

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動療法学Ⅱ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-11-0035-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火曜日12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動療法学Ⅰと関連づけて学修するようにしてください.
・1年次に履修修得した知識を定着させておくこと（主に解剖学、生理学）.
・本科目は，実務経験のある教員による授業科目です．医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から，運動療法および運動療法に関連する基礎知識について講義を行います.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません.
・試験後，必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います.

【講義概要】

(目的)

運動療法は運動機能障害に対するものだけにとどまらず，生活習慣病などの疾病予防や介護予防，さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しています.本科目は運動療法および運動療法を実践するために必要な基礎知識について学習することを目的とします.
当該科目と学位授与方針との関連性：A-2、P-2

(方法)

・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います．また必要に応じて実技を実施します。
・毎講義ごとに小テストを行い，講義内容の理解度を確認します.

【一般教育目標(GIO)】

・運動療法および運動療法を実践するために必要な基礎知識について理解できる.

【行動目標(SBO)】

・運動療法に関する基礎知識を記述し説明することができる.
・運動療法に必要な解剖・生理・運動・神経学を記述し説明することができる.

【教科書・リザーブドブック】

吉尾雅春，横田一彦：標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第4版．医学書院．2017年．（4,700円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う.
・成績評価は，本試験（筆記試験）と小テスト（毎講義実施、全15回）により総合的に評価する.
・出席点は評価に含みません.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義オリエンテーション ・【Ⅳ：運動の種類】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P 168～180 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.運動療法の種類について，それぞれの特徴を学習しておくこと.	60
3,4	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 関節可動域運動①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P182～194 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.関節可動域運動の目的，種類，方法について学習しておくこと.	60
5,6	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 関節可動域運動②（上肢）	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P182～194 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.関節可動域運動の目的，種類，方法について学習しておくこと.	60
7,8	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 関節可動域運動③（下肢）	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P182～194 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.関節可動域運動の目的，種類，方法について学習しておくこと.	60
9,10	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 筋力増強運動①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P195～217 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.筋力増強運動行うための基礎知識，運動の種類について学習しておくこと.	60
11,12	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 筋力増強運動②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P195～217 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.筋力増強運動行うための基礎知識，運動の種類について学習しておくこと.	60
13,14	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 筋力増強運動③	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P195～217 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.筋力増強運動行うための基礎知識，運動の種類について学習しておくこと.	60
15,16	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 持久力増強運動①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P218～230 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.持久力の概念，持久力の評価，持久力増強運動の種類と方法について学習しておくこと.	60

17, 18	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 持久力増強運動②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P218～230 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.持久力の概念，持久力の評価，持久力増強運動の種類と方法について学習しておくこと.	60
19, 20	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 協調性運動①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P231～241 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.協調性運動と運動失調，協調性障害に対する運動療法の種類について学習しておくこと.	60
21, 22	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 協調性運動②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P231～241 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.協調性運動と運動失調，協調性障害に対する運動療法の種類について学習しておくこと.	60
23, 24	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 脳のシステム障害と運動療法①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P242～255 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 脳のシステム障害と運動療法について学習しておくこと.	60
25, 26	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 脳のシステム障害と運動療法②	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P242～255 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと. 脳のシステム障害と運動療法について学習しておくこと.	60
27, 28	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 痛みに対する運動療法①	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P256～268 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.痛みの定義と原因，痛みに対する運動療法の種類について学習しておくこと.	60
29, 30	・【Ⅴ：基本的な運動療法】 痛みに対する運動療法② ・授業評価アンケート	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P256～268 講義までに上記範囲を最低１回は読んでおくこと.痛みの定義と原因，痛みに対する運動療法の種類について学習しておくこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学実習Ⅰ			【担当教員】	長島　裕子、北村　拓也、若菜　翔哉
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-13-0005-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月：13：30-15：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は「理学療法評価学」の応用科目の位置づけとなっているため，実技を中心として実施していく．
なお，本科目は実務経験5年以上（経験領域：運動器疾患，中枢神経疾患，急性期，回復期，生活期等）の理学療法士資格を有する教員が複数担当する．
また，初回の4コマ分を実技試験とする．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書やDVDなどの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと．
・本科目を受講の際は必ず大学指定のケーシーおよび靴を着用すること．また，装飾品（ピアス，ネックレス等）は外すこと．（ケーシーの下に着る肌着等は原則白色とし，靴下も白，くるぶしソックスは認めない．また，ケーシーの上に何か羽織る場合は黒または紺のカーディガンとする．）
・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き，各自で確認すること．

【講義概要】

(目的)

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価に関する知識，技術を習得する．
※当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3

(方法)

・デモンストレーションやDVD，画像などをもとに，理学療法に関する評価技術を学び，実践する．また，毎講義前または後に必ず確認テストを行い，当該講義の内容理解を確認する．また，期末には実技試験を実施する．なお，グループを3つに分け，それぞれのグループに分かれて学修をしていく．

【一般教育目標(GIO)】

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価を行うことができる．

【行動目標(SBO)】

・理学療法評価に関する基本的な目的，内容を説明，記述することができる．
・理学療法に関する検査や測定を適切に実施することができる．
・グループで協力して学習を進めることができる．
・臨床に即した理学療法評価の手順や方法を考え，実践することができる．
・確認テストをもとに振り返りを行い，各自学習を深め，知識と技術を統合して評価技術を高めることができる．

【教科書・リザーブドブック】

1年次の「理学療法評価学」で購入した教科書一式
・crosslink理学療法学テキスト．理学療法評価学，メジカルビュー社(5,000円+税)
・新・徒手筋力検査法，原著第10版，協同医書出版社（7,500円+税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学規定のGPA制度に従う
・学内試験規定に基づく授業態度，確認テスト，実技試験結果を総合的に評価する．
・出席点は評価に含まない．
・試験：実技試験．　小テスト：講義前または後の確認テスト

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	20	10						30
	思考・推論・創造の力	20	5						25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力	10							10
	学修に取り組む姿勢	30	5						35

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2,3,4	実技試験 (肩関節・股関節のROMおよびMMT)	(担当全教員) ・試験 機能訓練室，治療室	肩関節および股関節のすべtの運動方向に対するROMおよびMMT手技の修得程度を確認する.	30
5,6,7,8	講義オリエンテーション ROM上肢	(若菜) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	ROM上肢の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
9,10,11,12	ROM下肢	(長島) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	ROM下肢の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
13,14,15,16	ROM頚部・体幹	(北村) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	ROM頚部・体幹の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
17,18,19,20	MMT上肢	(若菜) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	MMT上肢の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
21,22,23,24	MMT下肢	(長島) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	MMT下肢の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
25,26,27,28	MMT頚部・体幹	(北村) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	MMT頚部・体幹の範囲における各基本軸，移動軸，参考可動域，測定方法を事前学習し，講義時にその実際を学ぶ.	30
29,30	医療面接とバイタルサインのチェエク	(担当全教員) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	課題内容：評価の進め方，医療面接と情報収集，意識障害・全身状態の評価	30

試験	理学療法評価学実習Ｉで学んだ内容を範囲とする.	（担当全教員） ・試験 機能訓練室，治療室	総まとめ	30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学実習Ⅱ			【担当教員】	長島　裕子、北村　拓也、若菜　翔哉
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-13-0010-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月：13：30-15：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は「理学療法評価学」の応用科目の位置づけとなっているため，実技を中心として実施していく．
なお，本科目は実務経験5年以上（経験領域：運動器疾患，中枢神経疾患，急性期，回復期，生活期等）の理学療法士資格を有する教員が複数担当する．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書やDVDなどの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと．
・本科目を受講の際は必ず大学指定のケーシーおよび靴を着用すること．また，装飾品（ピアス，ネックレス等）は外すこと．
（ケーシーの下に着る肌着等は原則白色とし，靴下も白，くるぶしソックスは認めない．また，ケーシーの上に何か羽織る場合は黒または紺のカーディガンとする．）
・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き，各自で確認すること．

【講義概要】

(目的)

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価に関する知識，技術を習得する．
※当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3

(方法)

・デモンストレーションやDVD，画像などをもとに，理学療法に関する評価技術を学び，実践する．また，毎講義前または後に必ず確認テストを行い，当該講義の内容理解を確認する．また，期末には実技試験を実施する．なお，グループを3つに分け，それぞれのグループに分かれて学修をしていく．

【一般教育目標(GIO)】

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価を行うことができる．

【行動目標(SBO)】

・理学療法評価に関する基本的な目的，内容を説明，記述することができる．
・理学療法に関する検査や測定を適切に実施することができる．
・グループで協力して学習を進めることができる．
・臨床に即した理学療法評価の手順や方法を考え，実践することができる．
・確認テストをもとに振り返りを行い，各自学習を深め，知識と技術を統合して評価技術を高めることができる．

【教科書・リザーブドブック】

1年次の「理学療法評価学」で購入した教科書一式
・crosslink理学療法学テキスト．理学療法評価学，メジカルビュー社(5,000円+税)

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学規定のGPA制度に従う
・学内試験規定に基づく授業態度，確認テスト，実技試験結果を総合的に評価する．
・出席点は評価に含まない．
・試験：実技試験．　小テスト：講義前または後の確認テスト

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	20	10						30
	思考・推論・創造の力	20	5						25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力	10							10
	学修に取り組む姿勢	30	5						35

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2,3,4	・姿勢評価 ・形態計測	(長島) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	姿勢評価および形態計測（周径含む）について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
5,6,7,8	・動作分析（起き上がり，立ち上がり，歩行）	(北村) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	起居動作から歩行までの動作分析について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
9,10,11,12	・脳神経検査 ・バランス評価	(若菜) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	脳神経検査およびバランス評価について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
13,14,15,16	・筋緊張検査 ・協調性検査	(長島) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	筋緊張検査および協調性検査について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
17,18,19,20	・感覚検査 ・反射検査	(北村) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	反射検査および感覚検査について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
21,22,23,24	・高次脳機能検査	(若菜) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	高次脳機能検査について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
25,26,27,28	・ADL評価	(担当全教員) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	ADL評価について事前に学び，講義にその実際を学ぶ.	30
29,30	実技試験前復習練習	(担当全教員) ・講義，実技 機能訓練室，治療室	これまでの実技内容に関する実技試験のための全体確認.	30

試験	理学療法評価学実習Ⅱで学んだ内容を範囲とする.	（担当全教員） ・試験 機能訓練室，治療室	総まとめ	30

リハビリテーション学科

【科目名】	物理療法学			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0600-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月曜～金曜; 8:30～17:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理学の知識が必要となることがあるので1年次に「物理学」の履修が勧められる。
・3年次の物理療法学実習はこの物理療法学を履修していないと受講できません。
・講義構成は「個人の学び」、「講師による講義」、「レポート作成」となります。
・講義内容はすべてteamsの動画を授業前に確認するようにしてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。印刷は行いません。
・授業中はパソコン、タブレットを使用して小テスト・資料の閲覧などをする機会があります。
・試験結果・レポートは直接返却し、offce365を使用してフォードバックを行います。再試験は返却しません。
＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です。総合病院、介護老人保健施設などで理学療法士としてかかわってきた経験から、物理療法の使用方法を説明します。

【講義概要】

(目的)

個々の物理的エネルギーの特性を理解して、疾患や症状に合わせた物理療法の選択肢ができる能力を身に付ける。
これにより治療的根拠を理解し、物理療法の効果、適応と禁忌について学修することを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-2,P-3

(方法)

・講義中に指定された教科書を各自でしっかりと読みこみます。
・不明な点に関して周りとディスカッションを行い解決します。
・さらに、講義により不足な点を補います。
・最後は、各自でレポートに学習した内容を記録します。
・講義で作成したレポートについては試験に持ち込み可能とします。

【一般教育目標(GIO)】

・学習者は物理的エネルギーが身体に与える影響を理解する。
・さらに、学習者は物理療法の治療概念、治療根拠について理解する。

【行動目標(SBO)】

・学習者は物理的エネルギーが身体に与える生理学的作用を理解する。
・学習者は各種物理療法機器の特徴を理解する。
・学習者は各種物理療法機器の適応と禁忌を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

烏野　大,理学療法学講座　物理療法学,医歯薬出版,2021年,5280円（税込み）

【参考書】

・特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

＊成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
＊テストの合計点とレポート・小テストの配点を含めて、6割満たない場合は再試験となります。
＊出席点は評価に含まれません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40	20				0	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力			20					20
	学修に取り組む姿勢							0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	・オリエンテーション ・物理療法の概要と定義を学ぶ	講義・演習 星野浩通		
3.4	物理療法の臨床適応と評価	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P17 -30	45分
5.6	・温熱療法の概要を学ぶ ・ホットパック療法について学ぶ	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P31-41	45分
7.8	・パラフィン浴について学ぶ。	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P42-44	45分
9.10	光線療法 赤外線レーザー	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P44-46	45分
11.12	高周波療法Ⅰ 超短波、極超短波	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P69-82	45分
13.14	高周波療法Ⅱ 超音波	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P83-101	45分
15・16	温熱療法まとめ 小テスト	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【小テスト範囲】 温熱療法について	45分

17・18	電気刺激療法Ⅰ	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P103-114	45分
19.20	電気刺激療法Ⅱ ・神経筋電気刺激(NMES)について学ぶ。 ・機能的電気刺激療法(FES)について学ぶ。	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P115-128	45分
21.22	電気刺激療法Ⅲ ・経皮的電気神経刺激(TENS)について学ぶ。 ・バイオフィードバック療法について学ぶ。	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P129-140	45分
２３．２４	光線療法	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P141-162	45分
25・26	寒冷療法	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P49-69	45分
27.28	牽引療法	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P163-174	45分
29・30	水治療法	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【予習】teams内動画視聴 【教科書】P175-190	45分
	・まとめ授業 ・科目テスト	講義・演習 星野浩通 C棟1年生教室	【テスト範囲】 電気刺激療法、光線療法、寒冷療法 牽引療法、水治療法から	

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学			【担当教員】	木村　和樹、若菜　翔哉
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0610-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	【木村】k.kimura@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技を行うことがあるため、その際は服装に注意すること。事前に教科書の範囲を最低1回は読んでおくこと。
病院や生活期でADL指導を臨床業務で行った経験から、各疾患の病態やADLについてを講じる。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

予習を行い、講義には積極的に望むこと。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の目的や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2
※当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2

(方法)

教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行う。
それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常生活活動とは何かを理解し、適切な評価方法について学ぶ。
各種疾患にみられる特徴的な活動制限について理解し、適切なADL 指導の考え方や方法を理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

基本的な介助方法が説明できる。
各種疾患の病態や障害を理解し、適切なADL 指導の方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
成績はレポートにより評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			30					30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	ADLの運動学的分析	実習（木村・若菜）	基礎運動学で学修した動作の運動学的用語を確認しておくこと。	60
3.4	基本動作の介助 立ち上がり、移乗	実習（木村・若菜）	立ち上がり動作のメカニズムについて、学生同士で確認すること。	60
5.6	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺1-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第1章）を読んでおくこと。 片麻痺患者のADLを復習すること。	60
7.8	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺2-	実習（木村・若菜）	教科書（ADL指導の実際第1章）を読んでおくこと。 片麻痺患者の動作を復習すること。	60
9.10	介助方法の一連の流れ	実習（木村・若菜）	見学実習で必要な技術として、ベッド上の対象者を車いすに移乗することができる。	60
11.12	障害別日常生活活動訓練の実際-パーキンソン病-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第8.10章）を読んでおくこと。 パーキンソン病のADLを復習すること。	60
13.14	障害別日常生活活動訓練の実際-神経筋疾患・難病-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第8.10章）を読んでおくこと。 神経筋疾患・難病のADLを復習すること。	60
15.16	障害別日常生活活動訓練の実際-関節リウマチ-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第4章）を読んでおくこと。 関節リウマチ患者のADLを復習すること。	60

17.18	障害別日常生活活動訓練の実際-切断- レポート課題	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第6章）を読んでおくこと。 切断患者のADLを復習すること。 レポート（50点分）を提出できるようにする。	60
19.20	障害別日常生活活動訓練の実際-脊髄損傷-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第2章）を読んでおくこと。 脊髄損傷患者のADLを復習すること。	60
21.22	ADLの概念と範囲について	講義（若菜）	講義および予習範囲：教科書P4～12 ADLの概念について、考え、理解してくこと。	60
23.24	ADLと障害について（国際生活機能分類： ICFを中心に） ADLとQOLについて	講義（若菜）	講義および予習範囲：教科書P13～33 国際障害分類と国際生活機能分類の基本概念と特徴を理解しておくこと。	60
25.26	ADL評価の意義と目的について ADL評価法について（機能的自立度評価法： FIM） FIMに関する課題提示（20点分）	講義（若菜）	講義範囲：教科書P48～54 ADL評価の重要性について、自分なりに考えておくこと。FIMの概要、評価項目、特徴について、理解しておくこと。	60
27.28	ADL評価（バーセルインデックス・その他の評価法について） FIMに関する課題提出（20点分） ICFに関する課題提示（30点分）	講義（若菜）	講義範囲：教科書P54～71 各ADL評価の特徴について理解しておくこと。FIMに関する課題を実施すること（20点分）。	60
29.30	グループディスカッション ICFに関する課題提出（30点分） ICFシートの発表	講義（若菜）	事前に指定した症例に対するICFの発表とICFシートの提出を行う為、各自、各グループでICFを作成しておくこと（30点分）。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学			【担当教員】	木村　和樹、若菜　翔哉
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0610-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	【木村】k.kimura@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技を行うことがあるため、その際は服装に注意すること。事前に教科書の範囲を最低1回は読んでおくこと。
病院や生活期でADL指導を臨床業務で行った経験から、各疾患の病態やADLについてを講じる。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

予習を行い、講義には積極的に望むこと。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の目的や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2
※当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2

(方法)

教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行う。
それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常生活活動とは何かを理解し、適切な評価方法について学ぶ。
各種疾患にみられる特徴的な活動制限について理解し、適切なADL 指導の考え方や方法を理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

基本的な介助方法が説明できる。
各種疾患の病態や障害を理解し、適切なADL 指導の方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
成績はレポートにより評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			30					30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	ADLの運動学的分析	実習（木村・若菜）	基礎運動学で学修した動作の運動学的用語を確認しておくこと。	60
3.4	基本動作の介助 立ち上がり、移乗	実習（木村・若菜）	立ち上がり動作のメカニズムについて、学生同士で確認すること。	60
5.6	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺1-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第1章）を読んでおくこと。 片麻痺患者のADLを復習すること。	60
7.8	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺2-	実習（木村・若菜）	教科書（ADL指導の実際第1章）を読んでおくこと。 片麻痺患者の動作を復習すること。	60
9.10	介助方法の一連の流れ	実習（木村・若菜）	見学実習で必要な技術として、ベッド上の対象者を車いすに移乗することができる。	60
11.12	障害別日常生活活動訓練の実際-パーキンソン病-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第8.10章）を読んでおくこと。 パーキンソン病のADLを復習すること。	60
13.14	障害別日常生活活動訓練の実際-神経筋疾患・難病-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第8.10章）を読んでおくこと。 神経筋疾患・難病のADLを復習すること。	60
15.16	障害別日常生活活動訓練の実際-関節リウマチ-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第4章）を読んでおくこと。 関節リウマチ患者のADLを復習すること。	60

17.18	障害別日常生活活動訓練の実際-切断- レポート課題	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第6章）を読んでおくこと。 切断患者のADLを復習すること。 レポート（50点分）を提出できるようにする。	60
19.20	障害別日常生活活動訓練の実際-脊髄損傷-	講義（木村）	教科書（ADL指導の実際第2章）を読んでおくこと。 脊髄損傷患者のADLを復習すること。	60
21.22	ADLの概念と範囲について	講義（若菜）	講義および予習範囲：教科書P4～12 ADLの概念について、考え、理解してくこと。	60
23.24	ADLと障害について（国際生活機能分類： ICFを中心に） ADLとQOLについて	講義（若菜）	講義および予習範囲：教科書P13～33 国際障害分類と国際生活機能分類の基本概念と特徴を理解しておくこと。	60
25.26	ADL評価の意義と目的について ADL評価法について（機能的自立度評価法： FIM） FIMに関する課題提示（20点分）	講義（若菜）	講義範囲：教科書P48～54 ADL評価の重要性について、自分なりに考えておくこと。FIMの概要、評価項目、特徴について、理解しておくこと。	60
27.28	ADL評価（バーセルインデックス・その他の評価法について） FIMに関する課題提出（20点分） ICFに関する課題提示（30点分）	講義（若菜）	講義範囲：教科書P54～71 各ADL評価の特徴について理解しておくこと。FIMに関する課題を実施すること（20点分）。	60
29.30	グループディスカッション ICFに関する課題提出（30点分） ICFシートの発表	講義（若菜）	事前に指定した症例に対するICFの発表とICFシートの提出を行う為、各自、各グループでICFを作成しておくこと（30点分）。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患理学療法学Ⅰ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0620-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水：13:30-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

教科書は毎回必ず持参すること．単位認定試験では配布資料および教科書からの出題する．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

臨床で非常に多くの経験機会がある運動器疾患について，疾患の特徴や評価・治療法について学びます．
講義ではディスカッションが大半を占めます．ディスカッションするために必要な知識を講義スケジュールの内容に沿って事前学修しておくことを強く推奨します．楽しいディスカッションをして考える力を身につけていきましょう．
なお，本科目は実務経験10年以上（専門：運動器疾患）の理学療法士資格を有する教員が担当します．

【講義概要】

(目的)

各種の運動器疾患に関する①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを学び，臨床応用できるように学修します．
当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3

(方法)

教科書，スライドを使用して，①講義②ディスカッションを行います．
また，事例検討も行い，より臨床実践を想定した時間も設けます．
なお，毎講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い，講義内容理解の確認を行います．
※講義資料は全てTeamsの当該科目内に収納し，対面講義を受講できない際はそちらから確認テストを回答することで講義内容を理解し，出席したと認める事もある．その際は当該講義の少なくとも3日前には科目担当に事前連絡する事．

【一般教育目標(GIO)】

各種の運動器疾患に対して，①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを立案できる．

【行動目標(SBO)】

各種の運動器疾患に対して，①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

加藤浩：理学療法学テキスト運動器障害理学療法学．MEDICALVIEW．（6,500円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価は基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．
なお，出席状況は成績に反映はされないが，単位認定試験の受験資格を得るためには全講義の2/3を出席しなければならない．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	10						50
	思考・推論・創造の力	40	10						50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義オリエンテーション ・運動器疾患の概論	・講義	2-57	
3,4	腰痛疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	370-437＜腰痛疾患の概要＞ ・筋筋膜性腰痛 ・脊柱変形	
5,6	腰痛疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	370-437＜腰痛疾患＞ ・梨状筋症候群 ・脊椎圧迫骨折 ・仙腸関節障害	
7,8	腰痛疾患の病態と評価，治療(3) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	370-437＜腰痛疾患＞ ・脊柱管狭窄症 ・脊椎分離・すべり症 ・椎間板ヘルニア	
9,10	膝関節疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	240-274,438-468＜膝関節＞ ・変形性膝関節症 ・半月板損傷 ・前十字靭帯損傷	
11,12	膝関節疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	240-274,438-468＜膝関節＞ ・TKA ・HTO ・UKA	
13,14	足関節疾患の病態と評価，治療 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	470-536＜足関節＞ ・捻挫 ・扁平足 ・アキレス腱断裂	
15	前期試験	・講義 ・試験	これまでの内容の総復習です.	

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学Ⅰ			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0630-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～金　8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う際は、動きやすい服装で受講してください。
・本科目は実務経験者対応科目です。医療機関で主に中枢神経疾患（脊髄損傷含む）の理学療法に従事してきた経験から、中枢神経の基礎から疾患の概要、理学療法について講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・レポートは他に支障がない限り返却します。
・試験の解答は、原則返却しません。
・筋・支配神経、脊髄・中枢神経系の解剖・生理学について復習しておいてください。

【講義概要】

(目的)

・脳血管障害と脊髄損傷の２大疾患について、原因、症状、合併症を学習し、それらの障害に対する理学療法について理解することを目的とする。本講義では、特に脊髄を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ることで、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。

当該科目と授与方針等との関連性：P-3

(方法)

教科書の他、資料を配布して講義を行う。実技も行う。本科目は主として、「対麻痺の理学療法」、「四肢麻痺の理学療法」、「呼吸障害に対する肺理学療法」などについて講義する。
講義と実技、グループワークを繰り返しながら進める。適時、課題を出す。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経系の機能が損なわれるとどのようなことが起こるかを理解する。また脊髄損傷による症状、病態とそれが起こる理由、損傷レベルによる違い、対処法等について理解する。

【行動目標(SBO)】

①中枢神経系疾患によって生じる症状や合併症及びそれが起こる理由を説明できる。
②脊髄損傷の病態に即した理学療法評価を選択し，実施できる.
③障がいを受けた方の身体的・心理的・社会的問題とその解決策を検討することができる.
④対麻痺、四肢麻痺者の動作を模倣できる。

【教科書・リザーブドブック】

鈴木俊明,他：神経障害理学療法Ⅰ，脳血管障害，頭部外傷，脊髄損傷，メディカルビュー，2019

【参考書】

武田功（編）：PTマニュアル，脊髄損傷の理学療法，第3版，医歯薬出版，2017

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
期末試験および課題レポート、その他を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	オリエンテーション 脊髄の解剖 脊髄損傷の病態（原因、症状）	講義	（予習）脊髄損傷について調べておくこと （復習）教科書(pp164-165)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
2 前期	脊髄損傷の症候・障害 運動器障害 感覚障害 排尿障害 呼吸障害	講義	（予習）筋・神経支配について学習しておくこと （復習）教科書(pp169-175)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
3 前期	理学療法評価：評価尺度 ASIA評価 Zancolli分類 Frankel分類	講義・実技	（予習）前回までの講義を学習しておくこと （復習）教科書(pp187-193)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
4 前期	脊髄損傷に対する基本的評価 機能障害に対する評価（1） 運動障害に対する評価 筋力評価	講義・実技	（予習）MMTについて学習しておくこと （復習）教科書(pp181-185)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
5 前期	機能障害に対する評価（2） 運動障害に対する評価 関節可動域評価	講義・実技	（予習）ROM・Tについて学習しておくこと （復習）教科書(p185)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
6 前期	機能障害に対する評価（3） 感覚障害に対する評価	講義・実技	（予習）デルマトーマについて学習しておくこと （復習）教科書(pp185-186)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
7 前期	主な合併症と医学的管理 褥瘡、異所性骨化、排尿障害	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp228-229)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
8 前期	脊髄損傷に対するADL評価	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp186-187)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90

9 前期	脊髄損傷に対する急性期の理学療法	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp193-202)、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
10 前期	脊髄損傷に対する回復期の理学療法	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp202-223)、配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
11 前期	生活機能の向上と社会参加	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp224-226)、配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
12 前期	装具・自助具の適応	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp231-235)、配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
13 前期	環境制御に用いる機器	講義・実技	（予習）前回までの講義について学習しておくこと （復習）教科書(pp231-235)、配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
14 前期	呼吸障害に対する肺理学療法	講義・実技	（予習）呼吸について調べておくこと （復習）教科書(pp196-199)、配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
15 前期	脊髄損傷まとめ	講義 レポート	（予習）前回までの講義について調べておくこと （復習）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学Ⅱ			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0630-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月～金　8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う際は、動きやすい服装で受講してください。
・本科目は実務経験者対応科目です。医療機関で主に中枢神経疾患の理学療法に従事してきた経験から、中枢神経の基礎から疾患の概要、理学療法について講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・レポートは他に支障がない限り返却します。
・試験の解答は、原則返却しません。
・中枢神経系の解剖・生理学について復習しておいてください。

【講義概要】

(目的)

・本講義では、特に脳血管障害の病因、症状、合併症を学習し、それらの障害に対する理学療法について理解することを目的とする。中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ることで、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。

当該科目と授与方針等との関連性：P-3

(方法)

資料を配布する。実技も行う。また必要に応じて課題を与える。本科目は「中枢神経疾患理学療法学」の後半を講義し評価を実施する。

講義とグループワークを繰り返しながら進める。適時、課題を出す。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経系の機能が損なわれるとどのようなことが起こるかを理解する。そのためには中枢神経系の構造や機能を理解した上で、脳が障害された場合の病因や症状、それに対する理学療法評価や病期別の理学療法の展開について理解する。併せて、脳の損傷とその回復についても理解する。

【行動目標(SBO)】

①脳の構造や機能、脳血管の走行について説明できる。
②脳血管障害によって生じる症状や合併症及びそれが起こる理由を説明できる。
③脳血管障害の病態に即した理学療法評価を選択し、実施できる。
④脳卒中片麻痺者で生じる問題をICFに沿って分類できる。
⑤脳卒中片麻痺者に対する理学療法プログラムを立案、説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

鈴木俊明,他：神経障害理学療法Ⅰ，脳血管障害，頭部外傷，脊髄損傷，メディカルビュー，2019

【参考書】

①石川朗（編）：15レクチャー，理学療法テキスト，神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，￥2400
②石川朗（編）：15レクチャー，理学療法テキスト，神経障害理学療法学Ⅱ，中山書店，￥2400

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
期末試験および課題レポート、その他を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2 後期	オリエンテーション 中枢神経系理学療法の基礎： 中枢神経の構造と機能(1)	講義・演習	（予習）中枢神経系の解剖学・生理学について調べておくこと （復習）教科書（pp2-8）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
3．4 後期	中枢神経系理学療法の基礎： 中枢神経の構造と機能(2)	講義・演習	（予習）前回までに学んだことについて学習しておくこと （復習）教科書（pp8-18）配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
5 後期	脳卒中疾患の病態	講義・演習	（予習）脳血管の解剖学について学習しておくこと （復習）配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
6 後期	脳の損傷と回復過程	講義・演習	（予習）主要な動脈が破綻した時の症状について学習しておくこと （復習）配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
7 後期	脳血管障害に対する医学的管理 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血	講義・演習	（予習）運動に関与する経路について学習しておくこと （復習）教科書（pp32-33）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
8・9 後期	脳卒中症候・障害と治療（1）	講義・演習	（予習）前回、学んだことについて学習しておくこと （復習）教科書（pp32-33）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
10・11 前期	脳卒中症候・障害と治療（2）	講義・演習	（予習）感覚の関与する経路について学習しておくこと （復習）教科書（p6,33）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
12・13 後期	脳卒中片麻痺評価（1） 機能障害	講義・演習	（予習）前回、学んだことについて学習しておくこと （復習）教科書（p6,33）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90

14・15 後期	脳卒中片麻痺評価（2） 機能障害	講義・演習	（予習）脳卒中の三大疾患について調べておくこと （復習）教科書（pp26-28）、配布資料で講義の内容を理解すること	90 90
16・17 後期	脳卒中片麻痺評価（3） 活動制限	講義・演習	（予習）前回、学んだことについて学習しておくこと （復習）教科書（pp29-31）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
18・19 後期	脳卒中片麻痺に対する理学療法（1） 理論的背景、機能障害に対する治療介入	講義・演習	（予習）脳の可塑性について予習しておくこと （復習）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
20～23 後期	脳卒中片麻痺に対する理学療法（2） 基本動作を中心に	講義・演習	（予習）脳血管障害について調べておくこと （復習）教科書（pp37-42）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
24～26 後期	脳卒中片麻痺に対する理学療法（3） 歩行を中心に	講義・演習	（予習）各時期別リハビリテーションについて調べておくこと （復習）教科書（pp85-98）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
27・28 後期	高次脳機能障害に対する理学療法 Pusher現象と半側空間無視	講義・演習	（予習）片麻痺機能評価について調べておくこと （復習）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
29・30 後期	脳卒中片麻痺に対する理学療法 症例を通して まとめ	講義・演習 レポート	（予習）ADLについて調べておくこと （復習）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	発達障害理学療法学			【担当教員】	押木　利英子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-14-0080-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	押木：oshiki@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 押木：火・木　11:00～17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

発達障害理学療法は理学療法の主要な分野のひとつです。必修科目であり、主体的な出席を望みます。

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です。肢体不自由児施設、小児医療センター、総合病院小児リハ科等の理学療法に従事してきた経験から、小児の運動発達とその評価方法について講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．この科目では15分以上の遅刻は欠席となります。
２．この科目は対面授業で行います。ただし、コロナ感染の状況に応じてその限りではありませんので、Teams連絡事項を注意してみておいてください。
３．この科目の学修には「小児科学」関連の基礎知識が必須ですので、よく復習しておいてください。
４．試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

運動発達障害児に対する理学療法では成長・発達の機序、評価法について学びます。さらに、発達評価をすることで発達障害児の早期発見・治療の重要性や意義について修することを目的とします。

当該科目と学位授与方針との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針との関連性；P-2,3

(方法)

この科目は対面授業で行います。主として教科書や配布資料を使用して講義を行います。また、個人の学習課題を課して、それをもとにグループ討論、演習、発表を実施します。

【一般教育目標(GIO)】

・小児の正常運動発達の機序（受胎から立位。歩行まで）を理解し、その体現方法を習得する。
・総合的発達や運動発達の評価方法を習得する。
・脳性麻痺総論、異常運動発達を修得する。

【行動目標(SBO)】

・小児の正常発達（胎児、背臥位、腹臥位、座位、立位、歩行）が説明、体現ができる。
・発達に関する評価方法やADL評価方法を理解し、実施できる。
・脳性麻痺の異常運動発達について説明し、体現できる

【教科書・リザーブドブック】

小児理学療法テキスト(改定3版)　田原弘幸 他　南江堂　2019年　4,500円＋税

【参考書】

正常発達と脳性まひの治療とアイデア（第2版）Jung Sun Hongtyou 紀伊克昌　他　三和書店　2014年　4104円
その他は授業中に必要に応じて紹介します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。
・成績評価：期末試験及び中間テスト、小テスト、レポート、その他により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10	10					100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	正常発達 発達とは・発達指標とは 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」P3～P14を読んでおく　復習：正常運動発達についてにまとめる	90
3，4	各種発達評価法（1） 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」P3～P18を読んでおく　復習：正常運動発達についてまとめる。評価法について自分で実施してみる。	90
5，6	各種発達評価法（2） 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」P15～P33を読んでおく。復習：評価法について自分で実施してみる。	90
7，8	各種発達評価法（3） 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」P46～P61を読んでおく。復習：評価法について自分で実施してみる。	90
9.10	正常運動発達の演習 担当：押木	演習：グループワーク、PBL学習	予習：1~8限までの授業内容をよく読んでおく。事前に出された課題について情報収集しまとめておく。	90
11，12	異常姿勢反射と運動発達障害 担当：押木	講義 対面授業	予習・復習：教科書「小児理学療法テキスト」P62～P69を読んでおく	90
13、14	筋緊張の評価と異常運動発達演習 担当：押木	演習：グループワーク、PBL学習	予習：11~13限までの授業内容をよく読んでおく。事前に出された課題について情報収集しまとめておく。	90
15	中間試験	ペーパー試験	復習：教科書「小児理学療法テキスト」P3～P90を読んで復習する。配布資料を読み返す。覚える。	120

リハビリテーション学科

【科目名】	発達障害理学療法学			【担当教員】	押木　利英子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-14-0080-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	押木：oshiki@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 押木：火・木　11:00～17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

発達障害理学療法は理学療法の主要な分野のひとつです。必修科目であり、主体的な出席を望みます。

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です。肢体不自由児施設、小児医療センター、総合病院小児リハ科等の理学療法に従事してきた経験から、小児の運送発達とその評価方法について講義します。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．この科目は対面授業を行います。コロナ伝搬の状況によりこの限りではありませんので、Teams連絡は注意してみてください。
２．この科目の学修には「小児科学」関連の基礎知識が必須ですので、よく復習しておいてください。
３．試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

運動発達障害児に対する理学療法では成長・発達の機序、評価法、運動療法について学びます。さらに、脳性麻痺、ダウン症などにおける運動機能障害が個々の発達や生活活動にどのような影響があるのかについて学修することを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針との関連性；P-2,3

(方法)

この科目は対面授業を行います。主として教科書や配布資料を使用して講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・各小児疾患の異常運動発達を理解し、習得する。
・小児の代表的な疾患児の運動療法の基本と主要疾患へのアプローチを習得する。

【行動目標(SBO)】

・発達障害を伴う代表的な疾患の特徴とアプローチの方法を説明できる。
・疾患別の理学療法計画の立案・評価・実践ができる。

【教科書・リザーブドブック】

小児理学療法テキスト(改定3版)　田原弘幸 他　南江堂　2019年　4,500円＋税

【参考書】

正常発達と脳性まひの治療とアイデア（第2版）Jung Sun Hongtyou 紀伊克昌　他　三和書店　2014年　4104円
その他は授業中に必要に応じて紹介します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。
・成績評価：期末試験、小テスト、その他により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	前期の復習とまとめ 脳性麻痺　痙直型四肢麻痺 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書P91～P107 「小児理学療法テキスト」を読んでおく。	90
3,4	脳性麻痺　痙直型両麻痺　片麻痺 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ108～P119、Ｐ128～P136を読んでおく。	90
5,6	脳性麻痺　アテトーゼ型 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ1417～P155を読んでおく。	90
7.8	子どもの整形外科疾患 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ162～P174を読んでおく。	90
9,10	知的障害児の理学療法 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ173～P188を読んでおく。	90
11,12	子どもの遺伝性疾患 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ109～P208を読んでおく。	90
13,14	重症心身障害児と療育指導 担当：押木	講義 対面授業	予習：教科書「小児理学療法テキスト」P209～P220を読んでおく。	90
15	まとめ	講義 対面授業	復習：教科書「小児理学療法テキスト」の講義した領域と教材をよくr買いしておく、	120

リハビリテーション学科

【科目名】	老年期理学療法学			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0665-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火～水 12:30-13:30 16：00-17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. すでに履修がすんでいる科目については、理解している前提で授業を進めるので復習しておく。
2. 事前に配布された資料を予習しておく。
3. 本科目は選択科目であるが、高齢者が理学療法対象になることが多いので、できるだけ履修することを勧める。
4. 臨床現場では、高齢者にほぼ確実に接する機会がある。高齢者に関連した基礎知識として履修することを強く進める。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1. 教科書、配布資料、動画を使用した講義を中心に行う。
2. 定期的に授業開始前に授業内容のミニテストを行う。
3. この科目は実務経験者対応科目である。

【講義概要】

(目的)

1. 骨、関節、筋□、神経などの運動器、肺などの呼吸器、□臓、□管などの循環器、心理・精神機能などは、加齢に伴い様々に変化する。これらの加齢性疾患は、要介護状態に至ることで大きな医療・社会的問題となっている。本授業では加齢性疾患の概要について講義して、理学療法に関連した疾患、状態を説明し、健康増進・介護予防、リハビリテーションについての知識を理解する。
2. 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3、P-2

(方法)

1. 配布資料、動画を使用し、高齢者の身体特性・身体機能の理解を深め、理学療法評価・プログラムについて講義を行う。
2. 講義内容によって、学生間での討論を促す。

【一般教育目標(GIO)】

1. 超高齢社会の現状、高齢者の身体機能、精神機能、リスク管理、疾患特異的な評価について理解している。

【行動目標(SBO)】

1. 超高齢社会の現状について説明できる。
2. 高齢者の身体機能、精神機能について説明できる。
3. 高齢者の一般的リスク管理、在宅でのリスク管理について説明できる。
4. 高齢者の包括的評価、疾患特異的評価について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

1. 資料、プリントを適時配布，Teams内に格納しておく。

【参考書】

１．島田裕之　他編集　『高齢者理学療法学』医歯薬出版，2017年．￥9,720（税込み）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。出席点は評価に含まない。
2. 小テストはその実施後に、定期試験は試験終了後に回答を説明しながらフィードバックする。
3. 本試験を実施して60点未満は再試験を行う。本試験合格者は小テスト、ノート点検などを考慮して最終成績とする。再試験者は最大60％とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	15	0	0	0	5	0	100
評価指標	取り込む力・知識	70	10						80
	思考・推論・創造の力	10	5						15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						5		5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	・超高齢者社会の現状と課題 ・加齢に伴う身体的変化	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理し教科書のまとめ	60
3.4	・フレイル ・サルコペニア	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること 参考書pp393-401(以下同様)	60
5.6	・ロコモティブ症候群 ・骨粗鬆症と骨折	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp402-412,pp306-307,pp466,	60
7.8	・転倒と骨折 ・筋力トレーニング	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp384-391	60
9.10	・認知機能、認知症	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp139-148 pp374-382 pp422-431	60
11.12	・誤嚥性肺炎、褥瘡など	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp438-425 pp454-460	60
13.14	・低栄養、脱水など	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp446-452 pp454-460	60
15	・訪問および通所理学療法とリスク管理 ・まとめ	小テスト 講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること pp594-599	60

リハビリテーション学科

【科目名】	触察技術学			【担当教員】	若菜　翔哉、長島　裕子、金子　巧
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	wakana@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・本科目は実技を中心として実施していく.
・本科目は実務経験5年以上の理学療法士資格を有する教員が複数担当する.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書などの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・受講の際は，体表に振れやすい服装とし，原則は半袖Tシャツ，半ズボンを着用とする（体調や気候により例外あり）.
・装飾品(ピアス、ネックレス、指輪、腕時計、ブレスレット)は禁止し，爪は短くしておくこと.
・学修した部位を理学療法評価に応用できるように意識すること.
・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き，各自で確認をすること.

【講義概要】

(目的)

理学療法に必要な運動器の異常を触察により検出する能力を高める．同時に体表解剖学を学ぶことにより，どのような組織に異常があるかを同定することができる．病的部位の種類や損傷の程度により，理学療法の適応か否か，またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする.
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,P-3

(方法)

・ランドマークや筋の部位を触察により同定できるように実技を行う.
・触察技術に関する実技試験や筆記試験を行い，その都度フィードバックする.

【一般教育目標(GIO)】

・ランドマークと筋を的確に触察することができる.

【行動目標(SBO)】

・ランドマークを的確に触察することができ，理学療法評価に応用することができる.
・筋を触察することができ，理学療法評価に応用することができる.

【教科書・リザーブドブック】

１．青木隆明監修，改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）、２；青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う.
・出席点は評価に含みません.
・成績評価は，実技試験（本試験、中間試験（小テスト））と筆記試験（初回の小テスト）により総合的に評価する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20	0	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	・小テスト（筆記試験） ・講義のオリエンテーション	・小テスト（筆記），実技（若菜，長島，金子）	範囲：肩甲骨，上腕骨，骨盤，大腿骨，脛骨と腓骨 上記範囲を描写できるかを確認する.	
3.4	・実技（骨） 触察部位：肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各骨の構造とランドマークを確認しておくこと.	60
5.6	・実技（骨） 触察部位：肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各骨の構造とランドマークを確認しておくこと.	60
7.8	・実技（骨） 触察部位：肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各骨の構造ランドマークを確認しておくこと.	60
9.10	・実技（筋） 触察部位：肩甲上腕関節に関わる筋，肩甲胸郭関節に関わる筋，肘関節に関わる筋	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各筋の起始停止, 作用を確認しておくこと.	60
11.12	・実技（筋） 触察部位：肩甲上腕関節に関わる筋，肩甲胸郭関節に関わる筋，肘関節に関わる筋	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各筋の起始停止, 作用を確認しておくこと.	60
13.14	・実技（筋） 触察部位：肩甲上腕関節に関わる筋，肩甲胸郭関節に関わる筋，肘関節に関わる筋	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと. 各筋の起始停止, 作用を確認しておくこと.	60
15.16	中間試験（実技試験）	・中間試験（実技）（若菜，長島，金子）	肩関節と肘関節に関わる骨および筋に対する触察技術の修得程度を確認する.	60

17.18	・実技（骨・筋） 触察部位：骨盤，胸郭と脊柱に関する諸組織	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P2～17,268～311.上記範囲を最低1回読んでおくこと.各部位の構造,起始停止,作用を確認しておくこと.	60
19.20	・実技（骨・筋） 触察部位：骨盤，胸郭と脊柱に関する諸組織	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P2～17,268～311.上記範囲を最低1回読んでおくこと.各部位の構造,起始停止,作用を確認しておくこと.	60
21.22	・実技（骨） 触察部位：大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74. 上記範囲を最低1回読んでおくこと..各骨の構造とランドマークを確認しておくこと.	60
23.24	・実技（骨） 触察部位：大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74. 上記範囲を最低1回読んでおくこと..各骨の構造とランドマークを確認しておくこと.	60
25.26	・実技（骨・筋） 触察部位：大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺，股関節に関わる筋	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74,88～91,140～179.上記範囲を最低1回読んでおくこと.各部位の構造,起始停止,作用を確認しておくこと.	60
27.28	・実技（筋） 触察部位：股関節，膝関節，足関節および足部に関わる筋	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P140～258.上記範囲を最低1回読んでおくこと.各筋の構造,起始停止,作用を確認しておくこと.	60
29.30	・実技（筋） 触察部位：股関節，膝関節，足関節および足部に関わる筋 ・授業評価アンケート	・実技（若菜，長島，金子）	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P140～258.上記範囲を最低1回読んでおくこと.各筋の構造,起始停止,作用を確認しておくこと.	60
	本試験（実技試験）	・試験（若菜，長島，金子）	範囲：本科目で学んだ内容	

リハビリテーション学科

【科目名】	生活環境論Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹、長島　裕子
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】	3-15-0135-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 毎週月曜　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

グループワークを行い成果発表を行う。退院支援や在宅でのリハビリテーションを実施してきた経験から、退院後の生活場面を想定した住宅改修案等を講じる。
そのため、本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。
課題作業は積極的に教員の確認をもらい、修正していくこと。

【講義概要】

(目的)

在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修することを目的とする。
※当該科目学位授与方針等との関連性；A-2,P-2

(方法)

住宅改修、福祉用具の基礎を講義で行い、具体的な実践例の紹介、成果発表を行い理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。そのために必要な知識や自宅での生活場面を想定して、実際に住宅改修案を提案できることが目標である。

【行動目標(SBO)】

①生活環境評価の手順を理解し、評価のポイントを説明できる。
②生活環境改善計画の実際を理解し、症例に即した改善計画を立てることができる。
③生活環境改善に必要な住宅改修や福祉用具について説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
成果発表により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					100				100
評価指標	取り込む力・知識				30				30
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				20				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2.3	オリエンテーション 生活環境と法律制度 住宅改修の基本と進め	講義（長島）	住宅改修に関わる法律制度を理解する。	30分
4.5.	住宅改修（作業①）	講義（木村、長島）	講義を復習して、発表資料に反映させること。	30分
6.7	理学療法と住宅改修の例	講義（木村）	作業の進捗状況を教員に報告して、必要に応じで修正する。	30分
8.9	住宅改修（作業②）	講義（木村、長島）	住宅改修の提案を自ら考えておくこと。	30分
10.11	住宅改修（作業③）	講義（木村、長島）	住宅改修の提案を自ら考えておくこと。	30分
12.13	成果発表	成果発表（木村、長島）	成果発表に向けた準備をして望むこと。 質問や指摘事項をグループで整理すること。	30分
14.15	成果発表	成果発表（木村、長島）	成果発表に向けた準備をして望むこと。 質問や指摘事項をグループで整理すること。	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	地域リハビリテーション論Ⅰ			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～水 12:30-13-30 16:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．履修前に理学療法の概要を学修している。
２．本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。地域リハビリテーション・地域理学療法に従事した経験から、地域理学療法、理学療法士に求められる役割等について講義する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．毎回、テキストの指定頁を予習しておくことが必須である。
２．定期試験後の回答・解説は再試験該当者には実施する。本試験合格者びは希望により試験結果を閲覧できる。

【講義概要】

(目的)

１．高齢者施設の入所者、在宅の療養者を想定した入所、訪問、通所の理学療法について、考え方、知識を修得する。
２．「地域」の事例に対して、理学療法の問題点、プログラムのについて理解している。
３．当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2、A-3、P-2

(方法)

１．主にテキストを中心とした内容及び配布資料に基づいて講義を行う。
２．予習の確認として小テストを実施する。小テストはFormsで回答し、それらを出欠の確認とする。
３．適宜、レポートを求める。

【一般教育目標(GIO)】

１．地域リハビリテーションについてまたその中での理学療法士の位置づけを理解すること。
２．生活場面（在宅・介護福祉施設など）で理学療法士の具体的役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 施設入所者、在宅療養者の地域理学療法の問題点、基本的理学療法を説明できる。
2. 地域理学療法の諸制度を理解し、予防的視点からも地域理学療法を説明できる。
3. 地域理学療法における福祉用具や住宅改修の住環境整備について説明できる。
4. 地域理学療法の事例について自力で考察を加えることができる。

【教科書・リザーブドブック】

1. 金谷さとみ，原田和宏編．地域理学療法（第5版），医学書院，2022年，￥5,280（税込）

【参考書】

1. 鶴見隆正，隆島研吾.日常生活活動学・生活環境学，医学書院，2021，￥5,940（税込み）
2. 浅川康吉．地域理学療法学．MEDICAL VIEW,2019.¥4,500（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。
出席は成績に反映しない。
3. 定期試験は試験終了後に回答を説明しながらフィードバックする。
4. 定期試験を実施して60点未満は再試験を行う。定期試験合格者はノート点検などを考慮して最終成績とする。再試験者は最大60％とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		95					5		100
評価指標	取り込む力・知識	55					5		60
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	地域リハビリテーションの理解 ・地域リハビリテーション ・地域理学療法 ・地域における理学療法の役割	講義：小林	テキストの関連頁(以下同様) pp2-15	60
3,4	入所理学療法	講義：小林	pp166-171	60
5,6	訪問理学療法	講義：小林	pp152-157	60
7,8	通所理学療法	講義：小林	pp158-165	60
9,10	福祉用具と住環境整備	講義：小林	『日常生活活動学・生活環境学』 pp284-290、pp291-301 ノートチェック	60
11,12	介護予防と地域理学療法	講義：小林	pp172-175 pp198-200 pp202-206	60
13,14	地域包括ケアシステムと地域理学療法	講義：小林	pp21-23 pp230-233	60
15	まとめ	講義：小林	これまでの質問事項などを復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	見学実習			【担当教員】	長島　裕子、金子　巧
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-16-0000-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	4	【コマ数】	180	(オフィスアワー)月曜日　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修は、進級規定および臨床実習における規定に準ずる。
なお、本科目は学内実習に関しては十分な臨床経験（実務経験10年以上）を有する学内教員が担当し，学外実習ではそれぞれの実習施設における十分な臨床経験を有した理学療法士が指導にあたります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・本科目を受講の際は必ず大学指定のケーシーおよび靴を着用すること。また、装飾品（ピアス、ネックレス等）は外すこと。（ケーシーの下に着る肌着等は原則白色とし、靴下も白、くるぶしソックスは認めない。また、ケーシーの上に何か羽織る場合は黒または紺のカーディガンとする．）
・やむを得ず欠席する場合は事前に連絡を入れること。
・オリエンテーション、学内・学外実習は遅刻厳禁。

【講義概要】

(目的)

・理学療法士が所属している医療施設または老人保健施設等の福祉施設に赴き、理学療法を実施している場面を実際に見学しながら理学療法士の職場環境や他の医療職種との関わりなどに学び、自ら進む理学療法士像のイメージを創る。
・理学療法士に必要なコミュニケーション技術や評価技法を学修する。
・理学療法士として働くのに必要な文章作成能力を学修する。
※当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2,3、P-1,2,3,4

(方法)

実習は学内実習と学外実習で構成。
学内実習はオリエンテーションを含み、実習前および実習後に学内にて実施する。
学外実習は県内および県外の医療、福祉施設にて実施する。
学外実習期間は2週間とする。

【一般教育目標(GIO)】

・臨床現場での理学療法士業務全般を学ぶ
・臨床評価実習を円滑に行うために必要な知識と技術を身につける

【行動目標(SBO)】

・臨床現場での理学療法士の業務と役割を理解する
・感染対策、事故防止を実践する
・デイリーノートの記載方法を学ぶ
・理学療法士として患者への関わり方を学ぶ

【教科書・リザーブドブック】

・基礎からの確認　PT臨床実習チェックリスト．メジカルビュー社（3,200円）
・見学実習要綱

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
学内実習や学外実習の評価すべてを総合的に判断する。
理学療法評価実技関連¨60 点（OSCE＋筆記試験）、実習成果物¨20 点（デイリー、レポート）、報告会¨20 点

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		20	20	30			100
評価指標	取り込む力・知識	20		10	10	10			50
	思考・推論・創造の力					10			10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢	10		10		10			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	・オリエンテーション ・デイリーノートの書き方 ・コミュニケーションについて	講義	デイリーノートを記載する	30
5-8	・デイリーノートの書き方確認 ・ＯＳＣＥとＰＢＴ（筆記試験）について ・コミュニケーションについて	講義 実技演習	デイリーノートを記載する	30
9-12	・実習に必要なマナーについて ・コミュニケーションについて	講義 実技演習	デイリーノートを記載する	30
13-16	・臨床参加型実習について ・コミュニケーションについて	講義 実技演習	デイリーノートを記載する	30
17-20	・リスク管理と危険予知トレーニング	講義 実技演習	デイリーノートを記載する	30
21-24	・学生紹介用紙等の作成 ・疾患について学ぶ	講義 グループワーク	デイリーノートを記載する リスク管理について理解できる	30
25-28	・疾患について学ぶ	講義 グループワーク	デイリーノートを記載する リスク管理について理解できる	30
29-32	・疾患について学ぶ	講義 実技演習	デイリーノートを記載する 疾患についてまとめる	30

33-36	・疾患について学ぶ ・コミュニケーションについて	講義 実技演習	デイリーノートを記載する 疾患についてまとめる	30
37-40	・OSCE練習	講義 実技演習	デイリーノートを記載する 疾患についてまとめる	30
41-44	・実習前OSCE	実技試験	デイリーノートを記載する 疾患についてまとめる	30
45-84	・実習前学内実習 ・実習前PBT	グループワーク 筆記試験	デイリーノートを記載する 各自の課題に取り組む	30
85-174 （2週間）	学外実習	各実習施設	デイリーノートを記載する 実習課題をまとめる	30
175-180	・実習後OSCE ・実習後PBT ・実習後報告会	実技試験 筆記試験 発表	総まとめ	30

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅤ			【担当教員】	髙橋　明美、星野　浩通、大矢　薫
【授業区分】	教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com; hoshino@nur05.onmicrosoft.com; ohya@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できる限り受講してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目は、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。
・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。
・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート（感想文含む）については返却します。

【講義概要】

(目的)

3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2

(方法)

就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。

【一般教育目標(GIO)】

就職に繋げるための活動のポイントを理解する

【行動目標(SBO)】

・自己分析を通して、自分を知り、自分の強みをアピールすることができる
・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる
・就職活動のスケジューリングができる
・スケジュール管理ができる

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

新潟リハビリテーション大学Placement Book

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う
・担当教員による個別評価
・出席点は評価に含まれない。レポート（感想文含む）課題、その他を総合的に判断し成績評価とする

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80			10	10	100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			30			10	10	50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	イントロダクション、就職活動の流れの説明	講義 (専攻教員)	配布資料	45
2	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解①	講義・演習	配布資料	45
3	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解②	講義・演習	配布資料	45
4	外部講師（マイナビ）による自己理解セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	45
5	専攻別に実施（RP専攻はインターシップ講座）	講義・演習 (専攻教員)	配布資料	45
6	専攻別に実施（RP専攻はインターンシップ・マナー講座）	講義・演習 (専攻教員)	配布資料	45
7	専攻別に実施（RP専攻はSPI対策講座）	講義・演習 (専攻教員)	配布資料	45
8	外部講師（マイナビ）による履歴書・面接対策セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	45

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅱ			【担当教員】 長谷川　裕、藤本　聡、伊藤　渉、髙橋　明美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金：8：30－17：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からチーム医療について講じていく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・復習を行い理解を深めること
・演習やグループ討論を行うので休まないこと

【講義概要】

(目的)

対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。
この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際的な事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。

(方法)

実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。
・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。
・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。
・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

指定しない。
必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

指定しない。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・成績は、レポートにおける取組む力・知識、思考・推論・創造の力を総合的に評価する。
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その1）―	・講義 ・討論 （担当：藤本）	・リハ専門職、関連専門職について確認する ・討論のまとめをする	20 20
2	・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その２）―	・課題配信 ・演習 （担当：藤本）	・事例について、災害時の専門職連携についてまとめる	20 20
3	・専門職連携の実際例から学ぶ ―提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その１：診療現場）―	・課題配信 ・演習 （担当：長谷川）	・保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる ・症例に対する連携をまとめる	20 20
4	・専門職連携の実際例から学ぶ ―提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その２：訪問支援）―	・課題配信 ・演習 （担当：長谷川）	・前回の連携について確認する ・症例に対する連携をまとめる	20 20
5	・専門職連携の実際例から学ぶ①	・講義 ・演習 （担当：伊藤）	・事前に提示する症例に対して確認しておく ・提示された症例に対する専門職連携についてまとめる	20 20
6	・専門職連携の実際例から学ぶ②	・講義 ・演習 （担当：伊藤）	・前回の連携について確認する ・提示された症例に対する専門職連携についてまとめる	20 20
7	・病院や施設における専門職連携の実際について知る	・講義 ・討論 ・発表 （担当：髙橋）	病院や施設における専門職連携について確認する ・症例に対する連携方法をまとめ、発表する	20 20
8	・終末期医療における専門職連携を考える ・まとめ	・講義 ・討論 （担当：髙橋）	・終末期医療の現状について調べる ・科目のまとめ	20 20

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法Ⅰ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。
注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。

【講義概要】

(目的)

心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　S-1、R-2

(方法)

心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。

【一般教育目標(GIO)】

心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。

【行動目標(SBO)】

精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

毎回の授業で資料を配布する

【参考書】

山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込）
市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	１２０
３・４	測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	１２０
５・６	精神物理学的測定法（１）（刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異）	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	１２０
７・８	精神物理学的測定法（２）（調整法、極限法）	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	１２０
９・１０	精神物理学的測定法（３）（恒常法、マグニチュード推定法）	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	１２０
１１・１２	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	１２０
１３・１４	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	１２０
１５	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法Ⅱ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。
注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。

【講義概要】

(目的)

心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　S-1、R-2

(方法)

心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身に着けるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。

【行動目標(SBO)】

尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

毎回の授業で資料を配布する

【参考書】

山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込）
市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	尺度構成法（１）直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	１２０
３・４	尺度構成法（２）間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法が説明できる	１２０
５・６	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセスを説明できる	１２０
７・８	心理統計学（１）度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	１２０
９・１０	心理統計学（２）散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	１２０
１１・１２	心理統計学（３）共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	１２０
１３・１４	心理統計学（４）統計的仮説検定 ｔ検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解できる	１２０
１５	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	知覚・認知心理学Ⅰ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0055-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3

(方法)

毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。

【一般教育目標(GIO)】

人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。

【行動目標(SBO)】

人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

授業資料を毎回配布します。

【参考書】

箱田　裕司編　『知覚・認知心理学』　遠見書房（2,600円＋税）
森　敏昭他『グラフィック認知心理学』　サイエンス社（2,400円＋税）
御領　謙他『最新　認知心理学への招待　心の働きとしくみを探る』　サイエンス社（2,950円＋税）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・小レポートと定期試験を実施する。
・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてまとめる	１２０
３・４	感覚の測定（1）	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異についてまとめる	１２０
５・６	感覚の測定（2）	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまとめる	１２０
７．８	感覚の測定（3）	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法についてまとめる	１２０
９・１０	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行きの知覚および聴覚の仕組みについてまとめる	１２０
１１・１２	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達のプロセスについてまとめる	１２０
１３・１４	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	１２０
１５	まとめ		これまでの講義プリントの復習	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	知覚・認知心理学Ⅱ			【担当教員】	中川　明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0060-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12：40～13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3

(方法)

毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。

【一般教育目標(GIO)】

人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。

【行動目標(SBO)】

人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

授業資料を毎回配布します。

【参考書】

箱田　裕司編　『知覚・認知心理学』　遠見書房（2,600円＋税）
森　敏昭他『グラフィック認知心理学』　サイエンス社（2,400円＋税）
御領　謙他『最新　認知心理学への招待　心の働きとしくみを探る』　サイエンス社（2,950円＋税）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
・小レポートと定期試験を実施する。
・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	記憶（1）	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてまとめる	１２０
３・４	記憶（2）	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてまとめる	１２０
５・６	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまとめる	１２０
７．８	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、「概念」と言語との関連をまとめる	１２０
９・１０	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理についてまとめる	１２０
１１・１２	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およびメタ認知の内容についてまとめる	１２０
１３・１４	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序についてまとめる	１２０
１５	まとめ		これまでの講義プリントの復習	１２０

リハビリテーション学科

【科目名】	学習・言語心理学Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）から、人の心及び行動の基本的な仕組みと他者への適切な対応について講義していきます。人は誕生～生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。　ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。
課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。

【一般教育目標(GIO)】

学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。
言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を理解する。
学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

人間の行動は変化するものであることを説明できる。
人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。
学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。
学習・言語障害に対して適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊（編著）／サイエンス社 ／¥2,805（税込）

【参考書】

公認心理師の基礎と実践⑧ 学習・言語心理学／野島一彦・繁桝算男監修／遠見書房／2,600円＋税
学習心理学への招待（新心理学ライブラリ）／篠原彰一著 ／ サイエンス社 ／¥ 2,520
メイザーの学習と行動 ／ジェームズ E メイザー(著) ／二瓶社 (2008/06) ／ ¥4,200

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。
・出席点は評価に含まない。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例　条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p.1-14 指定教科書p.15-24	20
3.4	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去　汎化と弁別	講義	指定教科書p.24-35	20
5.6	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ　実験神経症　行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.36-42	20
7.8	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例　オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p.43-64 指定教科書p.149-154	20
9.10	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p.64-74	20
11.12	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.74-92	20
13.14	社会的学習 ・社会的学習とは何か　模倣学習　観察学習	講義	指定教科書p.125-134	20
15	社会的学習 ・攻撃行動　罰の効果　いじめの発生	講義	指定教科書p.134-144	20

リハビリテーション学科

【科目名】	学習・言語心理学Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)授業終了後	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）から、人の心及び行動の基本的な仕組みと他者への適切な対応について講義していきます。人は誕生～生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連した心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。　ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。
欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。
課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。
授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。

【一般教育目標(GIO)】

学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。
言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を理解する。
学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

人間の行動は変化することを説明できる。
人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。
学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。
学習障害及び言語障害に対して適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊（編著）／サイエンス社 ／¥2,805（税込）

【参考書】

公認心理師の基礎と実践⑧ 学習・言語心理学／野島一彦・繁桝算男監修／遠見書房／2,600円＋税
学習心理学への招待（新心理学ライブラリ）／篠原彰一著 ／ サイエンス社 ／¥ 2,520
メイザーの学習と行動 ／ジェームズ E メイザー(著) ／二瓶社 (2008/06) ／ ¥4,200

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含まない。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	社会的学習 ・自己効力感（self-efficacy） 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p.144-148	20
3.4	技能学習 ・学習曲線　結果の知識　練習条件	講義 一部演習	指定教科書p.93-102	20
5.6	技能学習 ・技能の記憶　技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p.102-124	20
7.8	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p.175-190	20
9.10	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能（脳機能画像）	講義	指定教科書p.184-199	20
11.12	言語障害への支援 ・失語症（Wernicke型、Broca型） ・失読・失書（alexia and agraphia） ・発達障害	講義 ビデオ教材使用	レポート作成	60
13.14	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用	講義	指定教科書p.149-174	20
15	まとめ	講義		20

リハビリテーション学科

【科目名】	動作解析学実習Ⅱ			【担当教員】	星野　浩通、伊藤　渉
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0555-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月～金 5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学・臨床運動学の教科書を復習しておくこと。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

患者に対して理学療法を実施する上では、患者の動作を観察・分析する必要性がある。この科目では、中枢性疾患や運動器疾患患者の動作分析の実際について解説し、それらの結果を臨床的に解釈することの重要性を理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2, 3　P-2,3

(方法)

目視や機器（三次元動作解析装置、表面筋電図など）による動作分析の実習を中心とした授業形態とする。
運動負荷試験による心拍数の変化を測定する。

【一般教育目標(GIO)】

・動作解析学の技術・手法を習得するために、各機器の使用方法や原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

・動作、姿勢観察を実践できる。
・三次元動作解析装置の使用方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『運動学実習 第3 版』医歯薬出版, 2004 年. ¥3,672

【参考書】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『基礎運動学 第6 版』医歯薬出版,2003 年.¥7,344 円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含みません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		25	25				100
評価指標	取り込む力・知識	25			5				30
	思考・推論・創造の力	25		10					35
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			15					15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1．2	・オリエンテーション ・グループ分け、スケジュール ・レポートの書き方	講義(星野・マルチメディア教室)	・Office365を使用できるようにしておくこと。 ・ビデオ学修	30
3～12	・3 次元動作解析装置で立ち上がり動作を測定する。 ・3 次元動作解析装置のデータ分析を学ぶ。	講義・星野専攻教室	床反力、3次元動作解析について復習する。	30
3～12	姿勢分析 背臥位、座位、立位	実習・星野運動解析室	骨・関節・筋・神経作用についてまとめる	30
3～12	動作分析 寝返り、起き上がり、立ち上がり	実習・星野運動解析室	骨・関節・筋・神経作用についてまとめる	30
3～12	動作分析 歩行	実習・星野運動解析室	3次元解析装置の使用方法を復習する。	30
13・14	グループ発表 動作分析発表	演習 アクティブラーニング マルチメディア	発表準備を進める。	30
15・16	運動負荷試験について	講義(星野・マルチメディア教室)	運動負荷試験について調べる。	30
17～24	運動負荷試験 身体作業能力	実習・星野運動解析室	実習手順を確認する	30

25・26	グループ発表	演習 アクティブラーニング マルチメディア	発表準備を進める	30
27～30	バイオメカニクスの演習	実習・星野 運動解析室	バイオメカニクス、力学の復習	30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法研究法Ⅲ			【担当教員】 小林　量作、長島　裕子、若菜　翔哉、高橋　明美、星野　由通、木村　和穂、伊藤　渉、北村　拓也、金子　巧、押木　利英子
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～水 12:40～13:30 16:00-17:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. 4 年次に卒業論文を履修する学生が受講対象となるが、それ以外でも将来就職してからの職場での研究発表を行いたい学生も履修対象となる。
　※選択科目であるが履修を強く推奨する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1. 事前に自分の理学療法における興味ある分野を明確にしておくこと。
2. この科目は実務経験者対応科目である。

【講義概要】

(目的)

1. 2年後期の「理学療法研究法」と4年の「卒業研究」との間で研究について継続的に学び、卒業研究へとつなげる。
2. 卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。
3. 自学自習の習慣を身に着け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に着ける
4. 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3、P-3

(方法)

1. 受講は担当教員による講義と、ゼミ教員の指導の下での卒業研究計画書・倫理審査申請書の作成、予備的研究の実施を行う。
2. また、論文抄読や学生相互間の情報交換を通じて卒業研究のテーマを決定する。

【一般教育目標(GIO)】

1. 理学療法の研究法について基礎知識を理解する。
2. 研究的思考能力を獲得する。

【行動目標(SBO)】

1. 自立して理学療法研究の計画を立案できる。
2. 倫理審査書類を作成できる。
3. 4年生の中間発表、卒業研究発表に参加する。

【教科書・リザーブドブック】

2年次購入の教科書を使用する

【参考書】

各ゼミで配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。
2. 成績評価は、ゼミ内での活動、研究の進捗状況などにより各ゼミ教員の評価と，科目担当教員が総合的に評価をする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30			30	40	100
評価指標	取り込む力・知識			10			10		20
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ							20	20
	発表力						10		10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・オリエンテーション ・研究倫理について	講義、小林 量作	・自分のテーマを決めておく。	60 分
3,4	・研究計画書、倫理審査申請書の作成方法　No1	講義、伊藤 渉	・テキストpp24-34、pp140-149	60分
5,6	・研究計画書、倫理審査申請書の作成方法　No1	講義、伊藤 渉	・テキストpp24-34、pp140-149	60分
7～15	・研究の流れ、文献収集、抄読会などの活動 ・研究計画書作成・プレ実験のの実施 ・プレ実験結果発表・倫理審査書類の作成	演習、ゼミ担当教員	・ゼミ教員の指導の下で研究計画書を作成する。 ・可能であれば予備的研究に着手する。	
	・4 回目以降の開講日は担当教員による指示の下でゼミ内で実施する ・ゼミの内容は担当教員により異なる			

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床運動学			【担当教員】	伊藤　渉
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0570-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	w.ito@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜，13:30～16:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動学Ⅰ，基礎運動学Ⅱ，基礎運動学Ⅲ，動作解析学実習Ⅰで学んだことを臨床やスポーツ現場での理学療法に応用し，活かせるよう学びます.
この科目は実務経験を有する教員が担当します.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

動作の観察や検査・測定がおこないやすい服装で参加してください.
動作の観察や分析にはカメラ，タブレット，スマートフォンなどを使用しても構いませんので用意してください.

【講義概要】

(目的)

解剖学・運動学の知識を用いて，理学療法評価における動作の観察，分析に役立てる.
ROM測定，MMTといった基本的な検査・測定と運動学の関係について学ぶ.
基本的な動作の観察，分析を通して，理学療法評価での統合と解釈について学ぶ.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

基礎運動学Ⅰ，基礎運動学Ⅱ，基礎運動学Ⅲ，動作解析学実習Ⅰで用いた教科書，配布資料を用いて講義をすすめます.
授業の始めに解剖・運動学に関わる小テスト，授業の終わりに授業内容に関わる確認テストをおこないます.
授業では，グループワークとして実際の動作を観察，分析し，プレゼンテーション，ディスカッションをおこないます.
小テスト，確認テスト，グループワークの取り組みを評価します.

【一般教育目標(GIO)】

解剖学・運動学の知識を用いて，理学療法評価における動作の観察，分析に役立てることができる.
ROM測定，MMTといった基本的な検査・測定と運動学の関係について理解することができる.
基本的な動作の観察，分析を通して，理学療法評価での統合と解釈について考えることができる.

【行動目標(SBO)】

解剖学・運動学の知識を用いて，基本的な動作の観察・分析内容について説明することができる.
理学療法評価における検査・測定と運動学の関係について理解し，統合と解釈について考えることができる.
動作の観察・分析内容についてグループワークに協調して取り組むことができる.

【教科書・リザーブドブック】

弓岡光徳/溝田勝彦/村田伸 監訳，エッセンシャル・キネシオロジー　原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）
中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則，大学院GPAに関する規程に従う.
小テスト３０点，確認テスト３０点，グループワークへの取り組み４０点の計100点で評価し，６０点以上に単位を付与する.
評価のルーブリックについては授業にて説明する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	30		40				100
評価指標	取り込む力・知識	15	30		8				53
	思考・推論・創造の力	15			8				23
	コラボレーションとリーダーシップ				8				8
	発表力				8				8
	学修に取り組む姿勢				8				8

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	理学療法と運動学	講義・演習	予習：初回のためなし 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 理学療法に運動学をどのように応用できるのかを考える.	30
5-8	運動学の基本と理学療法評価	講義・演習	予習：小テスト（足関節の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 運動学を応用するための知識を確認する.	30 30
9-12	理学療法評価のなかの運動学	講義・演習	予習：小テスト（膝関節の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について どのように運動学の知識を用いるのかを考え，実践する.	30 30
13-16	立ち上がり動作の観察・分析	講義・演習	予習：小テスト（体幹の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 立ち上がりの運動学について観察・分析のポイントについて考える.	30 30
17-20	歩行の観察・分析	講義・演習	予習：小テスト（肩甲骨周囲の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 歩行の運動学について観察・分析のポイントについて考える.	30 30
21-24	さまざまな動作の観察・分析（1）	講義・演習	予習：小テスト（肩関節の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 臨床やスポーツ現場のさまざまな動作の運動学について考える.	30 30
25-28	さまざまな動作の観察・分析（２）	講義・演習	予習：小テスト（肘関節・前腕の筋） 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について 前回の続き	30 30
29・30	さまざまな動作の観察・分析（３）	講義・演習	予習：さまざまな動作の観察・分析についてまとめる 復習：運動学をどのように理学療法に活かしていくのか想いを馳せる.	30 30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学演習			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-13-0015-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・1,2年次に習得した基礎医学，臨床医学，理学療法専門科目の知識および技術を統合します.
・学習課題が多いため，計画的な学習を進めてください.
＊この科目は実務経験を有する教員による授業科目です．臨床でリハビリテーションに従事してきた経験から，理学療法の臨床実践過程に関する演習を実施します.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・臨床評価実習を想定した演習が中心となります.
・小テストや作成したレポートなどの課題は随時返却します.
・試験結果に関するフィードバックを行います.

【講義概要】

(目的)

・臨床評価実習に必要な知識や理解した内容について，口述および記述を行うことができる.
・臨床を想定し，基本的な理学療法に関する検査・測定が実施できる.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2，P-2,3,4

(方法)

・提示された症例に即し，理学療法に関する検査・測定を選択して実施する.
・実施した内容を記録してまとめる.
・解剖学，生理学，運動学を含む理学療法評価学に関する筆記試験を行う.
・理学療法評価に関する実技試験（OSCE）を行う.

【一般教育目標(GIO)】

・患者を想定した基本的な理学療法検査・測定を実施できる.
・各検査・測定から得られた結果に基づき，統合と解釈を行い，症例の問題点の抽出ができる.
・統合と解釈の過程を口頭および記述で説明できる.
・臨床実践に必要な知識を整理して表出することができる.

【行動目標(SBO)】

・症例に応じ，理学療法に関する検査を選択し，実施できる.
・実施した検査等から得られた結果をもとに，統合と解釈を行うことができる.
・症例の問題点をICFに対応しながら検討し，抽出することができる.
・1，2年で学習した基本的な医学関連知識を基礎とし，臨床に即した知識や技術の積み重ねができる.

【教科書・リザーブドブック】

・基礎医学分野，臨床医学分野，理学療法専門科目等で使用しているもの全てを使用して下さい.

【参考書】

・必要に応じて提示します.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則指定のGPA制度に従います．出席点は評価に含みません.
・実技試験，筆記試験，小テスト，ポートフォリオを総合的に評価します.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	20			40	10		100
評価指標	取り込む力・知識	25	20			30			75
	思考・推論・創造の力	5							5
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢						10		10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	・理学療法評価学演習の進め方 ・理学療法評価法確認テスト	講義，小テスト	基本的理学療法評価事項に関する復習	90
5-8	・理学療法評価・確認（1） 基本的な理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
9-12	・理学療法評価・確認（2） 基本的な理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
13-16	・理学療法評価・確認（3） 中枢疾患に対する理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
17-20	・理学療法評価・確認（4） 中枢疾患に対する理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
21-24	・理学療法評価・確認（4） 整形外科疾患に対する理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
25-28	・理学療法評価・確認（5） 整形外科疾患に対する理学療法評価	グループワーク 小テスト	基本的理学療法評価事項に関する予習・復習	90
29-30	まとめ，確認	筆記試験，ディスカッション	基本的理学療法評価事項に関する知識のまとめと振り返り	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法画像評価学			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-20-0735-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～金　8:00-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は、理学療法士として患者の障害像を把握する上で基礎となる重要な科目です。
・この科目は実務経験者対応科目です。ストロークセンターで臨床経験を積んだ理学療法士が、脳画像の基本的な見方から様々な症例画像読解について、分かり易く講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・小テストは返却します。
・試験の解答は返却しませんが、結果についての解説は必要に応じて行います。
・解剖学（特に神経系）の復習をしておくこと。

【講義概要】

(目的)

①脳画像から病変を読み取り、予測される症状に対して、理学療法プログラム立案ができることを目的とする
②画像診断は、近年国家試験にも多く出題されることから、国家試験に対応できる力を養うことを目的とする

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3

(方法)

①講義の中に演習を交えながら進める
②症例を提示しながら、複数回グループワークを行った後、グループ発表を行う
③国家試験問題を紹介しながら講義を進める

【一般教育目標(GIO)】

脳卒中に対する理学療法をより早期から戦略的に実施するために、脳画像を一つのツールとして活用できるよう、基本的な見方を修得する

【行動目標(SBO)】

１．脳画像を把握する意義について説明ができる　２．各種脳画像の特徴と見方が説明できる　３．脳画像において、上行路と下行路を区別して説明することができる　４．脳卒中病変を脳画像から読み取ることができる　５．脳画像所見から臨床症状を予測することができる　６．予測される症状に対する理学療法治療プログラムを立案できる

【教科書・リザーブドブック】

粳間剛：国家試験にも臨床にも役立つ！リハビリPT・OT・ST・Drのための脳画像の新しい勉強本，三輪書店，2019.

【参考書】

中島雅美、他：PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方，国試画像問題攻略，第3版，医歯薬出版，2019.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。

筆記試験および発表、小テストにより総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	10	0	20	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	70	10						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	講義概要の説明 脳画像活用の意義 基本的な脳画像の見方（CT画像とMRIの画像の比較）	講義・グループワーク	（予習）解剖学の復習 （復習）脳の構造を図示	90 90
2 前期	脳画像から上行路（感覚神経）と下行路（錐体路）を特定する	講義・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）正常な脳の伝導路の理解	90 90
3 前期	脳血管と環流領域 MRA（磁気共鳴血管画像）の見方	講義・グループワーク 小テスト	（予習）解剖学の復習 （復習）脳血管の理解	90 90
4 前期	脳卒中病変を読み取る	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）脳卒中病変の理解	90 90
5 前期	脳画像から予測される臨床症状を予測する	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）脳画像と臨床症状について理解	90 90
6 前期	症例に対する理学療法評価及び理学療法プログラムを立案する	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は教科書等で確認する （復習）基本的な理学療法を列挙する	90 90
7 前期	症例を提示 1～5までの作業を行いまとめて発表	プレゼンテーション	グループで不明な点や調べたことを確認し、共有する	90 90
8 前期	発表	プレゼンテーション	グループで不明な点や調べたことを確認し、共有する	90 90

9 前期	提示症例のまとめ 振り返り	講義	（予習）発表した症例の疑問点を明確にし、不明な点は教科書等で確認する （復習）症例の理学療法評価、理学療法プログラムを振り返る	90 90
10 前期	嚥下に関わる脳領域と嚥下障害の病変 言語機能のネットワーク（Broca野、Wernicke野の特定）	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）嚥下や言語に関与する脳の部位と障害の理解	90 90
11 前期	空間性注意の脳内ネットワーク（下頭頂小葉の特定、他）	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）空間性注意に関わる脳の部位と障害の理解	90 90
12 前期	種々の疾患の脳画像（脳外傷、脳腫瘍、水頭症）	問題解決型学習・グループワーク 小テスト	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）種々の疾患の脳画像の理解	90 90
13 前期	国家試験画像問題攻略（1）	講義・グループワーク 小テスト	グループで国家試験問題を解き、解説を加え、グループ内で発表する	90 90
14 前期	国家試験画像問題攻略（2）	講義・グループワーク 小テスト	グループで国家試験問題を解き、解説を加え、グループ内で発表する	90 90
15 前期	講義まとめ	講義	講義全体の復習	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	物理療法学実習			【担当教員】	星野　浩通、（無効）西倉　尊
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0605-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	45	(オフィスアワー) 月曜～金曜;8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・2年次の「物理療法学」を履修済みのものを対象とする。
・主体的に取り組むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。
※この科目は実務経験者対応科目です。

【講義概要】

(目的)

物理療法学を踏まえて各種の物理療法を学生相互で体験し、その適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実技を通して確認し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図ると同時に、物理療法効果を確認する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら各種の物理療法を学生間で実施する実習と中心とした授業形態とする。
アクティブラーニングにより、実験方法の確認を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・各種の物理療法機器の取り扱いと治療適応について知る。

【行動目標(SBO)】

・自立して物理療法機器の操作と治療判断ができる。

【教科書・リザーブドブック】

・網本和:標準理学療法学　専門分野　物理療法学、医学書院、¥5280（2 年次購入）

【参考書】

・2年次配布資料

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含みません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30	40			100
評価指標	取り込む力・知識					10			10
	思考・推論・創造の力			30		10			40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				30	10			40
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション ・実習の方法の説明、グループ分け ・物理療法の復習	講義・演習(マルチメディア教室、星野)	・ビデオ学修 ・次回実習の範囲を復習しておく。 ・ノート整理	30
3～12	機器実習使い方 温熱療法、電気療法、光線療法、水治療法、寒冷療法についてそれぞれ実習計画を立てる	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30
13～20	・各種物理療法機器を用いた実験と発表 13:14：計画作成、実習 15～18：測定　記録 19～20：発表	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30
21～22	生理学的実験オリエンテーション	アクティブラーニング	文献抄読、復習	30
23～30	生理学的実験1～8	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30
31～32	生理的実験発表	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30
33～34	後期 実技練習	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30
35～44	実技練習と実技試験 35.36：ホットパック、パラフィン 37.38：超短波、短波 39.40：超音波、寒冷 41.42：電気　　43.44：レーザー、牽引	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30

45	フォードバック	実習(運動解析室・水治療法室、星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学実習			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0615-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義と実技を交え、学生間でディスカッションをしながら、実践場面を想定しながら受講すること。病院、生活期での臨床経験から動作分析、基本的な介助方法の実技を講じる。また、介助技術や各疾患に対するADL指導・介助方法の実技を講じる。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義や実技には積極的に望むこと。

【講義概要】

(目的)

日常生活活動学で学んだ多様な障害に対する評価方法、日常生活活動・動作の指導方法の原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について実技を通して学修する。また疾病や障害における日常生活上の禁忌事項や注意事項について理解することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2
※当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら実技を中心とした授業形態で行う。

【一般教育目標(GIO)】

正常な基本動作・歩行動作について理解する。また代表的な疾患の動作の特徴を理解し、基本的な日常生活指導が実施できる。日常生活活動を補助するための、福祉機器の処方と使用について理解する。

【行動目標(SBO)】

①日常生活活動と障害について説明できる。
②正常な基本動作・歩行の運動学的分析ができる。
③代表的な疾患における日常生活活動を分析し、基本的な日常生活指導が実施できる。
④各種疾患に処方される福祉機器の用途と特徴について理解し、使用することができる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。
筆記試験、レポートにより総合的に評価する。※は成績に含まれる講義である。
※1：40点
※2：40点
※3：20点

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力			30					30
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	基本的な介助方法（立ち上がり、移乗動作）	実習	基礎実習前に行った基本動的な介助方法を復習すること。	30
3.4	片麻痺：起居動作	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 片麻痺患者の動作に合わせた指導と介助を復習すること。	30
5.6	片麻痺：立ち上がり、移乗	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 片麻痺患者の動作に合わせた指導と介助を復習すること。	30
7.8	片麻痺：更衣、ADLシートの作成※1	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 片麻痺患者の動作に合わせた指導と介助を復習すること。	30
9.10	模擬症例会（片麻痺）	実習	片麻痺のADL指導ができるように復習をすること。	30
11.12	脊髄損傷：起居動作	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 脊髄損傷患者の動作に合わせた指導と介助を復習すること。	60
13.14	脊髄損傷：いざり、トランスファー	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 脊髄損傷患者の動作に合わせた指導と介助を復習すること。	30
15.16	TKA、THA：起居動作	実習	レポート課題としてTHAに関するレポートを作成すること。 THA術後の脱臼リスクを理解すること。	30

17.18	THA：ADL指導シートの作成※2	実習	レポート課題としてTHAに関するレポートを作成すること。 THA術後の脱臼リスクを理解すること。	30
19.20	模擬症例会（動作の確認・評価と指導）	実習	TKA、THA患者に対するADL指導をオリエンテーションを踏まえて実施することができるように復習する。	30
21.22	歩行補助具と車いすの処方	実習	歩行補助具の使用法を予習すること。 メジャーの使い方を確認しておくこと。	90
23.24	関節リウマチ患者に対するADL指導 基本動作やADLに必要な関節可動域	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 基本動作やADLに必要な関節可動域を理解すること。	30
25.26	下肢切断患者のADL指導	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 模擬義足の歩行を観察して膝折れ予防のためのADL指導を復習すること。	30
27.28	神経筋疾患・難病患者に対するADL指導 起居動作に対する全介助の方法	実習	2年次の日常生活活動学の資料を参考に予習をしておくこと。 重症度に合わせた介助方法（2人介助やスライディングシート）を理解すること。	30
29.30	各疾患に対するADL指導※3	講義	各疾患に対するADL指導ができるように復習をする。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患理学療法学Ⅱ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-14-0050-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水：13:30-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

教科書は毎回必ず持参すること．単位認定試験では配布資料および教科書からの出題とする．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

臨床で非常に多くの経験機会がある運動器疾患について，疾患の特徴や評価・治療法について学びます．
講義ではディスカッションが大半を占めます．ディスカッションするために必要な知識を講義スケジュールの内容に沿って事前学修しておくことを強く推奨します．楽しいディスカッションをして考える力を身につけていきましょう．
なお，本科目は実務経験10年以上（専門：運動器疾患）の理学療法士資格を有する教員が担当します．

【講義概要】

(目的)

各種の運動器疾患に関する①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを学び，臨床応用できるように学修します．
当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3

(方法)

教科書，スライドを使用して，①講義②ディスカッションを行います．
また，事例検討も行い，より臨床実践を想定した時間も設けます．
なお，毎講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い，講義内容理解の確認を行います．
※講義資料は全てTeamsの当該科目内に収納し，対面講義を受講できない際はそちらから確認テストを回答することで講義内容を理解し，出席したと認める事もある．その際は当該講義の少なくとも3日前には科目担当に事前連絡する事．

【一般教育目標(GIO)】

各種の運動器疾患に対して，①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを立案できる．

【行動目標(SBO)】

各種の運動器疾患に対して，①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

小柳麿毅，中江徳彦，井上悟：運動器の運動療法　第一版．羊土社．（5,000円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価は基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．
なお，出席状況は成績に反映はされないが，単位認定試験の受験資格を得るためには全講義の2/3を出席しなければならない．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20		10				100
評価指標	取り込む力・知識	35	10						45
	思考・推論・創造の力	35	10						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	股関節の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・試験	p218-253 股関節	90分
3,4	股関節の病態と評価，治療(２) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	p218-253 股関節	90分
5,6	股関節の病態と評価，治療(３) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	p218-253 股関節	90分
7,8	肩関節の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	P76-103 肩関節	90分
9,10	肩関節の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・試験	P76-103 肩関節	90分
11,12	症例発表（4ゼミ）	・発表	症例Aに対する発表を全8ゼミ中4ゼミが発表する．発表時間7分質疑3分を時間厳守とする．	90分
13,14	症例発表（4ゼミ）	・発表	症例Bに対する発表を全8ゼミ中4ゼミが発表する．発表時間7分質疑3分を時間厳守とする．	90分
15	後期試験	・講義 ・試験		45分

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患理学療法学実習			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0625-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 水：13:30-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

教科書は必ず持参すること．また，本科目は運動器疾患理学療法学で実施した内容を実技を中心に学ぶものです．
なお，本科目は実務経験10年以上（経験領域：運動器疾患，中枢神経疾患，急性期，回復期，生活期等）の理学療法士資格を有する教員が複数担当する．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義終わりには必ず次講義の内容を説明します．
内容を確認した上で，各自予習していくことを強く推奨します．
また，実技試験があることから，各自で実技練習を積極的に取り入れること．

【講義概要】

(目的)

臨床で非常に多くの運動器疾患に遭遇します．その際に，疾患に即した評価法や治療計画がたてられないと，効果的な理学療法は提供できません．本科目では，運動器疾患理学療法学で学んだ内容を，実技を通して修得し，自ら選択実践できるようになること．さらに，その結果の解釈をできるようになることを目的とします．
当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3.

(方法)

運動器疾患で使用した資料，および本科目で配布される資料を参考にしながら，実技中心の学修をしていきます．
また，講義の終盤には毎講義，確認テストを行います．
実技時は必ずケーシーを着用し，実習を想定した身だしなみで行います．
なお，場合によってはwebによるオンデマンド配信となることも想定され，その場合には適時科目Teamsから連絡する．

【一般教育目標(GIO)】

各種の運動器疾患の病態に基づく理学療法評価を実践し，その結果の解釈ができる．
また，解釈した結果から，より効果的な治療プランを立てることができる．

【行動目標(SBO)】

・各種の運動器疾患の病態に基づく理学療法評価について項目をあげられる．
・あげられた項目の評価を正確に実施できる．
・実施した評価結果を正しく解釈することができる．
・解釈の結果から，理学療法プランを立案できる．

【教科書・リザーブドブック】

運動器疾患理学療法学と同じ．

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．
試験は実技試験のみですが，毎講義の確認テストが「小テスト」として20点分あります．
実技試験はその名の通り，正しく，効率よく臨床を想定した技術（対象者への配慮含む）を有しているかの評価をしますので，多くの練習する時間を確保していってください．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20			80			100
評価指標	取り込む力・知識		10			20			30
	思考・推論・創造の力		10			30			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					30			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・運動器疾患の一般的共通評価	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
3,4	・腰痛疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
5,6	・腰痛疾患の評価，治療(2)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
7,8	・腰痛疾患の評価，治療(3)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
9,10	・膝関節疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
11,12	・膝関節疾患の評価，治療(2)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
13,14	・足関節疾患の評価，治療．　実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
15,16	ここまでの復習．実技試験想定課題	・形式：実技	これまでの復習です．配布された資料および教科書を見ながら，実技試験に備えての実技練習を行います. 前期はここまで.	90分

17,18	・股関節疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
19,20	・股関節疾患の評価，治療(2)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
21,22	・股関節疾患の評価，治療(3)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
23,24	・肩関節疾患の評価．治療(1)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
25,26	・肩関節疾患の評価．治療(２)実技	・形式：実技	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	90分
27,28	実技試験想定課題	・形式：実技	これまでの学修内容に関する最終調整	90分
29,30	実技試験想定課題	・形式：実技	これまでの学修内容に関する最終調整	90分
	実技試験	・形式：実技試験	試験順番や試験内容，方法等は後日，科目Teamsから連絡します.	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学実習			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0635-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー)月～金　8:30-18：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う時は、実技の行いやすい服装で授業に臨むこと。
・この科目は実務経験者対応科目です。特に中枢神経疾患の理学療法に従事した経験を下に、脳卒中に対する評価から治療までを、講義の他実技を行いながら説明する。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・配布資料、教科書および参考書等での復習をしておくこと
・試験は実技試験を行い、結果については必要に応じて解説を加え実技指導も行います。
・レポートについては返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象疾患として最も多い中枢神経疾患の理学療法を実施できるようにするために、基礎的な知識と一般的な運動療法について学ぶ。そして評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3.4

(方法)

・教科書と配布資料を使用して講義を行う。講義形式としては、講義と実習または演習を繰り返しながら進める。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経疾患者の障害像を理解し、適切な評価を選択および障害に即した基本的な手技が実践できることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

１脳血管障害の病態・合併症・リスクなどを医学的観点から説明できる　２脳画像から基本的な脳の構造・機能について説明できる　３脳卒中片麻痺者の症状や動作の特徴を説明、模倣できる　４脳卒中片麻痺症例について評価から問題点を挙げ、基本的な手技について実施できる　５高次脳機能障害に対する評価の選択と治療が実施できる　６片麻痺者の肩の痛みに対する評価の選択と治療が実施できる　７片麻痺者の補装具の使用とその目的が説明できる　８頭部外傷の分類と臨床症状について説明できる

【教科書・リザーブドブック】

森岡周,他：標準理学療法学　専門分野　神経理学療法学,医学書院,2022

【参考書】

①潮見泰蔵：ビジュアルレクチャー，神経理学療法学，医歯薬出版，2017
②冨田昌夫監訳：ステップス・トゥ・フォロー，改訂第2版，シュプリンガー・ジャパン，2012
③原寛美：脳卒中理学療法の理論と技術第3版，メジカルビュー社，2019

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
実技試験およびレポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10		90			100
評価指標	取り込む力・知識					30			30
	思考・推論・創造の力			10		30			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					30			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2 前期	オリエンテーション 脳卒中の障害総論	講義	（予習）教科書(pp63-79)を読み、中枢神経の病態について予習しておくこと （復習）配布資料で講義内容を復習しておくこと	90 90
3.4 前期	運動麻痺に対する評価と治療（介入方法）	講義・実技	（予習）教科書(pp98-111)を読み、運動麻痺について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
5.6 前期	感覚障害に対する評価と治療（介入方法）	講義・実技	（予習）教科書(pp112-125)を読み、感覚障害について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
7.8 前期	異常筋緊張に対する評価と治療（介入方法）	講義・実技	（予習）教科書(pp126-135)を読み、異常筋緊張について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
9.10 前期	運動失調に対する評価と治療（介入方法）	講義・実技	（予習）教科書(pp137-152)を読み、運動失調について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
11.12 前期	半側空間無視に対する評価と治療（介入方法）	講義・実技	（予習）教科書(pp162-173)を読み、半側空間無視について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
13.14 前期	姿勢定位障害に対する評価と治療（介入方法） ① Pusher現象 ② lateropulsion	講義・実技	（予習）教科書(pp174-184)を読み、姿勢定位障害について予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90
15 前期	前期まとめ	講義・実技	（予習）後期で学ぶ内容について、教科書で予習しておくこと （復習）配布資料や実技で実施した講義内容を復習しておくこと	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	神経・筋疾患理学療法学			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0640-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～水、12:40-13:30 16:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1.すでに履修がすんでいる科目については、理解している前提で授業を進めるので復習しておく。
2.事前に指示された資料を予習しておく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1.教科書、配布資料、動画を使用した講義を行う。
2.授業開始時に前回授業のミニテストを行う。
3.この科目は実務経験者対応科目である。

【講義概要】

(目的)

1.神経・筋疾患および「神経性難病」は各疾患により異なる病因、特徴を有している。各疾患の病因、理学療法の評価、プログラムについて疾患特異的な内容、一般的な内容について学習を進め、各疾患の特徴を理解する。
2.当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3、P-2、P-3

(方法)

1.教科書や配布資料、DVD を使用し、神経・筋疾患の理解を深め、理学療法評価・プログラムについて講義を行う。
2.各疾患ごとの講義の後半に学生によるICF、評価、プログラムを発表する。

【一般教育目標(GIO)】

1.臨床実習、臨床現場において神経・筋疾患および神経性難病を担当した場合に、問題解決を導ける疾患の病因、理学療法評価、理学療法プログラムについての知識を理解している。また、進行性疾患の理学療法の考え方について理解している。

【行動目標(SBO)】

1.神経・筋疾患の病態像について説明できる。
2.神経・筋疾患に対する理学療法評価について説明できる。
3.神経・筋疾患に対する理学療法プログラムについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

1.中山恭秀：『神経障害理学療法学Ⅱ』Medical View,2019,¥4,000（税別）
2.適時、資料を配布する。

【参考書】

1. 細田多穂　他編集　『神経筋障害理学療法学テキスト』南山堂, 2018年. ￥5,400（税込み）
2. 島田裕之　他編集　『高齢者理学療法学』医歯薬出版, 2017年. ￥9,720（税込み）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。
2. 成績評価は、期末試験・小テストなどにより総合的に評価する。出欠は成績評価に含まない。小テストおよび定期試験は、試験終了後に回答を説明しながらフィードバックする。
3. 定期試験を実施して60点未満は再試験を行う。本試験合格者は小テスト、ノート点検などを考慮して最終成績とする。再試験者は最大60％とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	15	0	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20	5						25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	中枢神経の基礎知識（復習） 末梢神経、筋組織の基礎知識（復習）	講義	（予習）教科書 pp2-18 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	
3,4	神経筋疾患とは何か 難病，神経難病とは何か 進行性疾患のリハビリテーションの考え方	講義 小テスト	（予習）これまでの授業内容から本授業の疾患を調べておく （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
5,6	パーキンソン病の理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp22-40、pp168-73 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
7,8	パーキンソン病の理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp22-40、pp168-73 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
9,10	脊髄小脳変性症の理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp42-61、pp174-7 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
11,12	脊髄小脳変性症の理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp42-61、pp174-7 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
13,14	多発性硬化症の理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp102-115、pp183-7 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
15,16	多発性硬化症の理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp102-115、pp183-7 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分

17,18	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp84-100、pp180-2 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
19,20	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp84-100、pp180-2 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
21,22	ギランバレー症候群の理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp116-130,188-9 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
23,24	ギランバレー症候群の理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp116-130,188-9 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
25,26	筋ジストロフィーの理学療法 1	講義	（予習）教科書 pp62-81、pp178-9 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
27,28	筋ジストロフィーの理学療法 2	講義 小テスト	（予習）教科書 pp62-81、pp178-9 （復習）授業資料を1回読む 疑問点はFormsに返信	60分
29,30	学生からの疑問点について、討論をすすめ、授業のまとめとする。	講義	（予習）過去の講義での疑問点を Formsに投稿する。 （復習）授業資料を1回読む	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	循環器疾患理学療法学			【担当教員】	宗村　和幸
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-14-0085-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	munemura_k@ngt.saiseikai.or.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、内部生涯（循環器）理学療法を学ぶ上での基礎となる科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

循環器の解剖・生理を復習しておくこと

【講義概要】

(目的)

心臓リハビリテーションを実施するにあたり虚血性心疾患の原因、運動療法、運動強度の決め方、リスク分類について講義する。
高齢者の運動、心電図、臨床での心臓リハビリについて講義する。
当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2

(方法)

資料を配布する。

【一般教育目標(GIO)】

心臓リハビリテーションが行えるために、虚血性疾患の病態、運動強度の決め方、運動療法、リスクについて理解する。高齢者に運動させるため、考慮すべき点について知識を得る。

【行動目標(SBO)】

虚血性心疾患の理学療法の原理が理解できる。心臓リハビリテーションに対する運動処方が理解できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

吉尾雅春・高橋哲也（編）「内部障害理学療法学」医学書院、2013、￥5,250

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA 制度に従う。
期末試験、レポートにより総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	0	0	20	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	80	0	0	10	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	10	0	0	0	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	心臓リハビリテーションの目的及び理解 循環器疾患総論	講義	循環器疾患について調べておく。	90分
3.4	循環器疾患総論② エネルギー消費量について 心臓の機能について	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
5.6	心臓リハビリテーションに必要な病態の評価・理解①	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
7.8	心臓リハビリテーションに必要な病態の評価・理解②	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
9.10	心電図から不整脈を読みとる	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
11.12	運動機能評価、プログラムの作成①	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
13.14	運動機能評価、プログラムの作成②	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
15	患者教育、指導について	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	代謝系疾患理学療法学			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0660-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9：00-17：00（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

グループディスカッションを行う際には、積極的に議論すること。糖尿病療養指導を行ってきた経験から、糖尿病の病態だけでなく、患者様とのかかわり方、理学療法の展開について講じる。
そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

一年次で履修した、解剖・生理学を復習しておくこと。
解剖学は膵臓、肝臓、腎臓について、生理学は代謝の範囲を復習する。

【講義概要】

(目的)

糖尿病の病態、合併症、理学療法について理解できる。そして、運動の人体に及ぼす影響、運動の適応と効果、チェックを理解して、理学療法に展開することができることを目的とする。
※当該科目学位授与方針等との関連性；P-1,P-2

(方法)

糖・脂肪・骨代謝について理解を行う。
糖尿病やメタボリックシンドロームについて学習を行う。
糖尿病に対する検査・評価方法を理解し、糖尿病患者に対する指導について教授する。

【一般教育目標(GIO)】

我が国において、代謝系疾患である糖尿病患者数は約1,000万人いると推測されている。糖尿病の病期が進行（合併症）することによって他疾患を生じるリスクが高くなり、医療費の増加や身体機能が低下するとされている。しかし、正しい治療を行えば糖尿病の合併症の80%は予防することができる。そこで、医療職とし必要な知識を高めることを目的とする。

【行動目標(SBO)】

1.糖尿病にならない　2.合併症を生じない　3.寝たきりにならない
予防の観念は糖尿病理学療法の基本である。
病気を治す時代から、病気にならない（病期が進行しない）で健康で過ごせる時代に変化している。
予防という観念を持ちながら疾患の理解を深めることができる。

【教科書・リザーブドブック】

講義時に資料を配布する。

【参考書】

日本糖尿病療養指導士認定機構　編集・『糖尿病療養指導ガイドブック　(2016) 糖尿病療養指導士の学習目標と課題』メディカルレビュー社, 2016年. ¥3,024
清野裕　門脇孝　他監修・『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社, 2015年. ¥5,616

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
成績はレポートで評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			40					40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	肝臓、腎臓、膵臓について	講義	生理学で学んだ内容を復習しておくこと。	30
3.4	代謝異常	講義	生活習慣病について理解すること。	30
5.6	肝臓・腎臓理学療法	講義	内部障害に関する運動療法を検討できるように復習すること。	30
7.8	糖尿病の疫学・検査	講義	一般的な医学検査を理解できること。	30
9.10	糖尿病の合併症と運動療法	講義	レポート課題にまとめること。	30
11.12	糖尿病教育（食事・薬）	講義	血糖値への影響を復習すること。	30
13.14	糖尿病理学療法の評価・行動変容	講義	糖尿病に対する理学療法の展開を復習すること。	30
15	まとめ	講義	配布された資料を復習すること。 レポート提出（100点分）	90

リハビリテーション学科

【科目名】	呼吸理学療法学Ⅰ			【担当教員】	木村　和樹、石山 正己
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	2-14-0406-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9：00-17：00（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技では触診しやすい服装で行う。受講する前に1年次に履修した解剖学と生理学を復習しておくこと。
内科病棟、在宅でのリハビリテーションの経験から、呼吸に関する臨床的な知識、実技を講じる。
そのため、本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講する前に1年次に履修した解剖学と生理学を復習しておくこと。

【講義概要】

(目的)

呼吸機能の低下によって活動・参加が制限されることがある。そのため呼吸機能・呼吸器疾患の理解を深める事で、リハビリテーションの現場におけるリスク管理を考えられるようになることを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1，P-2

(方法)

呼吸器の解剖と生理について復習を行い、呼吸器疾患について理解を深める。
呼吸に対する一般的な検査・評価の学習を行い、吸引の実技を行う。

【一般教育目標(GIO)】

呼吸リハビリテーションの基礎知識を深めることで、各疾患、評価、訓練について理解することができる。
正常と異常な呼吸の違いを理解できる。

【行動目標(SBO)】

解剖・生理学と呼吸について結びつきを持たせて、各呼吸器疾患や呼吸評価の意義について考える事ができる。

【教科書・リザーブドブック】

講義資料を配布する。

【参考書】

高橋仁美　宮川哲夫　他編・『動画でわかる呼吸リハビリテーション第4版』中山書店，2016年．¥3,672
高橋 哲也　編集・『ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版』医歯薬出版，2017年．¥5,184
石川朗　編集・『15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　内部障害理学療法学　呼吸』中山書店，2017年．¥2,808

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。
成績はレポートで評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		20	20					40
	思考・推論・創造の力		20	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10	20					30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	呼吸リハビリテーションとは 呼吸器の解剖と生理について	講義	呼吸リハビリテーションの目的を理解する。 一年生次における解剖・生理の復習をすること。	30
3.4	呼吸器疾患・人工呼吸器	講義	各呼吸器疾患の予習すること。	30
5.6	呼吸の検査項目、運動負荷試験	講義	呼吸器で用いる医学検査・コメディカルによる検査項目、運動負荷試験を復習すること。	30
7.8	中間の小テスト 小テストの解説	講義	呼吸器および呼吸器疾患の基礎知識を復習しておくこと。	90
9.10	酸素療法と吸引	講義（看護教員）	治療について理解すること。 実習に向けて内容をまとめる。	30
11.12	酸素療法と吸引の実践	実習（看護教員）	座学で行ったに吸引の手技を復習しておくこと。	30
13.14	酸素療法と吸引の実践	実習（看護教員）	座学で行ったに吸引の手技を復習しておくこと。 ※レポート課題あり。	30
15	総復習	講義	レポート課題の確認をする。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	呼吸理学療法学Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	2-14-0406-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9：00-17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技では触診しやすい服装で行う。受講する前に1年次に履修した解剖学と生理学を復習しておくこと。
内科病棟、在宅でのリハビリテーションの経験から、呼吸に関する臨床的な知識、実技を講じる。
そのため、本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

呼吸理学療法学Ⅰの内容を踏まえて呼吸介助・排痰法の演習を実践する。
そのため、呼吸理学療法学Ⅰの内容を十分に復習をしておくこと。

【講義概要】

(目的)

呼吸機能の低下によって活動・参加が制限されることがある。そのため呼吸機能・呼吸器疾患の理解を深める事で、リハビリテーションの現場におけるリスク管理を考えられるようになることを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1，P-2

(方法)

呼吸器の解剖と生理について復習を行い、呼吸器疾患について理解を深める。
呼吸に対する一般的な検査・評価の学習を行い、呼吸訓練と排たん法の実技を行う。

【一般教育目標(GIO)】

呼吸リハビリテーションの基礎知識を深めることで、各疾患、評価、訓練について理解することができる。
正常と異常な呼吸の違いを理解できる。

【行動目標(SBO)】

解剖・生理学と呼吸について結びつきを持たせて、各呼吸器疾患や呼吸評価の意義について考える事ができる。

【教科書・リザーブドブック】

講義資料を配布する。

【参考書】

高橋仁美　宮川哲夫　他編・『動画でわかる呼吸リハビリテーション第4版』中山書店，2016年．¥3,672
高橋 哲也　編集・『ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版』医歯薬出版，2017年．¥5,184
石川朗　編集・『15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　内部障害理学療法学　呼吸』中山書店，2017年．¥2,808

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。
成績はレポートで評価を行う。レポートのフィードバックは個別に返却する。
小テストは5、6回目、レポート課題は13、14回目を予定。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		20	20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	ADL評価、治療プログラム	講義	疾患特有のプログラムを理解するできるように復習を行う。	30
3.4	呼吸理学療法の基礎知識の復習	講義	呼吸理学療法に関わる基礎知識の復習を行うこと。	30
5.6	呼吸理学療法の基礎知識の確認	講義	呼吸理学療法に関わる基礎知識の確認を行うこと。 ※小テストと解説	30
7.8	呼吸介助と排痰法（座学）	講義	治療について理解すること。 実習に向けて内容をまとめる。	30
9.10	呼吸介助（実技）	実習	排痰法、呼吸介助を復習すること。	30
11.12	排痰法（実技）	実習	座学で行ったに排痰法、呼吸介助を復習しておくこと。	30
13.14	呼吸介助、排痰法のレポート作成および振り返り	講義・実習	事前にレポート課題の作成を進めておくこと。 ※レポート課題	30
15	総復習	講義	講義の内容を復習すること。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ理学療法学Ⅰ			【担当教員】	伊藤　渉
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0665-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	w.ito@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) A棟1F 伊藤研究室 13:30～16:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

スポーツ理学療法について臨床およびスポーツ現場で応用し，活かせるよう学びます.
この科目は実務経験を有する教員が担当します.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

動作の観察や検査・測定、動作練習、動作指導がおこないやすい服装で参加してください.
動作の観察や分析にはカメラ，タブレット，スマートフォンなどを使用しても構いませんので用意してください.

【講義概要】

(目的)

スポーツ外傷・障害に対して、科学的根拠に基づいた効果的な理学療法を提供するための知識と技術を修得する。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

講義および演習をおこないます。
小テスト，グループワークの取り組みを評価します.

【一般教育目標(GIO)】

スポーツ理学療法の知識や技術を臨床およびスポーツ現場での活動に応用することができる。

【行動目標(SBO)】

スポーツ理学療法の意義と役割を説明することができる。（認知的領域）
スポーツ外傷・障害に対する理学療法の評価・検査・治療のプロセスを説明することができる。（認知的領域）
スポーツ整形外科疾患に対するリハビリテーションに必要な基本動作を指導することができる。（精神運動的領域）
積極的に討論に参加することができる。（情動的領域）

【教科書・リザーブドブック】

配布資料

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト，グループワークの取り組みを評価します.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60		40				100
評価指標	取り込む力・知識		30		8				38
	思考・推論・創造の力		30		8				38
	コラボレーションとリーダーシップ				8				8
	発表力				8				8
	学修に取り組む姿勢				8				8

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション	講義・演習		
3・4	スポーツ理学療法学総論	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
5・6	スポーツ外傷・障害に対する理学療法評価	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
7・8	足関節捻挫の理学療法	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
9・10	膝前十字靭帯損傷の理学療法	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
11・12	スポーツ動作の分析と指導	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
13・14	スポーツ外傷・障害の予防	講義・演習	授業内容に関する予習と復習	30
15	スポーツ現場での緊急時対応	講義・演習		

リハビリテーション学科

【科目名】	義肢・装具学Ⅰ			【担当教員】	須田　裕紀、前田　雄
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-14-0120-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	科目のTeamsを使用	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日　10:00～15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

脳血管障害や切断といった装具および義足と関係のある疾患について、復習をして理解をしておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

義肢装具士の資格を有する講師が教授する。
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

【講義概要】

(目的)

義肢学は、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学修する。また装具学は、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。
※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-2

(方法)

義肢や装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説し、また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。

【一般教育目標(GIO)】

・切断とは何かを理解し、切断患者に残存する機能また、義手・義足についての理解を深める。
・装具として現在処方されている代表的なものの目的・機能について理解し，将来対峙する対象者の状態に合わせてその知識を還元できる。

【行動目標(SBO)】

・義肢・装具の構造を理解し、適応のチェックからリハビリテーションまで理解することができる。

【教科書・リザーブドブック】

15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「義肢学　第2版」、中山書店
15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「装具学　第2版」、中山書店

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
定期試験などを実施する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	OTと同時開講 オリエンテーション，義肢装具学概論　(切断疾患、切断レベル、義手と義足の種類と機能，装具の種類)	講義 須田　裕紀	義肢装具の概論を理解する	60分
2	OTと同時開講 オリエンテーション，義肢装具学概論　(切断疾患、切断レベル、義手と義足の種類と機能，装具の種類)	講義 須田　裕紀	義肢装具の概論を理解する	60分
3	OTと同時開講 義肢概論（義足，義手ソケットの種類、部品、アライメント、義足歩行，義手操作など）	講義 須田　裕紀	義肢に関する，各種パーツの種類，設定を理解する	60分
4	OTと同時開講 義肢概論（義足，義手ソケットの種類、部品、アライメント、義足歩行，義手操作など）	講義 須田　裕紀	義肢に関する，各種パーツの種類，設定を理解する	60分
5	下腿切断者の身体評価方法，訓練方法（ROM、MMT、触察，日常生活、装着前訓練など）	講義 前田　雄	下腿義足の概論を理解する．下腿切断者の訓練や日常生活を理解する	60分
6	下腿義足の歩行とアライメント評価	講義 前田　雄	下腿義足の歩行を理解する．下腿義足のアライメントを理解する．アライメントの評価ができるようになる	60分
7	大腿義足概論,大腿義足ソケット	講義 前田　雄	大腿義足の概論を理解する	60分
8	大腿義足の膝継手，アライメント，歩行	講義 前田　雄	大腿義足のパーツやアライメントを理解する	60分

9	下腿義足の適合評価方法①　（断端評価，ソケット評価）	講義 前田　雄	下腿義足の適合と調整を理解する	60分
10	下腿義足の適合評価方法①　（断端評価，ソケット評価）	講義 前田　雄	下腿義足の適合評価ができるようになる	60分
11	下腿義足の適合評価方法②　（アライメンと評価，歩行評価，装着訓練など）	講義 須田　裕紀	下腿義足の適合調整と評価を理解する	60分
12	下腿義足の適合評価方法②　（アライメンと評価，歩行評価，装着訓練など）	講義 須田　裕紀	下腿義足のアライメント調整を理解する	60分
13	下肢装具概論，継手の機能	講義 須田　裕紀	下肢装具の概論を理解する.	60分
14	歩行と下肢装具の機能	講義 須田　裕紀	下肢装具の歩行について理解する	60分
15	脳血管障害の評価と下肢装具　（Brs-t，MAS，アライメント評価，歩行評価など）	講義 須田　裕紀	障害に対する下肢装具の適応や評価を理解する	60分
補講	脳血管障害の評価と下肢装具　（Brs-t，MAS，アライメント評価，歩行評価など）	講義 須田　裕紀	障害に対する下肢装具の適応や評価を理解する	

リハビリテーション学科

【科目名】	義肢・装具学Ⅱ			【担当教員】 須田　裕紀、前田　雄、木村　和樹、長島　裕子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0685-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)月曜日　10:00～15:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

脳血管障害や切断といった装具および義足と関係のある疾患について、復習をして理解をしておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

義肢装具士あるいは理学療法士の資格を有する講師が教授する。
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

【講義概要】

(目的)

義肢学は、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学修する。また装具学は、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。
※当該科目学位授与方針等との関連性；A-2,P-2

(方法)

義肢や装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説し、また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。

【一般教育目標(GIO)】

・切断とは何かを理解し、切断患者に残存する機能また、義手・義足についての理解を深める。
・装具として現在処方されている代表的なものの目的・機能について理解し，将来対峙する対象者の状態に合わせてその知識を還元できる。

【行動目標(SBO)】

・義肢・装具の構造を理解し、適応のチェックからリハビリテーションまで理解することができる。

【教科書・リザーブドブック】

15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「義肢学　第2版」、中山書店
15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「装具学　第2版」、中山書店

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
定期試験（須田、前田80点分）などを実施する。
その他：木村10点、長島10点分の課題

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	脳血管障害者のアセスメント	講義 前田　雄	脳血管障害に対する下肢装具の適応を理解する	60分
2	脳血管障害者の身体機能と下肢装具の適応	講義 前田　雄	脳血管障害に対する下肢装具の適合評価ができるようになる	60分
3	脳血管障害者の下肢装具の適合と調整	講義 須田　裕紀	脳血管障害に対する下肢装具の適合評価ができるようになる	60分
4	脳血管障害者の下肢装具を用いた歩行評価	講義 須田　裕紀	脳血管障害に対する下肢装具の適合評価と調整ができるようになる	60分
5	まとめ	講義 須田　裕紀	講義内容を理解する	60分
6	義足のアライメント①	講義 前田　雄	アライメントについて理解する	60分
7	義足のアライメント②	講義 前田　雄	アライメントについて理解する	60分
8	義足の異常歩行	講義 前田　雄	異常歩行を理解する	60分

9	義足の異常歩行	講義 前田　雄	異常歩行を理解する	60分
10	頸椎、体幹装具①	講義 長島　裕子	体幹装具の概要について理解する	60分
11	頸椎、体幹装具②	講義 長島　裕子	体幹装具の概要について理解する	60分
12	足部の機能　講義①	講義・実技 木村　和樹	足部の機能と足病変を理解する	60分
13	足部の機能　講義②	講義・実技 木村　和樹	足部の機能と足病変を理解する	60分
14	足部の機能　実技①	講義・実技 木村　和樹	足部の機能と足病変を理解する	60分
15	足部の機能　実技②	講義・実技 木村　和樹	足部の機能と足病変を理解する	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	地域リハビリテーション論Ⅱ			【担当教員】	若菜　翔哉
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】	3-18-0695-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	wakana@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・本科目は，実務経験5年以上のある教員による授業科目です．地域リハビリテーションに従事した経験から，地域におけるリハビリテーション・理学療法士に求められる役割等について講じます．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・症例検討および検討内容の発表を通して，自身の考えを述べ，他者の意見から学びを深めるように努めること．
・試験結果について，解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません．
・試験後，希望がある場合には試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います．
・グループワーク（症例検討，発表）を実施する際には，感染対策を徹底すること．必要に応じてフェイスシールド着用を指示する場合もある．

【講義概要】

(目的)

障がいをもつ人・高齢者が地域社会で生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることを支援するために保健・医療・福祉の動向を踏まえて，多面的に学習することを目的とする．

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3,P-1,P-2,P-3

(方法)

・講義は，主として教科書と配布資料を使用して行います。また症例検討として，複数回のグループ討論をした後、グループ発表および意見交換を実施します。

【一般教育目標(GIO)】

・地域および介護予防分野のリハビリテーションを理解することができる．
・介護保険制度について理解し，介護保険制度内のおける理学療法士の役割および求まられる知識や技術を理解することができる．

【行動目標(SBO)】

・地域や介護予防分野のリハビリテーションおよび介護保険制度について理解を深め，対象者の機能や生活環境等を評価し，適切な支援を自ら考えることができる．

【教科書・リザーブドブック】

浅川康吉：Crosslink 理学療法学テキスト　地域理学療法学，メジカルビュー社，2019年，￥4,500（税別）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則規程のGPA制度に従う．
・出席点は評価に含みません．
・成績評価は，本試験（筆記試験）、レポート、グループワークにより総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	0	10	10	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力				5				5
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢				5				5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～4	【介護保険制度】 ・制度の仕組み ・要介護認定 ・利用できるサービス	・講義	講義および予習範囲P84～88, 137～159. 上記範囲を最低１回は読んでおくこと．介護保険制度の仕組みと利用できるサービスについて学習しておくこと.	60
5、6	【ケアプラン】 ・ケアプランの種類 ・ケアプランに記載する項目と内容 ・ケアプランの作成（演習）	・講義 ・演習	講義および予習範囲P234～245 上記範囲を最低１回は読んでおくこと．ケアプランの種類や記載する内容について学習しておくこと.	60
7、8	【高齢化と村上市の現状】 ・高齢化社会 ・村上市の現状	・講義 ・演習 ・レポート課題の提示	少子高齢化問題と村上市にある地域課題を理解し、自分なりの意見を考えておくこと。	60
9～13	【症例検討】 ・オリエンテーション ・グループワーク	・演習	講義および予習範囲：1～6コマの範囲. 上記範囲の教科書や配布資料を最低１回は読んでおくこと．1～6コマの内容について再度学習しておくこと.	60
14、15	【症例検討】 ・フィードバック ・検討内容の発表および意見交換 【授業評価アンケート】	・演習 ・講義	各自、グループ検討した内容を簡潔，明瞭に他者へ説明できるようにしてくこと.	60

リハビリテーション学科

【科目名】	評価実習Ⅰ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-16-0005-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	5	【コマ数】	112	(オフィスアワー) 毎週水曜日12：45～13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修条件は、本学の臨床実習規程第3条（2）に準ずる。
なお、本科目は学内実習に関しては十分な臨床経験（実務経験10年以上）を有する学内教員が担当し，学外実習ではそれぞれの実習施設における十分な臨床経験を有した理学療法士が指導にあたります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・臨床実習要綱を熟読し，評価実習の目的，到達目標を確認すること。

【講義概要】

(目的)

・この科目は，臨床実習指導者の指導の下，症例に則した評価方法に関する見学，理学療法に関する検査・測定の選択と実施，および評価結果を統合・解釈し，問題点を考え，症例の障害像を把握するために必要な臨床推論を学ぶことを目的とします。
＊当該科目と学位授与方針との関連性：P-1,2,3

(方法)

学内実習は，学外実習期間の前後に実施します．学外実習は，学生が医療機関等に赴き，臨床実習指導者の指導の下，3週間実施します。学内実習では筆記試験および実技試験を行います。さらに学外実習後には学内指導教員の指導の下，実習課題やその内容に関する発表を行います。なお，学内実習期間では日々の活動内容を記録し，学習活動を振り返るレポートを作成します。

【一般教育目標(GIO)】

１．臨床実習を経験し，卒業後の理学療法士としての自己の役割を認識することができる。
２．理学療法評価の目的を理解し，症例に則した評価の選択・実施ができる。
３．症例に則した問題点を考え，その障害像を把握することができる。

【行動目標(SBO)】

１．臨床実習指導者の指導の下，適切に見学を行うことができる。
２．臨床実習指導者から指導を受け，理学療法対象者に対し，適切な理学療法評価を行うことができる。
３．様々な臨床症例をふまえ，理学療法対象者の問題点を考えて障害像を捉えることができる。
４．臨床で得られた情報を記録として適切にまとめることができる。

【教科書・リザーブドブック】

・臨床実習要綱（後日配布）

【参考書】

・基礎医学，臨床医学を含む全ての科目で使用した教科書，参考書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います.
１．学内実習期間に，知識および理学療法技術に関する客観的臨床評価試験（OSCE）を実施します。
２．成績評定は学外実習および学内実習の状況を総合的に判断します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		20	20	30			100
評価指標	取り込む力・知識	30		10		10			50
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10	10			20
	学修に取り組む姿勢				10	10			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-10	1．ガイダンス ・臨床評価実習に関して ・理学療法評価に関して 2．学内実習，OSCE（筆記，実技）	講義，演習	理学療法評価に関する知識，技術の整理，まとめ，デイリーノート作成	90
11-35	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，情報収集，理学療法評価の実施と修正	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
36-60	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，情報収集，理学療法評価の実施と修正	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
61-85	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，理学療法評価の実施と修正，まとめ，振り返り	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
86-90	1．実習課題やその内容に関する報告会 2．OSCE（筆記，実技） 3．まとめ	発表，演習	報告書，発表資料の作成，理学療法に関する知識，技術の整理	90

リハビリテーション学科

【科目名】	評価実習Ⅱ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-16-0010-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	5	【コマ数】	112	(オフィスアワー) 毎週水曜日12：45～13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修条件は、本学の臨床実習規程第3条（2）に準ずる。
なお、本科目は学内実習に関しては十分な臨床経験（実務経験10年以上）を有する学内教員が担当し，学外実習ではそれぞれの実習施設における十分な臨床経験を有した理学療法士が指導にあたります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・臨床実習要綱を熟読し，評価実習の目的，到達目標を確認すること。

【講義概要】

(目的)

・この科目は，臨床実習指導者の指導の下，症例に則した評価方法に関する見学，理学療法に関する検査・測定の選択と実施，および評価結果を統合・解釈し，問題点を考え，症例の障害像を把握するために必要な臨床推論を学ぶことを目的とします。
＊当該科目と学位授与方針との関連性：P-1,2,3

(方法)

学内実習は，学外実習期間の前後に実施します．学外実習は，学生が医療機関等に赴き，臨床実習指導者の指導の下，3週間実施します。学内実習では筆記試験および実技試験を行います。さらに学外実習後には学内指導教員の指導の下，実習課題やその内容に関する発表を行います。なお，学内実習期間では日々の活動内容を記録し，学習活動を振り返るレポートを作成します。

【一般教育目標(GIO)】

１．臨床実習を経験し，卒業後の理学療法士としての自己の役割を認識することができる。
２．理学療法評価の目的を理解し，症例に則した評価の選択・実施ができる。
３．症例に則した問題点を考え，その障害像を把握することができる。

【行動目標(SBO)】

１．臨床実習指導者の指導の下，適切に見学を行うことができる。
２．臨床実習指導者から指導を受け，理学療法対象者に対し，適切な理学療法評価を行うことができる。
３．様々な臨床症例をふまえ，理学療法対象者の問題点を考えて障害像を捉えることができる。
４．臨床で得られた情報を記録として適切にまとめることができる。

【教科書・リザーブドブック】

・臨床実習要綱（後日配布）

【参考書】

・基礎医学，臨床医学を含む全ての科目で使用した教科書，参考書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います.
１．学内実習期間に，知識および理学療法技術に関する客観的臨床評価試験（OSCE）を実施します。
２．成績評定は学外実習および学内実習の状況を総合的に判断します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		20	20	30			100
評価指標	取り込む力・知識	30		10		10			50
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10	10			20
	学修に取り組む姿勢				10	10			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-10	1．ガイダンス ・臨床評価実習に関して ・理学療法評価に関して 2．学内実習，OSCE（筆記，実技）	講義，演習	理学療法評価に関する知識，技術の整理，まとめ，デイリーノート作成	90
11-35	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，情報収集，理学療法評価の実施と修正	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
36-60	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，情報収集，理学療法評価の実施と修正	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
61-85	学外実習（医療施設等） 理学療法見学，理学療法評価の実施と修正，まとめ，振り返り	各臨床実習施設	自己学習 デイリーノート作成 ケースノート作成 課題実施	90
86-90	1．実習課題やその内容に関する報告会 2．OSCE（筆記，実技） 3．まとめ	発表，演習	報告書，発表資料の作成，理学療法に関する知識，技術の整理	90

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法卒業研究Ⅰ			【担当教員】 小林　量作、長島　裕子、若菜　翔哉、高橋　明美、星野　浩通、木村　和樹、伊藤　渉、北村　拓也、金子　巧
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0760-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～水 16:30-18:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1.「理学療法研究法Ⅰ」「理学療法研究法Ⅱ」「理学療法研究法Ⅲ」を履修しておくことが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1.論文は卒業論文発表会より数週間前に提出するようになる（後日指定）。
3.この科目は実務経験者対応科目である。教授者の研究経験を踏まえて講義する。

【講義概要】

(目的)

1.卒業論文を書き上げることを経験することは、必ず論理的な思考過程を向上させる。研究、卒業研究を通して論理的思考を学ぶことを目的とする。論理的思考の修得は研究活動のみならず、臨床現場における問題解決にも必須となる。
2.当該科目と学位授与方針等との関連：A-3、P-3

(方法)

1.卒業研究は各ゼミ活動の中で行う。
2.中間発表会に参加する。
3.卒業研究発表会に参加する。

【一般教育目標(GIO)】

1. 学生は卒業研究を自分でテーマを設定し、研究計画を作る。倫理審査申請書を作成する。

【行動目標(SBO)】

1. 卒業研究を書き上げるまでの1年間のタイムテーブルと具体的行動目標を作成する。
2. 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成する。
3. 実験結果と文献の照合の反復を行い，“なぜ”“なぜ”と根拠を求める思考習慣をつける。
4. 自身で達成可能な卒業研究の目標をゼミ内で公表する。
5. 研究計画を実行している。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

1. 千住秀明、玉利光太郎：はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ￥4,860
2. 内山　靖、島田　裕之編：理学療法研究法(第3版）、医学書院、￥5,170

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
2. 成績は研究計画書などの進捗状況、ゼミ活動を総合的に科目担当教員、ゼミ担当教員が総合的に評価する。
3. 評価は、単独による研究、2～3人共同による研究、4人以上共同による研究によって、基本的評価点数に一定の割合を乗して最終評価とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	20	20	0	20	40	100
評価指標	取り込む力・知識			10	10				20
	思考・推論・創造の力			10			10	10	30
	コラボレーションとリーダーシップ				10			10	20
	発表力						10	10	20
	学修に取り組む姿勢				0			10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション；卒業論文の作成までの流れを説明する。	講義（小林）	・研究テーマを各自考えておく。 ・担当教員へ相談しに行く。	60分
2-28	ゼミ活動	ゼミ担当教員	・各ゼミで予演を行う。 ・卒業論文は発表前に提出する。	
29-30	卒業研究発表会	演習・全教員	日時は後日発表する	

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法応用ゼミⅠ			【担当教員】	木村　和樹、星野　浩通、伊藤　渉
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 水曜日12:45～13:15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・通年科目です．前期は基礎科目（解剖学，生理学，運動学）に関する基本的知識の向上と臨床評価実習に向けた課題解決を実践します．
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します．臨床でリハビリテーションに従事してきた経験から，理学療法過程に関わる基本的事項について講じ，学習を深めます．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・グループワークを行います．積極的に活動しましょう．
・小テストは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

・1～2年次に学習した内容を振り返り，理学療法実施に必要な総合的な知識と技術を確認するために継続的に学習を進める力を高めることを目的とします．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2,P-3

(方法)

・グループワークや小テストを行い，臨床的な理学療法実践に向けた知識・技術に関する学習内容の復習，確認を行います．

【一般教育目標(GIO)】

・臨床実習に必要な知識・技術を獲得するために計画的に学習することができる．
・国家試験に必要とされる基礎分野の知識を整理し，向上することができる

【行動目標(SBO)】

・理学療法に関する基本的医学的知識をまとめ，他者に説明できる．

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

TRYカコモン 15年分 理学療法士・作業療法士 国家試験 共通基礎問題，アイペック、国試の達人シリーズ（アイペック）、クエスチョンバンク理学療法士作業療法士問題解説（共通，専門）（メディックメディア）、理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント（医歯薬出版）など

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います．出席点は成績評価に含みません．
4月マークシートのテスト15点、6月総復習テスト5点、7月総復習テスト5点、8または9月筆記テスト30点（前期科目試験）、1月口頭試問45点（後期科目試験）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75	25						100
評価指標	取り込む力・知識	30	10						40
	思考・推論・創造の力		5						5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力	45							45
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	マークシートのテスト150問	小テスト	解剖学，生理学，運動学に関する学習（春課題から出題）	90
3-4	領域別テスト　解剖学①	グループワーク前期	解剖学に関する学習（春課題から出題）	90
5-6	領域別テスト　生理学①	グループワーク前期	生理学に関する学習（春課題から出題）	90
7-8	領域別テスト　運動学①	グループワーク前期	運動学に関する学習（春課題から出題）	90
9-10	領域別テスト　解剖学②	グループワーク前期	解剖学に関する学習（春課題から出題）	90
11-12	領域別テスト　生理学②	グループワーク前期	生理学に関する学習（春課題から出題）	90
13-14	領域別テスト　運動学②	グループワーク前期	運動学に関する学習（春課題から出題）	90
15-16	領域別テスト　②と③の総復習	グループワーク前期	解剖学，生理学，運動学に関する学習（春課題から出題）	90

17-18	領域別テスト　解剖学③	グループワーク 前期	解剖学に関する学習（春課題から出題）	90
19-20	領域別テスト　生理学③	グループワーク 前期	生理学に関する学習（春課題から出題）	90
21-22	領域別テスト　解剖学④	グループワーク 前期	解剖学に関する学習（春課題から出題）	90
23-24	領域別テスト　生理学④	グループワーク 前期	生理学に関する学習（春課題から出題）	90
25-26	領域別テスト　③と④の総復習	グループワーク 前期	解剖学，生理学，運動学に関する学習（春課題から出題）	90
27-28	口頭試問対策　①	グループワー 後期	中枢神経疾患，運動器疾患，内部疾患に関する学習	90
29-30	口頭試問対策　②	グループワーク 後期	中枢神経疾患，運動器疾患，内部疾患に関する学習	90

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅥ			【担当教員】　星野　浩通、中川　明仁、長谷川　裕
【授業区分】	教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com, a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12：40～13：20

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は就職後のキャリアデザインについて考える科目です。
選択科目ですが、なるべく履修をすることをすすめます。
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

対面と併用してオンデマンドによる収録も行います
グループワーク等を行うので、主体的な授業への参加を求めます。
不定期に講義の予定が入りますので、必ず日程の確認をお願いします。

【講義概要】

(目的)

就職後のキャリアビジョンについて展望し、キャリアデザインの組み立てについて学ぶ。また、就職後のライフプランの有り方について長期的な視座で学ぶ。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-1、A-2、R-1

(方法)

毎回の授業において、参考資料を基にして、事例を提示しながらディスカッションを重ねる。

【一般教育目標(GIO)】

自分の将来についてのキャリアイメージ持ち、キャリアデザインまたライフプランを考える。

【行動目標(SBO)】

自分のキャリアビジョンを考え、説明することができる。
自分のキャリアデザインを組み立て、ライフプランの設計と関連させながら、説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

なし

【参考書】

新潟リハビリテーション大学Placement Book

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

＊成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
＊レポートとは履歴書等の文章作成能力を評価する。
＊実技とは面接指導による改善点を評価する。
＊ゼミ教員と担当教員が出席の管理と評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価指標	取り込む力・知識						20		20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				40				40
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	就職後のキャリアビジョン	対面とオンデマウンド併用		60
5-8	就職後のキャリアデザインを描いてみる	対面とオンデマウンド併用		60
9-12	就職後のライフプランについて考える（1）	対面とオンデマウンド併用		60
13-15	就職後のライフプランについて考える（2）	対面とオンデマウンド併用		30
			。	

リハビリテーション学科

【科目名】	職場管理学			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法管理学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～金　9:00-17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、職場管理について講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・必須科目ですので全員出席してください。
・レポートは返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法士として勤務する上で、対象者のリスクを把握することは当然のことであり、危機を未然に防ぐマネジメント能力が不可欠です。本授業では臨床に限らず教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般について取り上げ、ディスカッションを含めながら理解を深める。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-3

(方法)

・講義形式は、講義または演習で行います。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法の職場管理において求められる管理業務と臨床教育の基本について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。
・個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、短・中期プランを構築できる。
・教育・研究・地域領域におけるリスク管理ができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

奈良勲：理学療法管理学,医歯薬出版,2018

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、レポートとその他（演習への取り組む姿勢など）により総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 管理・マネジメントの概要	講義	（予習）理学療法士の法律や定義について復習しておく （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
2	理学療法管理学とは 新カリキュラムにおける授業の位置づけ	講義	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
3	組織運営とマネジメント 病院（施設）組織と管理	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
4	理学療法士に必要な職場管理知識	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
5	理学療法業務のマネジメント	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
6	教育・研究のマネジメント	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
7	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
8	リスクマネジメント 疾患別禁忌	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90

9	リスクマネジメント 病期別	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
10	生活期を支える理学療法マネジメント 中枢神経疾患に対する支援	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
11	生活期を支える理学療法マネジメント 内部疾患に対する支援	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
12	生活期を支える理学療法マネジメント 高齢者に対する支援	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
13	インシデント・アクシデント事例	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
14	診療ガイドラインと法的責任	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
15	まとめ 4年生の皆さんへのメッセージ	講義	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	職業倫理			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法管理学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月～金　9:00～17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、職業倫理について講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・レポート課題は返却します。
・授業は、講義および演習で行います。

【講義概要】

(目的)

理学療法士がリハビリテーション医療において、専門職としての役割を果たす上で職業倫理は必要不可欠であり、理学療法士が社会的に信頼される職業として在り続けるためにも倫理を理解し、ルールを遵守、実践していくことが重要です。本授業では職場や研究領域における倫理について取り上げ、ディスカッションを含めながら理解を深める。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-3

(方法)

講義形式は講義と演習（グループワーク）で行います。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法士に必要な職業倫理の基本について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・医療倫理について理解する
・理学療法士として必要な職業倫理について理解する
・研究倫理について理解する

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

・奈良勲：理学療法管理学,医歯薬出版,2018

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、レポートとその他（演習への取り組む姿勢など）により総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション なぜ職業倫理を学ぶのか	講義	（予習）倫理とは何かを調べておく （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
2	倫理・道徳・法について	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
3	理学療法士の職業倫理 倫理網領について	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
4	組織において遵守すべき倫理	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
5	倫理違反をした際の法的措置	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
6	モラルについて考える	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
7	ハラスメントについて考える	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
8	実習指導者として学生に対する指導について	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90

9	SNSと倫理について	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
10	事例を通した倫理トレーニング①	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
11	事例を通した倫理トレーニング②	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
12	事例を通した倫理トレーニング③	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
13	理学療法士と研究倫理①	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
14	理学療法士と研究倫理②	講義・演習	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90
15	まとめ	講義	（予習）前回の授業の振り返り、疑問点の整理まとめ （復習）配布資料や講義の内容を振り返る	90 90

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ理学療法学Ⅱ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	学務課に連絡してください	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 学務課に連絡してください	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

スポーツに関する理学療法に興味のある学生向けですが，身体運動機能障害全般に対して共通する理学療法評価方法や文化としてのスポーツを含めて学習します.
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します．臨床でスポーツ傷害に関わるリハビリテーションやスポーツ活動支援に従事してきた経験から，スポーツと理学療法に関する基本的事項について講じます.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・解剖学，生理学，病理学，組織学，栄養学，整形外科学，運動器疾患理学療法学のみならず，心理学，社会学等の知識を持ち合わせていることが望ましいです.
・スポーツ経験や受傷時の現病歴，既往歴，治療過程などをディスカッションのテーマとすることがあります.
・講義期間中に作成したレポートは返却します.

【講義概要】

(目的)

・現代のスポーツは，性別や年齢を問わず，心身機能の維持・増進に必要な身体活動であるとともに，競技としての専門性も求められます．その場合，急性外傷や慢性障害が理学療法の適応となる場合があります．スポーツに関わる臨床症例を通して，基本的な理学療法の適応や評価・治療の流れを学び，臨床実践に活用することを目的とします.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

・スポーツ傷害の理学療法に必要な基本的知識と評価方法，治療までの流れを学びます.
・スポーツと理学療法の関係性について議論します.
＊オンデマンド講義にて行います.

【一般教育目標(GIO)】

・各種スポーツの特徴と，患者に即した理学療法評価や治療の基本的概念を理解する
・障がい者のスポーツなど競技スポーツ以外のスポーツと理学療法の関連について理解する

【行動目標(SBO)】

・スポーツ傷害と対象者の病態を関連づけ，説明することができる
・対象者の症状や状況に即した理学療法評価について検討し，説明することができる
・対象者に必要な治療，トレーニング，再発予防策，環境設定などをプログラムし，記述することができる
・障がい者のスポーツなど競技スポーツ以外のスポーツと理学療法の関連について自分の考えを述べることができる

【教科書・リザーブドブック】

・解剖学，生理学，組織学，病理学，整形外科学，各疾患別運動療法等の講義・演習で使用したもの

【参考書】

・講義の中で随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います．出席点は評価に含みません.
・提出課題，小テスト，レポート等を総合的に評価します.
・初回講義時に提出課題の評価規準を提示します

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	60					100
評価指標	取り込む力・知識		30	30					60
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	スポーツ傷害概説（1）	小テスト，講義	予習：解剖生理学，組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	60 30
3,4	スポーツ傷害概説（2）	小テスト，講義	予習：解剖生理学，組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
5,6	評価・治療の実際（1）	小テスト，講義	予習：解剖生理学，組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
7,8	評価・治療の実際（2）	小テスト，講義	予習：解剖生理学，組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
9,10	評価・治療の実際（3）	小テスト，講義	予習：解剖生理学，組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
11,12	各種スポーツと理学療法（1）	講義	予習：事前課題 復習：講義内容	30 30
13,14	各種スポーツと理学療法（2）	講義	予習：事前課題 復習：講義内容	30 30
15	まとめ	講義，レポート	復習：講義内容	30

リハビリテーション学科

【科目名】	総合臨床実習			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-19-0720-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	10	【コマ数】	450	(オフィスアワー) 月：11:00-15:30, 水：11:00-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. この科目の履修条件は臨床実習規定第3条（1）に準ずる者のみとする.
2. 学外実習前には，自ら取り組む課題に対して計画を立て，適宜指導教員からの指導のもと，積極的に取り組むこと.
なお，本科目は学内実習に関しては十分な臨床経験（実務経験10年以上）を有する学内教員が担当し，学外実習ではそれぞれの実習施設における十分な臨床経験（実務経験5年以上）を有した理学療法士が指導にあたります.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習要項，その他資料を熟読し，実習前後のオリエンテーションには必ず出席すること.
実習前後のオリエンテーション日時や内容については適宜，ポータルサイト等から連絡をします.
学内実習中はゼミ指導教員からの指導を受けながら，計画書の作成や実技指導，発表指導などを受けます.
学外実習中は実習施設の理学療法士から指導を受け，適宜紙面または口頭でのフィードバックを受けます.

【講義概要】

(目的)

この科目は，学内教育の総括となります．実習指導者の下で，実際の理学療法について学びながら自ら問題を解決できる能力を養います．卒後は即戦力となる専門職になることを自覚し，そのために必要な知識や理学療法士の役割や行動，社会性などを総合的に学びます.
また，担当症例に対する適切な理学療法を実施し，治療経過を観察・記録し，障害像を的確に把握することを学びます.
当該科目と学位授与方針等との関連性：P1,2,3.

(方法)

【学内実習】実習前は実習計画を立て，計画に準じた課題を各自で遂行していきます.
実習後は報告会を行うとともに実習の振り返りを行います．なお，学外実習の前後で客観的能力試験（Objective Structured Clinical Examination；OSCE）および筆記試験（出題内容：理学療法評価＋解剖学＋運動学＋生理学）を実施します.
【学外実習】実習指導者の下，CCS制で理学療法に必要な知識や臨床思考過程を学びます．また担当症例の評価から治療までの一連の流れを指導者管理のもと実施し，障害像を把握します.

【一般教育目標(GIO)】

1. 理学療法士として必要な知識を身につける.
2. 適切な評価を行い，症例に即した治療を指導者管理のもと，実施する.
3. 経過を観察するとともに，記録を残していきます.
4. 治療の効果判定を行います.

【行動目標(SBO)】

1. 必要な知識について自ら述べることができ，疑問点等を自らまたは軽度の助言を得ることで解決できる.
2. 症例に即した評価を円滑に行い，指導者管理のもと，治療を行うことができる.
3. 経過記録を記載し，障害像を把握することができる.
4. 治療の効果判定を行うことができる.

【教科書・リザーブドブック】

実習要綱，その他オリエンテーションを中心に配布する資料.

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う.
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する.
・試験（筆記試験）：20点.　・レポート（デイリー，サマリー）：20点.
・成果発表（実習後報告会）：10点.　　・実技（OSCE＋学外評価参考）：40点.
・ポートフォリオ（多職種連携教育ワークショップ）：10点

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20	10	40	10		100
評価指標	取り込む力・知識	10		5		5			20
	思考・推論・創造の力	10		10		10	5		35
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			5		20	5		30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-45	学内実習 実習前後：客観的能力試験（Objective Structured Clinical Examination；OSCE），筆記試験 実習前：症例検討（整形疾患あるいは中枢神経疾患）	実技，座学 あるいはweb	参考書および科目教本	
46-90	学外実習（1週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート	
91-135	学外実習（2週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート	
136-180	学外実習（3週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート	
181-225	学外実習（4週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート	
226-270	学外実習（5週目）□ 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート	
271-315	学外実習（6週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート サマリー	
316-360	学外実習（7週目）□ 理学療法見学、症例のまとめ	実技	デイリーノート サマリー	

361-405	学外実習（7週目）□ 理学療法見学、症例のまとめ	実技	デイリーノート サマリー	
406-450	学内実習（8週目） 実習後報告・総括 振り返り.	実技・演習	レポート，パワーポイント	

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法トピックスⅠ			【担当教員】	金子　巧
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-17-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	kaneko@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)月　12:45-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は実務経験者対応科目です。臨床経験を積んだ理学療法士が、中枢神経疾患の理学療法を中心に最近の知見について、分かり易く講じていきます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テスト、レポートについては、返却します。

予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。

【講義概要】

(目的)

最近の理学療法学の進歩をいち早く知るためトピックスとなる治療手技や理論を学修することを目的とする。この科目では主に中枢神経疾患の理学療法を扱う。

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3

(方法)

治療法の基礎的理論を紹介するとともに、実習・演習を通して臨床への活用を学ぶ。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経疾患を中心とした近年の理学療法について理解する

【行動目標(SBO)】

・ステージ理論について説明できる
・各ステージに適した理学療法技術について説明、基本技術が実施できる

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、小テスト、レポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			10	80				10	100
評価指標	取り込む力・知識		10	40					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 後期	オリエンテーション 脳の新しい知見の紹介と中枢神経疾患に対する理学療法	講義	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
2 後期	運動麻痺は6ヶ月以降でも回復する？ ステージ理論とは何か？	講義・演習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
3 後期	臨床で使用される評価方法 －実習でも役立つ新しい評価トピックス	講義・実習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
4 後期	クリニカルリーズニングに基づく治療技術 ー脳画像と歩行の関係について	講義・実習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
5 後期	クリニカルリーズニングに基づく治療技術 ー高次脳機能に対する知見	講義・実習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
6 後期	クリニカルリーズニングに基づく治療技術 -筋緊張に関して	講義・演習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
7 後期	中枢神経疾患に対するあたらしい治療技術紹介 ・歩行訓練ロボットの臨床応用 ・電気刺激（神経筋電気刺激、TENS)や振動刺激を用いた理学療法	講義・演習	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45
8 後期	まとめ	講義 レポート	(予習) 前回の講義を復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	45

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法トピックスⅡ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-16-0595-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)水，金：10:00-16:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法士としては疼痛に関する知識はとても重要です．運動器系の科目では教えていない疼痛に特化したことが学べる科目です．
本科目を担当するのは実務経験10年以上（経験領域：運動器疾患，中枢神経疾患，急性期，回復期，生活期等）の理学療法士資格を有する教員が担当します．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

臨床を想定した内容構成となっています．また，各講義後の確認テストは講義資料最後に確認テスト読み取りQRコードを表示しておくので，講義内容を確認後，必ず確認テストを行うこと．確認テストの回答は出欠席の確認の意味もあり，出席不足の場合（1/3以上の欠席），科目認定試験を受験できなくなります．テスト回答は必ず忘れずに行うようしてください．
なお，講義時間の半分以上はディスカッションしますので，下記講義スケジュールに沿った内容の予習をすると内容理解が進みます．

【講義概要】

(目的)

・疼痛に関わる社会的な問題(疼痛関連疾患でどれほどの負担をしているのか)
・疼痛の意義について
・疼痛が生じるメカニズムについて
・疼痛メカニズムに基づく効果的な理学療法
当該科目と学位授与方針との関連性；P1,2,3.

(方法)

指定教科書およびスライド資料を活用します．なお，スライド資料はTeams内ファイルに収納しておきます．各自，ダウンロードして使用してください．なお，ダウンロード後に私用等で利用することは禁じます．学修目的のみに利用してください．
講義後にはその日の講義内容に準じた確認テストを行います．
※講義資料は全てTeamsの当該科目内に収納し，対面講義を受講できない際はそちらから確認テストを回答することで講義内容を理解し，出席したと認める事もある．その際は当該講義の少なくとも3日前には科目担当に事前連絡する事．

【一般教育目標(GIO)】

本科目で学んだ内容を臨床でも活用できるよう，疼痛に関する知識を深め，理学療法の実践へ導くことができる．

【行動目標(SBO)】

以下の内容について，自己理解の上で説明ができる．
・疼痛メカニズムについて
・疼痛に関する理学療法について
・疼痛に対する

【教科書・リザーブドブック】

沖田実，松原貴子：ペイン・リハビリテーション入門．三輪書店．（3,500円＋税）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準等は，本学学則規定のGPA制度に従う．
・試験：筆記試験
・小テスト：確認テスト（講義後に同日の講義内容範囲として理解の程度を確認します）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・科目オリエンテーション. ・痛みの定義，概念. ・事例検討	形式：講義，試験 対面	p2-7 ・急性痛と慢性痛 ・疼痛行動 ・疼痛回避モデル	90分
3,4	・痛みの神経生理学 ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	p10-20 ・侵害受容器 ・疼痛感覚の神経経路 ・疼痛抑制系	90分
5,6	・痛みの発生メカニズム ・痛みのリハビリテーション評価の考え方 ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	p23-32 ・疼痛のタイプ（3種類） ・不活動性疼痛	90分
7,8	・各種疼痛関連評価 ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	p42-59 ・VAS，NRS，Pain DITECT，PDAS，HADS，PCS，EQ5D	90分
9,10	・急性痛に対するリハビリテーション ・急性痛に対するマネジメント ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	p64-70 ・マネジメント ・運動療法	90分
11,12	・慢性疼痛に対するリハビリテーション ・慢性疼痛に対するマネジメント ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	p72-91 ・アルゴリズム ・エビデンス ・CBT	90分
13,14	・特殊疼痛に対するマネジメント ・事例検討 ・小テスト（5問程度）	形式：講義，試験（Teams収録資料の視聴・テスト）	臨床推論	90分
15	期末試験（筆記）	試験	毎回の小テストの範囲からも出題します.	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法卒業研究Ⅱ			【担当教員】 小林　量作、長島　裕子、若菜　翔哉、高橋　明美、星野　浩通、木村　和樹、伊藤　渉、北村　拓也、金子　巧
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0760-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～水 12:40-13:30 16:00-17:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1.「理学療法研究法Ⅰ」「理学療法研究法Ⅱ」「理学療法研究法Ⅲ」「理学療法卒業研究Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1.ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうことが必要である。
2.論文は卒業論文発表会より数週間前に提出するようになる（後日指定）。
3.この科目は実務経験者対応科目である。教授者の研究経験を踏まえて講義する。

【講義概要】

(目的)

1.卒業論文を書き上げることを経験することは、必ず論理的な思考過程を向上させる。研究、卒業研究を通して論理的思考を学ぶことを目的とする。論理的思考の修得は研究活動のみならず、臨床現場における問題解決にも必須となる。
2.当該科目と学位授与方針等との関連：A-3、P-3

(方法)

1.卒業研究は各ゼミ活動の中で行う。
2.中間発表会を行う。

【一般教育目標(GIO)】

1. 学生は卒業研究を自分でテーマを設定し、研究計画を作り、研究を実施、結果をまとめ、考察を加えて卒業論文を仕上げる．この経験によって研究の方法を体験する，論理的思考を身に付ける，論理的文章を書くことが目標になる。

【行動目標(SBO)】

1. 卒業研究を書き上げるまでの1年間のタイムテーブルと具体的行動目標を作成する。
2. 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成する。
3. 実験結果と文献の照合の反復を行い，“なぜ”“なぜ”と根拠を求める思考習慣をつける。
4. 自身で達成可能な卒業研究の目標をゼミ内で公表する。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

1. 千住秀明、玉利光太郎：はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ￥4,860
2. 内山　靖、島田　裕之編：理学療法研究法(第3版）、医学書院、￥5,170

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
2. 出席点は評価にふくまない。
3. 成績はレポー卒業論文、成果発表など総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	0	70	0	10	20	100
評価指標	取り込む力・知識				10		0		10
	思考・推論・創造の力				30				30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				30			10	40
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション；卒業論文の作成までの流れを説明する。	講義（小林）	・研究テーマを各自考えておく。 ・担当教員へ相談しに行く。	60分
2-14	ゼミ活動	ゼミ担当教員		60
15-16	中間発表会	演習・全教員	決定したら知らせる。	
17-30	ゼミ活動	ゼミ担当教員	・各ゼミで予演を行う。 ・卒業論文は発表前に提出する。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法卒業研究Ⅲ			【担当教員】 高橋　明美、小林　量作、長島　裕子、若菜　翔哉、星野　浩通、木村　和樹、伊藤　渉、北村　拓也、金子　巧
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0760-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～水 16:30-18:00　12:40-13:30

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1. 「理学療法研究法Ⅰ」「理学療法研究法Ⅱ」「理学療法研究法Ⅲ」「理学療法卒業研究Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1. 論文は卒業論文発表会より数週間前に提出するようになる（後日指定）。
2. この科目は実務経験者対応科目である。教授者の研究経験を踏まえて講義する。

【講義概要】

(目的)

1. 卒業論文を書き上げることを経験することは、必ず論理的な思考過程を向上させる。研究、卒業研究を通して論理的思考を学ぶことを目的とする。論理的思考の修得は研究活動のみならず、臨床現場における問題解決にも必須となる。
2. 当該科目と学位授与方針等との関連：A-3、P-3

(方法)

1. 卒業研究は各ゼミ活動の中で行う。
2. 卒業研究発表会を行う。

【一般教育目標(GIO)】

1. 学生は卒業研究を自分でテーマを設定し、研究計画を作り、研究を実施、結果をまとめ、考察を加えて卒業論文を仕上げる．この経験によって研究の方法を体験する，論理的思考を身に付ける，論理的文章を書くことが目標になる。

【行動目標(SBO)】

1. 卒業研究を書き上げるまでの1年間のタイムテーブルと具体的行動目標を作成する。
2. 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成する。
3. 実験結果と文献の照合の反復を行い，“なぜ”“なぜ”と根拠を求める思考習慣をつける。
4. 卒業研究発表を行う。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

1. 千住秀明、玉利光太郎：はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ￥4,860
2. 内山　靖、島田　裕之編：理学療法研究法(第3版）、医学書院、￥5,170

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)

1. 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
2. 成績は研究計画書などの進捗状況、ゼミ活動を総合的に科目担当教員、ゼミ担当教員が総合的に評価する。
3. 評価は、単独による研究、2～3人共同による研究、4人以上共同による研究によって、基本的評価点数に一定の割合を乗して最終評価とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	0	80	0	10	10	100
評価指標	取り込む力・知識				10		0	0	10
	思考・推論・創造の力				30		0	0	30
	コラボレーションとリーダーシップ				0		0	10	10
	発表力				40		0	0	40
	学修に取り組む姿勢				0		10	0	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション；卒業論文の作成までの流れを説明する。	講義（小林）	・研究テーマを各自考えておく。 ・担当教員へ相談しに行く。	60分
2-24	ゼミ活動	ゼミ担当教員	・各ゼミ教員による指導。	60分
25-28	卒業研究発表会	演習・全教員	・日時は決定したら周知する。	120分
29-30	卒論論文提出	ゼミ担当教員	・日時は決定したら周知する。	

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法応用ゼミⅡ			【担当教員】 木村 和樹、小林 量作、長島 裕子、若菜 翔哉、高橋 明美、星野 由通、伊藤 涼、北村 拓也、金子 巧、押木 利英子、（無効）西倉 尊
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	60コマ	(オフィスアワー) 月曜日　9:00～15:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

国家試験対策プログラムを実施するため、指定された日時・学内模試および業者模試にはやむを得ない事情を除き、出席することを原則とする。細かスケジュールなどはオリエンテーション時に冊子を配布する。
＊この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床でリハビリテーションに従事してきた経験から、理学療法過程に関わる基本的事項について講じ、学習を深めます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・科目に関する質問等は、オフィスアワーに行う。
・学内模試および業者模試は必ず受験すること。（業者模試の費用は授業料と別に徴収する）
・ゼミ出席は、ゼミ教員が管理し別に記録するものとする。
・その他、成績不良者については専攻教員から補習・課題が指示された場合は必ず出席すること。
・3-32コマはゼミ教員と少人数でグループ活動、個別指導を行う。

【講義概要】

(目的)

・1、2、3、4年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強していく目安とする。学生全体に不十分な科目を発見し4年における補修や補強のための情報を得る。また、卒業に値する十分な力が備わっているかを判定する。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,P-2,P-3

(方法)

・方針やスケジュールはオリエンテーションで説明する。
・国家試験の過去問題を中心に実践的なトレーニングをする。
・苦手な分野は分析シートを用いて、振り返りを行う。
・ゼミ活動などで過去問題や頻出のキーワードを整理する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学で学んだ基礎医学、臨床医学、理学療法学を統合し、理学療法士になるための必要な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

・基礎医学・臨床医学、理学療法学についてキーワードを上げ、説明できる。
・基礎医学、臨床医学、理学療法学の問いについて正しい回答ができる。
・自己分析をして、苦手分野を理解、克服することができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

・TRY カコモン 理学療法士専門問題（アイペック）
・TRY カコモン 理学療法士・作業療法士共通問題（アイペック）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績判定基準は本学学則規定のGPA制度に従って評定する。
・科目の合格基準は学内と業者模試を小テストとして実施し、1月中旬までに総合的に判断する。
・合格基準に満たない場合は、2月初旬まで継続的に指導を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			100						100
評価指標	取り込む力・知識		60						60
	思考・推論・創造の力		40						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション (国家試験の傾向と対策方法について)	講義	スケジュールを確認し、国家試験対策に対して計画を立てること。	30
3-32	ゼミ教員とのゼミ活動、個別指導	座学	ゼミ教員と予定を立てて、学習を進めていく。	120
33-38	学外模試　①　午前の部、午後の部、見直し	座学	苦手領域の分析と対策を行う。	120
39-40	学習の進捗状況の確認	座学	国家試験の受験申請に不備が無いように準備をしておく。	120
41-42	学習の進捗状況の確認	座学	国家試験の受験申請に不備が無いように準備をしておく。	120
43-48	学外模試　②　午前の部、午後の部、見直し	座学	苦手領域の分析と対策を行う。	120
49-54	学外模試　③　午前の部、午後の部、見直し	座学	苦手領域の分析と対策を行う。	120
54-58	学外模試　実地　午前の部、見直し	座学	苦手領域の分析と対策を行う。	120

59-60	学習の進捗状況の確認	座学	国家試験の留意事項の説明も行う。	120